

取手市  
在宅介護実態調査  
結果報告書

令和5年8月  
取手市



# 目 次

<b>I 調査の概要</b> .....	1
1 調査の目的.....	3
2 調査の対象と回収状況.....	3
3 調査の方法.....	3
4 調査の実施時期.....	3
5 報告書の表記及び注意点について.....	3
<b>II 調査結果【在宅介護実態調査 単純集計結果】</b> .....	5
A票 調査対象者ご本人について.....	7
B票 主な介護者、もしくはご本人にご回答・ご記入頂く項目.....	11
要介護認定データ .....	14
<b>II 調査結果【在宅介護実態調査 クロス集計結果】</b> .....	19
1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討.....	21
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討.....	48
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討.....	64
4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討 .....	70
5 サービス未利用の理由など .....	82



# I 調査の概要



## 1 調査の目的

令和6年度から8年度までを計画期間とする「第10期取手市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」策定の基礎資料とするため、要支援・要介護認定者を対象に介護者の抱える不安や就労状況等を把握し、高齢者等の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続の実現に向けた介護サービスの在り方を分析することを目的として実施しました。

## 2 調査の対象と回収状況

調査対象は以下のとおり。

区分	調査対象者	配布数	回収数	回収率
在宅介護実態調査	65歳以上で要支援・要介護認定を受けている方(施設入所している方を除く) 調査基準日:令和5年1月25日	1,328件	694件	52.3%

## 3 調査の方法

認定調査員による調査票の配布・郵送による調査票の回収

郵送による調査票の配布・回収

## 4 調査の実施時期

令和5年2月24日～5月31日

## 5 報告書の表記及び注意点について

- (1)回答は、各質問の回答該当者数を基数とした百分率(%)で示している。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2)複数回答を許している回答項目については、その項目に対して有効な回答をした者の数を基数として比率算出を行っているので、回答比率の合計は100.0%を超える。
- (3)説明文及びグラフで、選択肢の語句を一部簡略化して表している。
- (4)グラフでは、その設問に対して回答することのできる対象者数を「n」と表記し、その数を表している。
- (5)単数回答の設問については、グラフ全体を1つのクロス集計表として扱って独立性の検定を行い、その結果をグラフタイトルの脇に示している。また、複数回答の設問については、選択肢ごとに、その選択肢を選択するか否かについて集計したクロス集計表として扱って独立性の検定を行い、その結果を各選択肢の脇に示している。なお検定結果の記号は次の内容を意味している。「\*\*\*」:0.1%水準で有意な差がある、「\*\*」:1%水準で有意な差がある、「\*」:5%水準で有意な差がある、「+」:10%水準で有意な差がある  
そのほか、「★」:アンケート調査票の任意項目(オプション項目)を意味している。





## Ⅱ 調査結果

### 【在宅介護実態調査 単純集計結果】

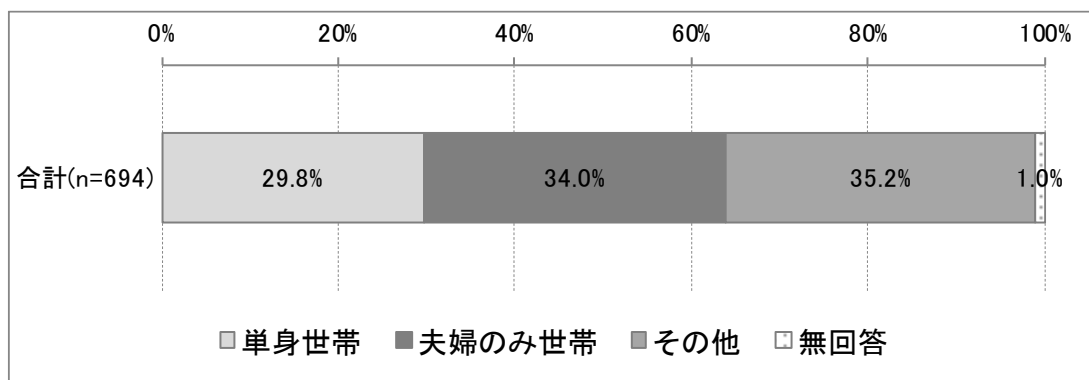


## A票 調査対象者ご本人について

### (1) 世帯類型

「その他」の割合が最も高く35.2%となっている。次いで、「夫婦のみ世帯(34.0%)」、「単身世帯(29.8%)」となっている。

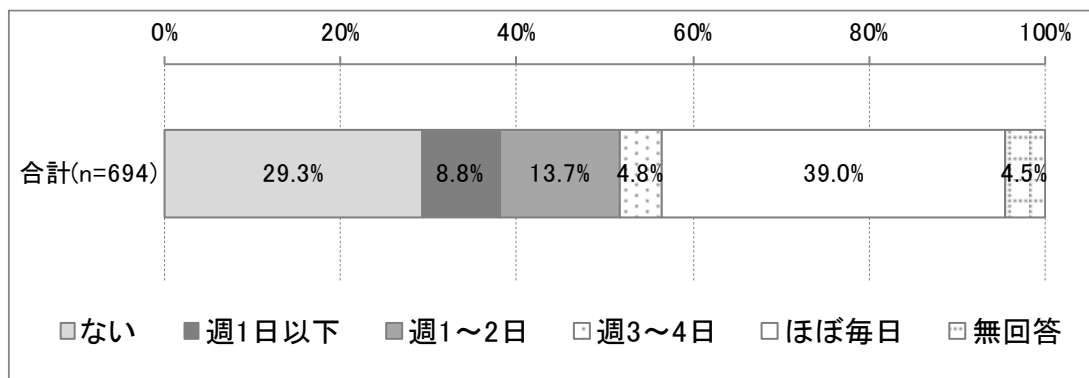
図表1-1 世帯類型(単数回答)



### (2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く39.0%となっている。次いで、「ない(29.3%)」、「週1～2日(13.7%)」となっている。

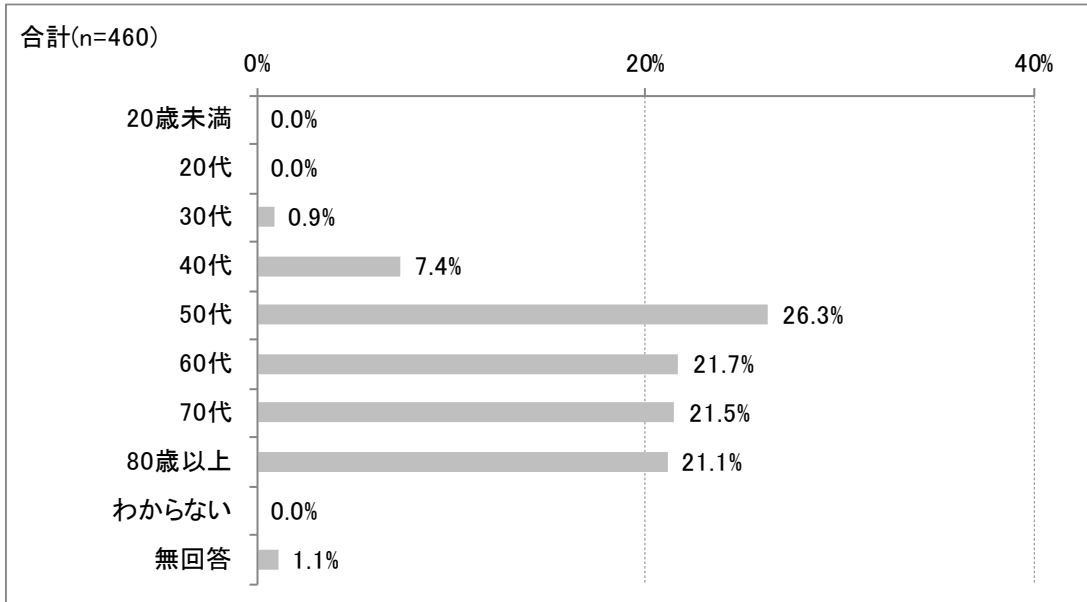
図表1-2 家族等による介護の頻度(単数回答)



(3) 主な介護者の年齢

「50代」の割合が最も高く26.3%となっている。次いで、「60代(21.7%)」、「70代(21.5%)」となっている。

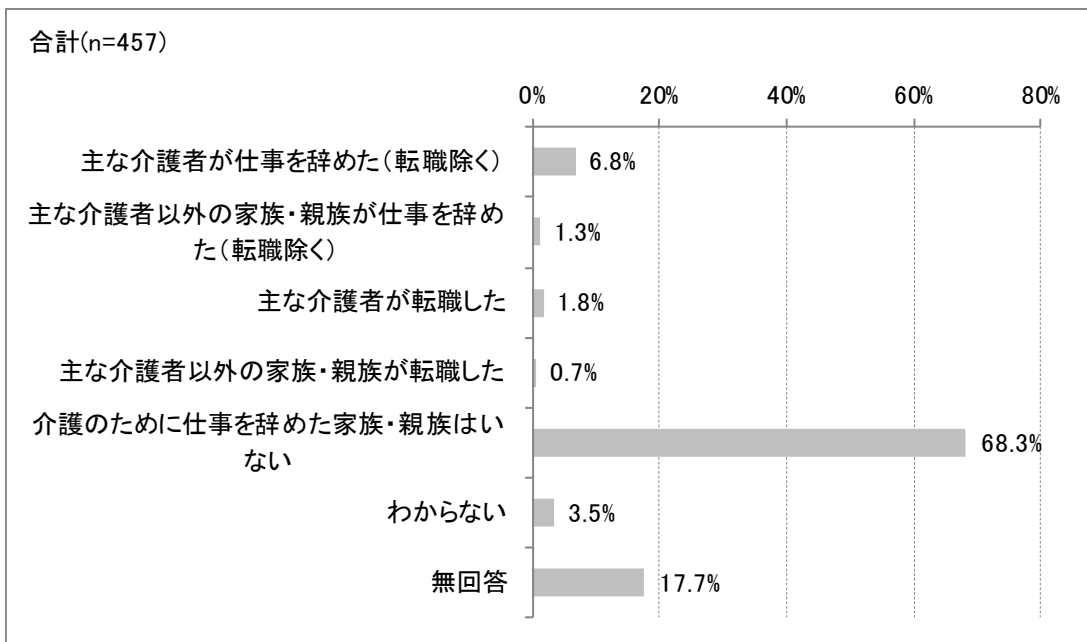
図表1-2 主な介護者の年齢(単数回答)



(4) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く68.3%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)(6.8%)」、「わからない(3.5%)」となっている。

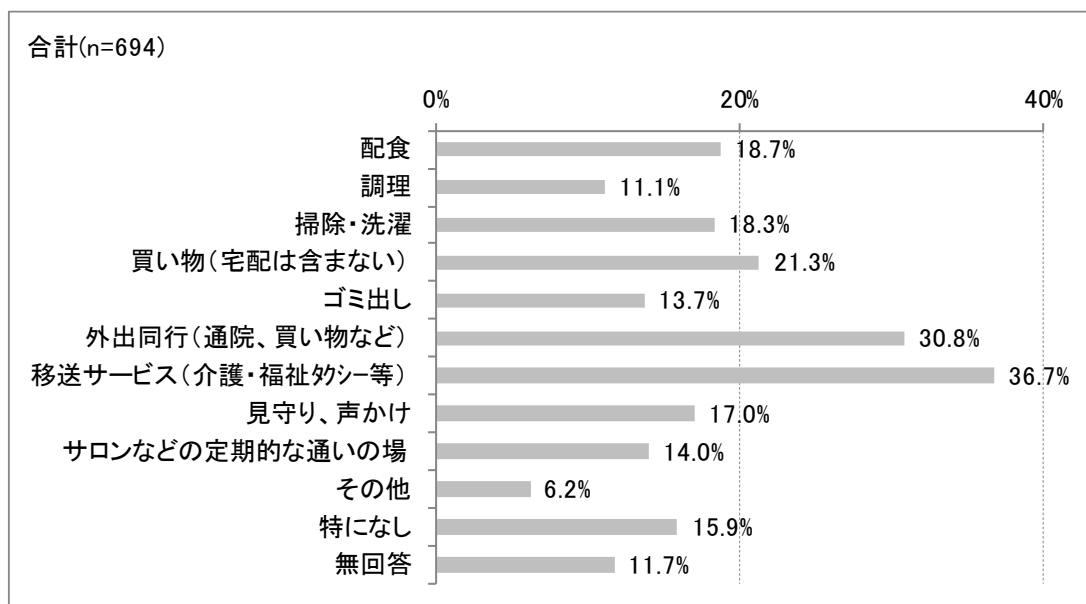
図表1-3 介護のための離職の有無(複数回答)



(5) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」の割合が最も高く36.7%となっている。次いで、「外出同行(通院、買い物など)(30.8%)」、「買い物(宅配は含まない)(21.3%)」となっている。

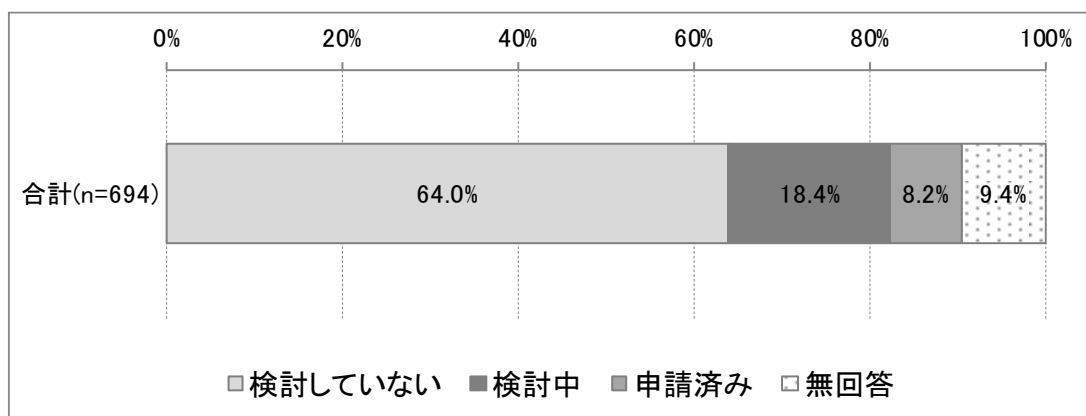
図表1-4 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス(複数回答)



(6) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く64.0%となっている。次いで、「検討中(18.4%)」、「申請済み(8.2%)」となっている。

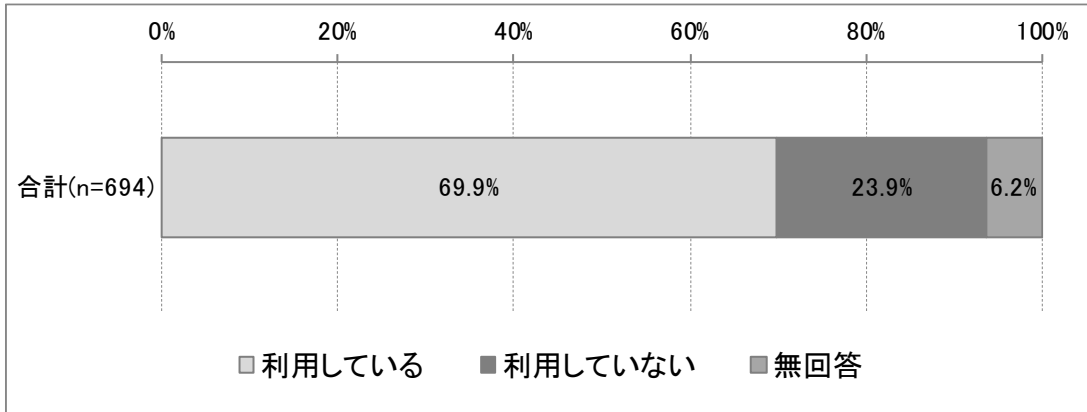
図表1-5 施設等検討の状況(単数回答)



(7) 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」の割合が最も高く69.9%となっている。次いで、「利用していない(23.9%)」となっている。

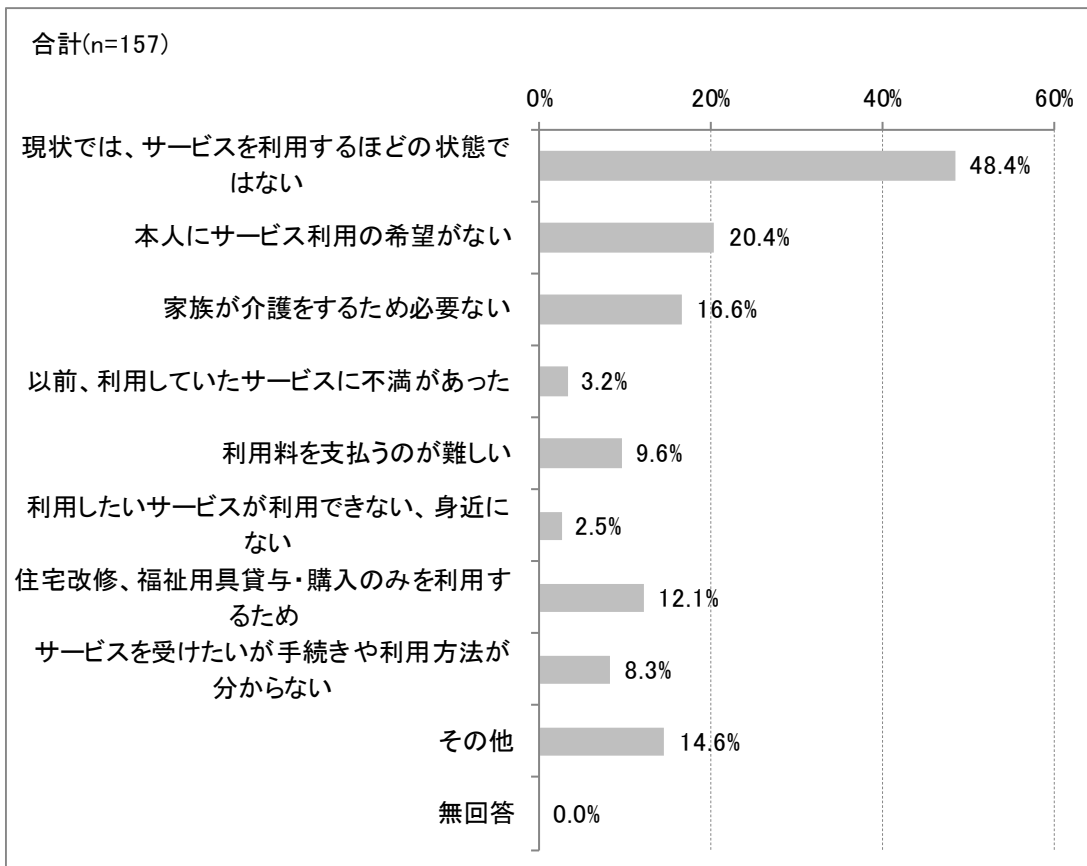
図表1-6 ★介護保険サービスの利用の有無(単数回答)



(8) 介護保険サービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く48.4%となっている。次いで、「本人にサービス利用の希望がない(20.4%)」、「家族が介護をするため必要ない(16.6%)」となっている。

図表1-7 ★介護保険サービスの未利用の理由(複数回答)

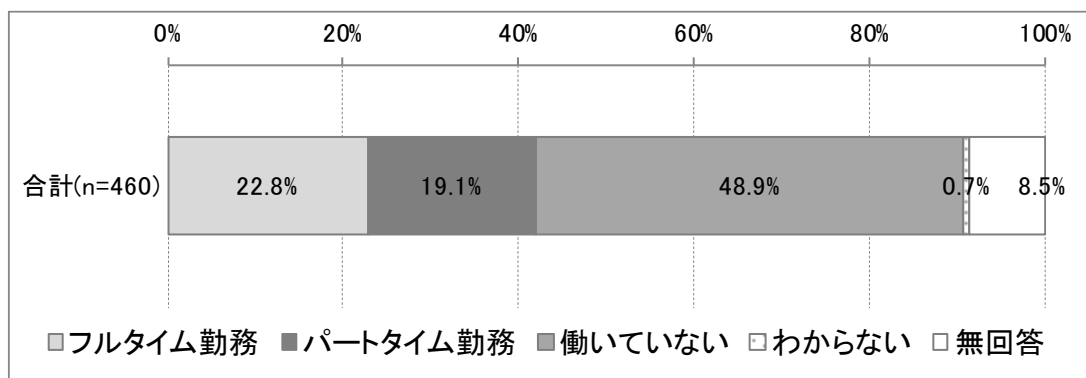


## B票 主な介護者、もしくはご本人にご回答・ご記入頂く項目

### (1) 主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く48.9%となっている。次いで、「フルタイム勤務(22.8%)」、「パートタイム勤務(19.1%)」となっている。

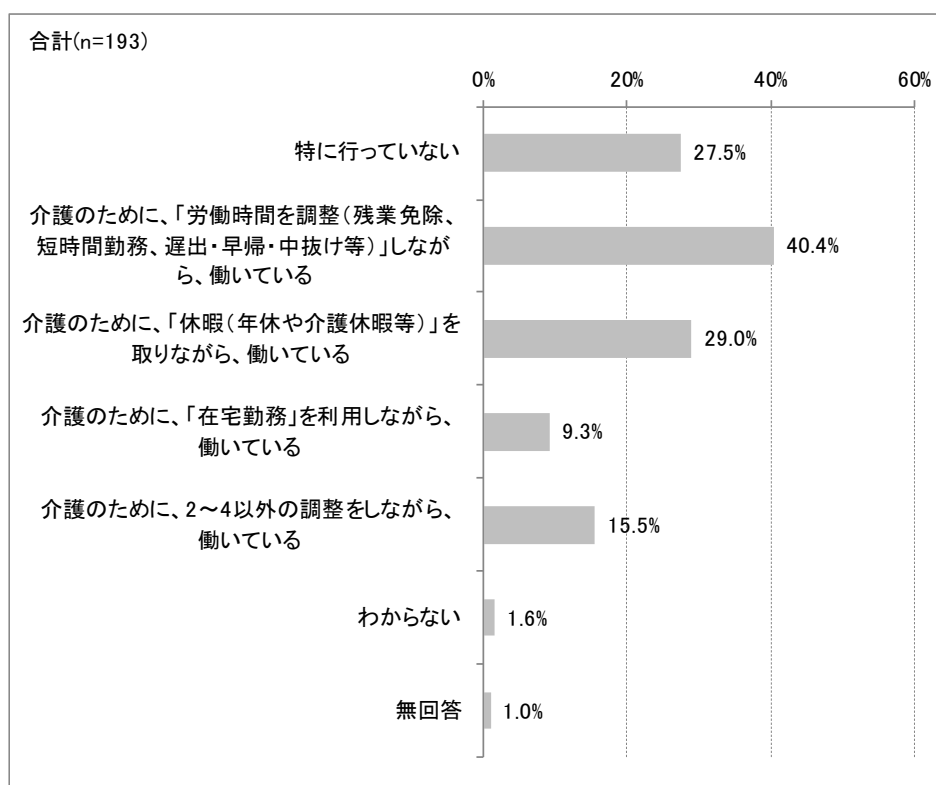
図表2-1 主な介護者の勤務形態(単数回答)



### (2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」の割合が最も高く40.4%となっている。次いで、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている(29.0%)」、「特に行っていない(27.5%)」となっている。

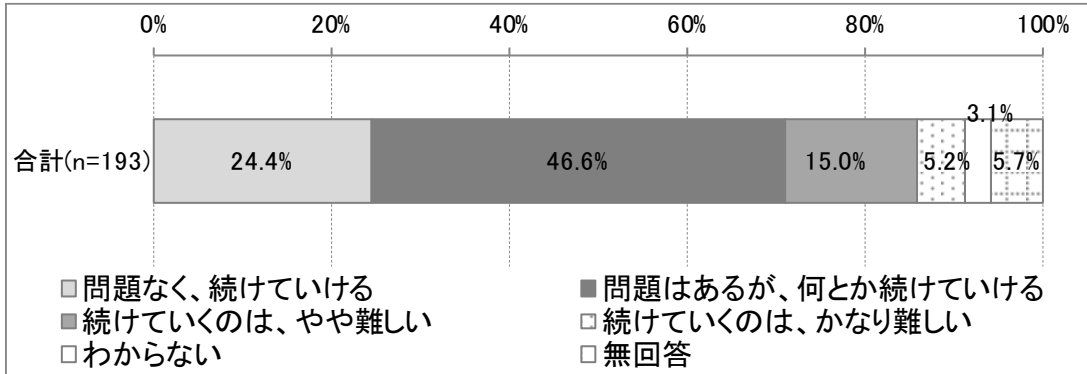
図表2-2 主な介護者の働き方の調整状況(複数回答)



(3) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く46.6%となっている。次いで、「問題なく、続けていける(24.4%)」、「続けていくのは、やや難しい(15.0%)」となっている。

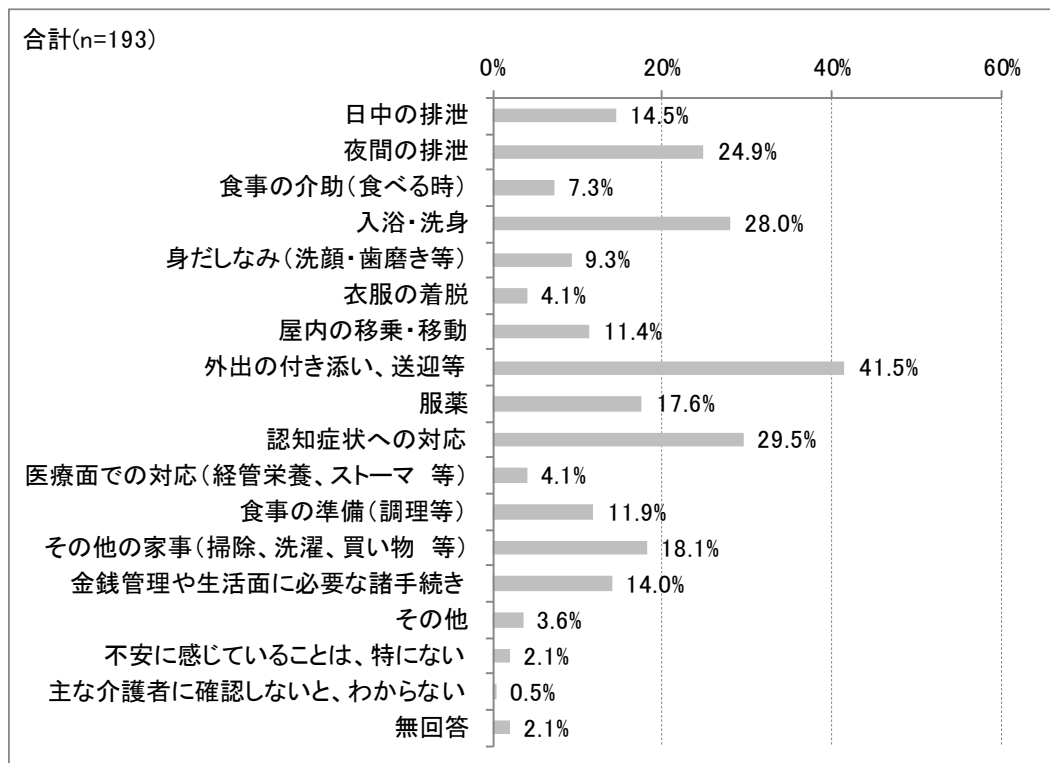
図表2-3 主な介護者の就労継続の可否に係る意識(単数回答)



(4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護

「外出の付き添い、送迎等」の割合が最も高く41.5%となっている。次いで、「認知症状への対応(29.5%)」、「入浴・洗身(28.0%)」となっている。

図表2-4 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護(複数回答)

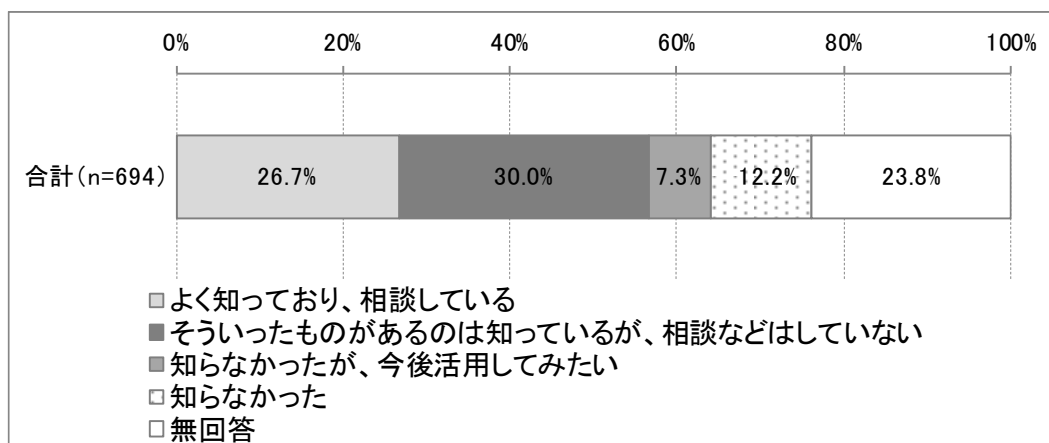




## (5) 地域包括支援センターの認知度

地域包括支援センターは地域で暮らす高齢者の皆様をさまざまな面から支えるための相談機関となっていることを知っているか尋ねたところ、「そういったものがあるのは知っているが、相談などはしていない」の割合が最も高く30.0%となっている。次いで、「よく知っており、相談している(26.7%)」、「知らなかった(12.2%)」となっている。

図表2-5 地域包括支援センターの認知度(単数回答)

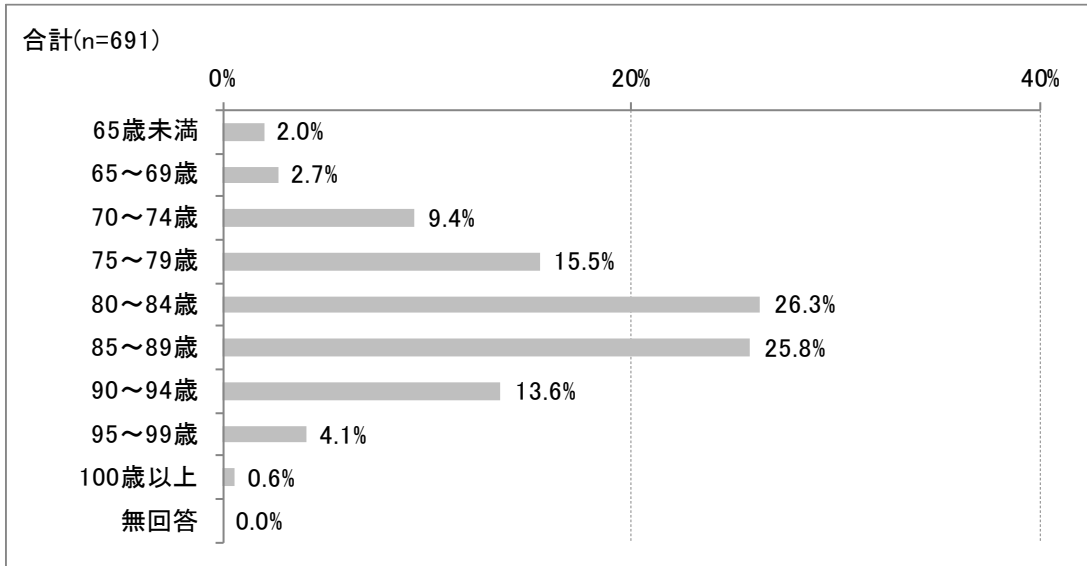


## 要介護認定データ

### (1) 年齢

「80～84歳」の割合が最も高く26.3%となっている。次いで、「85～89歳(25.8%)」、「75～79歳(15.5%)」となっている。

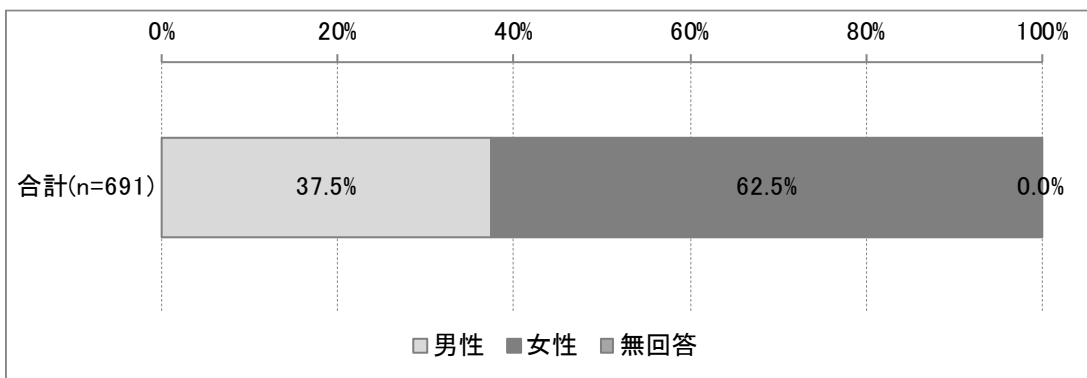
図表3-1 年齢



### (2) 性別

「女性」の割合が最も高く62.5%となっている。次いで、「男性(37.5%)」となっている。

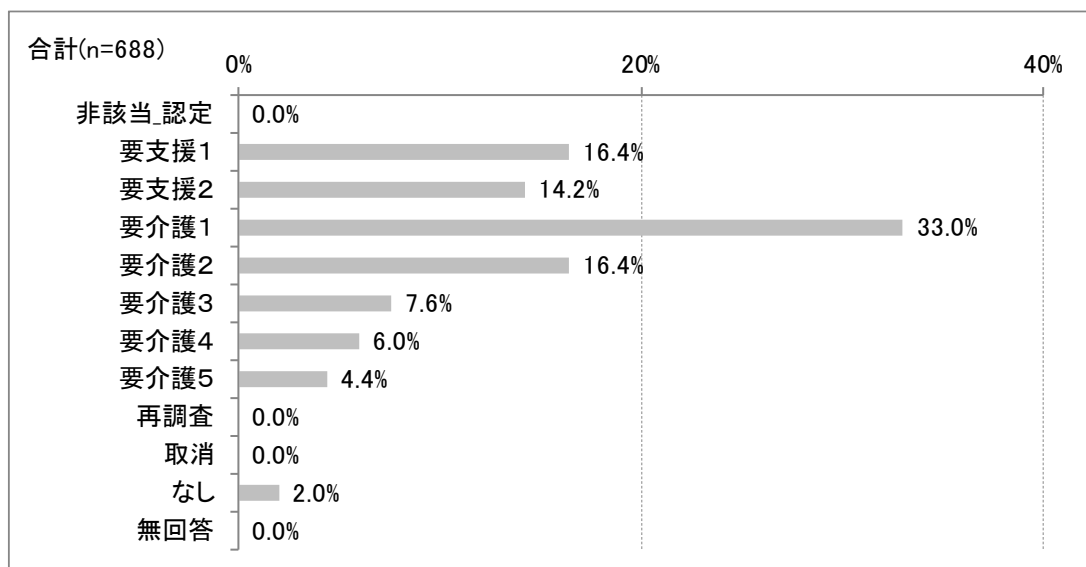
図表3-2 性別



(3) 二次判定結果(要介護度)

「要介護1」の割合が最も高く33.0%となっている。次いで、「要支援1(16.4%)」、「要介護2(16.4%)」、「要支援2(14.2%)」となっている。

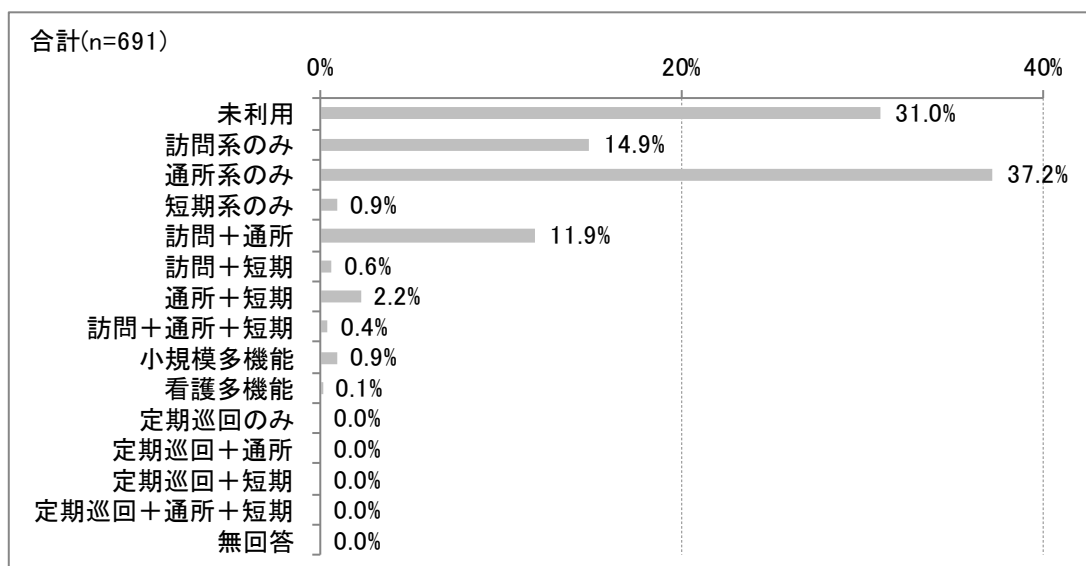
図表3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」の割合が最も高く37.2%となっている。次いで、「未利用(31.0%)」、「訪問系のみ(14.9%)」となっている。

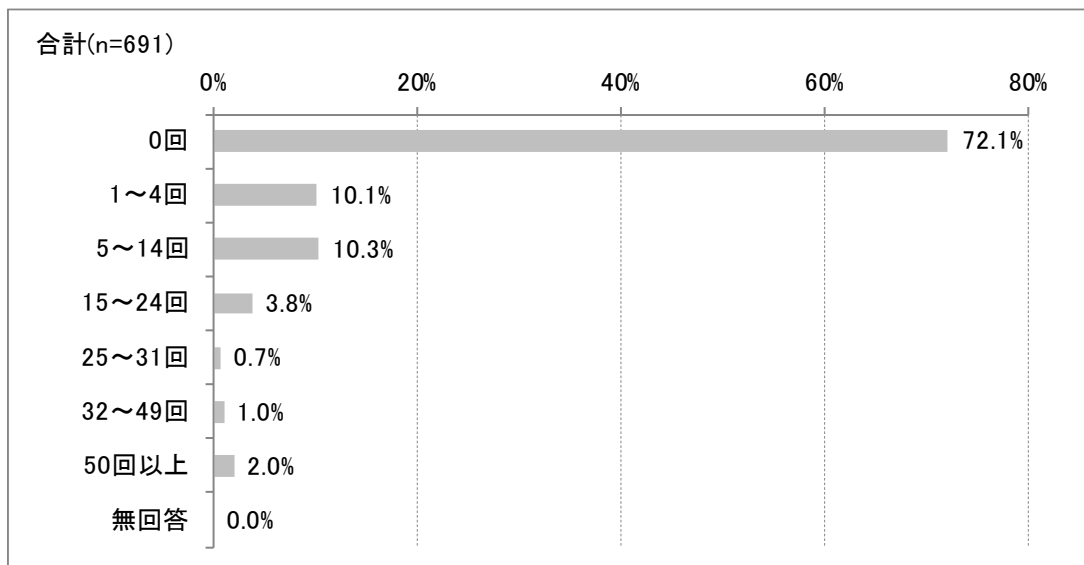
図表3-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く72.1%となっている。次いで、「5～14回(10.3%)」、「1～4回(10.1%)」となっている。

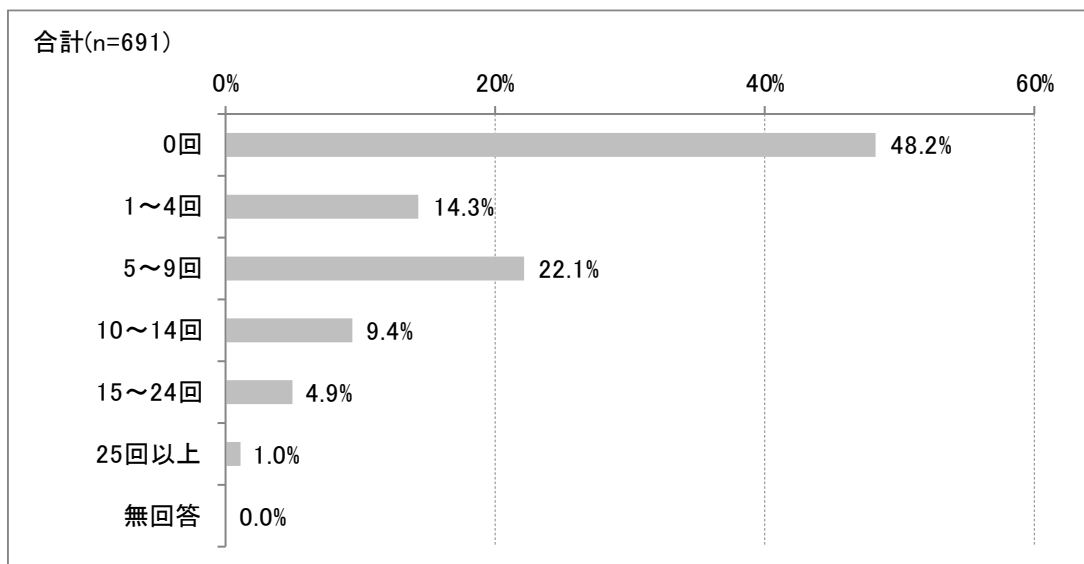
図表3-5 サービスの利用回数(訪問系)



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く48.2%となっている。次いで、「5～9回(22.1%)」、「1～4回(14.3%)」となっている。

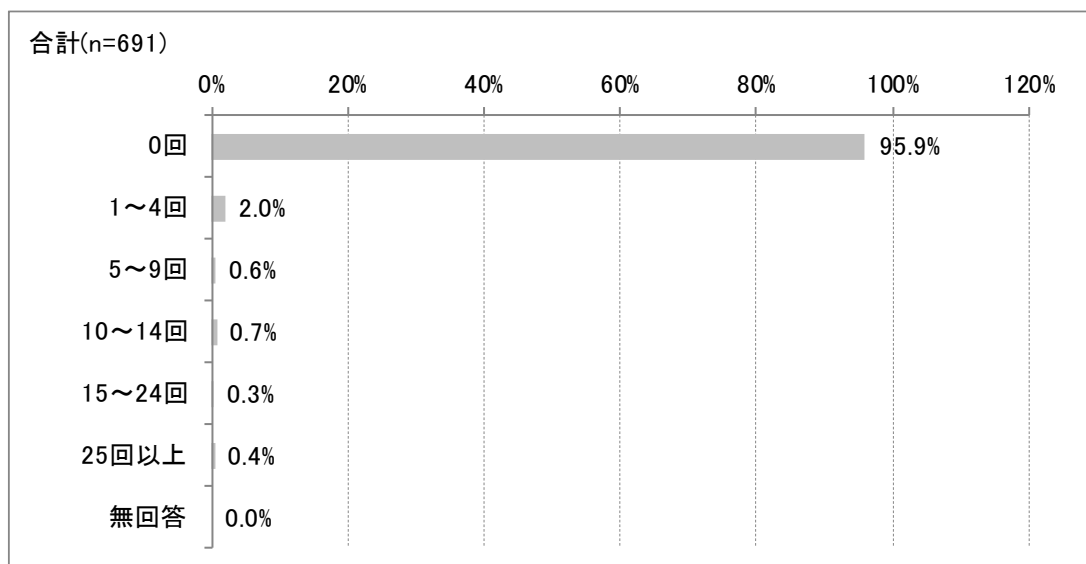
図表3-6 サービスの利用回数(通所系)



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く95.9%となっている。次いで、「1～4回(2.0%)」、「10～14回(0.7%)」となっている。

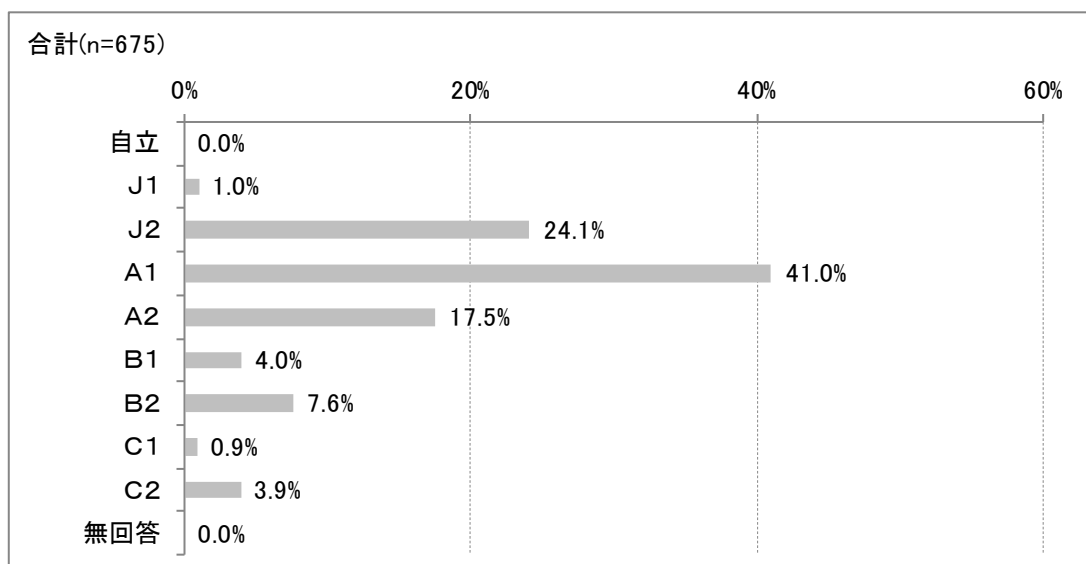
図表3-7 サービスの利用回数(短期系)



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「A1」の割合が最も高く41.0%となっている。次いで、「J2(24.1%)」、「A2(17.5%)」となっている。

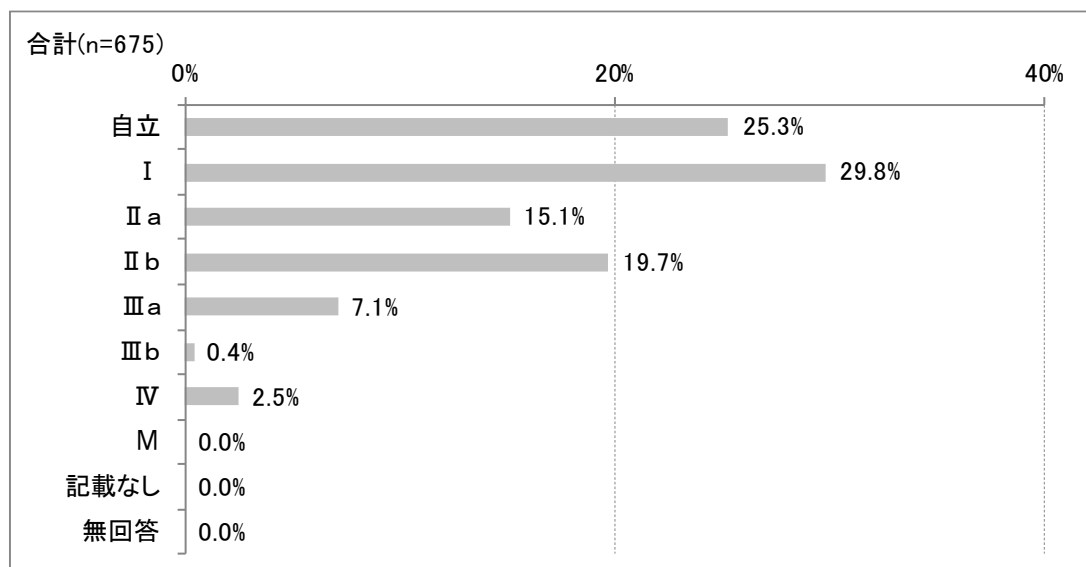
図表3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「Ⅰ」の割合が最も高く29.8%となっている。次いで、「自立(25.3%)」、「Ⅱb(19.7%)」となっている。

図表3-9 認知症高齢者の日常生活自立度



## Ⅱ 調査結果

### 【在宅介護実態調査 クロス集計結果】





# 1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

## 1.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができるのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

## 1.2 集計結果と着目すべきポイント

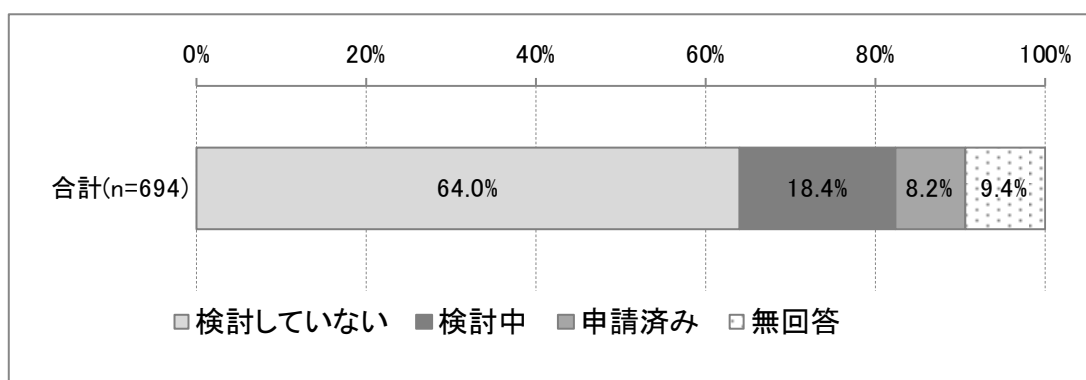
### (1) 基礎集計

- 施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っています(図表1-1～図表1-3)。
- 要介護度の重度化に伴う、施設等検討状況の変化や世帯類型ごとの施設等検討状況についてその状況を確認してください。

#### 【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く64.0%となっている。次いで、「検討中(18.4%)」、「申請済み(8.2%)」となっている。

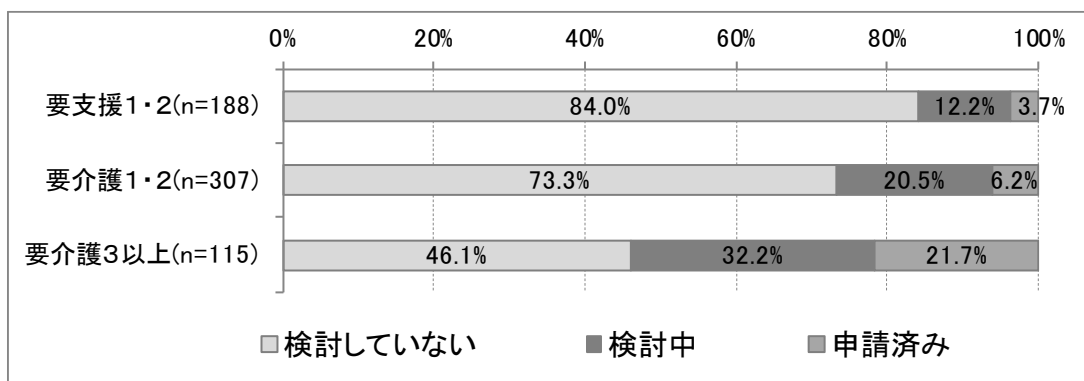
図表1-1 施設等検討の状況



【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が84.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が12.2%、「申請済み」が3.7%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が73.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.5%、「申請済み」が6.2%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が46.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が32.2%、「申請済み」が21.7%となっている。

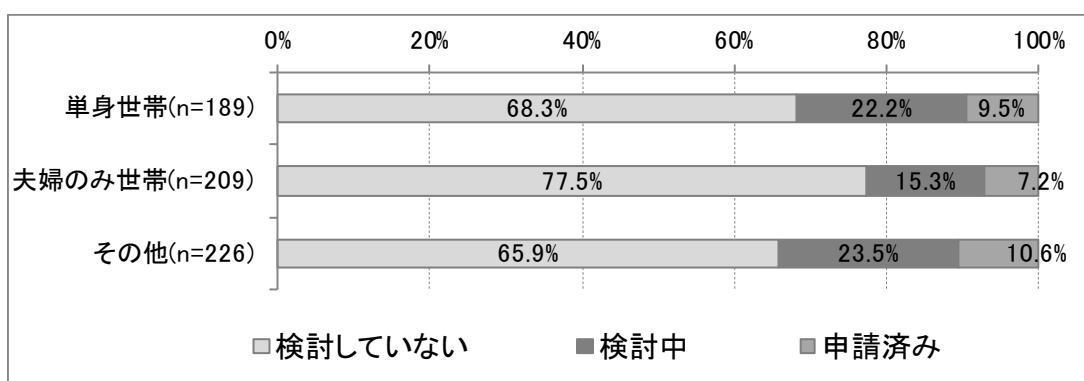
図表1-2 要介護度別・施設等検討の状況<\*\*\*>



【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が68.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.2%、「申請済み」が9.5%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が77.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が15.3%、「申請済み」が7.2%となっている。「その他」では「検討していない」が65.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が23.5%、「申請済み」が10.6%となっている。

図表1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



## (2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化

## 【着目すべきポイント】

- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化について、集計分析をしています(図表1-4、図表1-5)。
- ここでの「主な介護者が不安を感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安を感じる介護等」のことです。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。
- ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安を感じる介護等を把握することができます。
- また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に注目することで、在宅限界点に大きな影響を与えられ「主な介護者が不安を感じる介護」を推測することも可能になります。

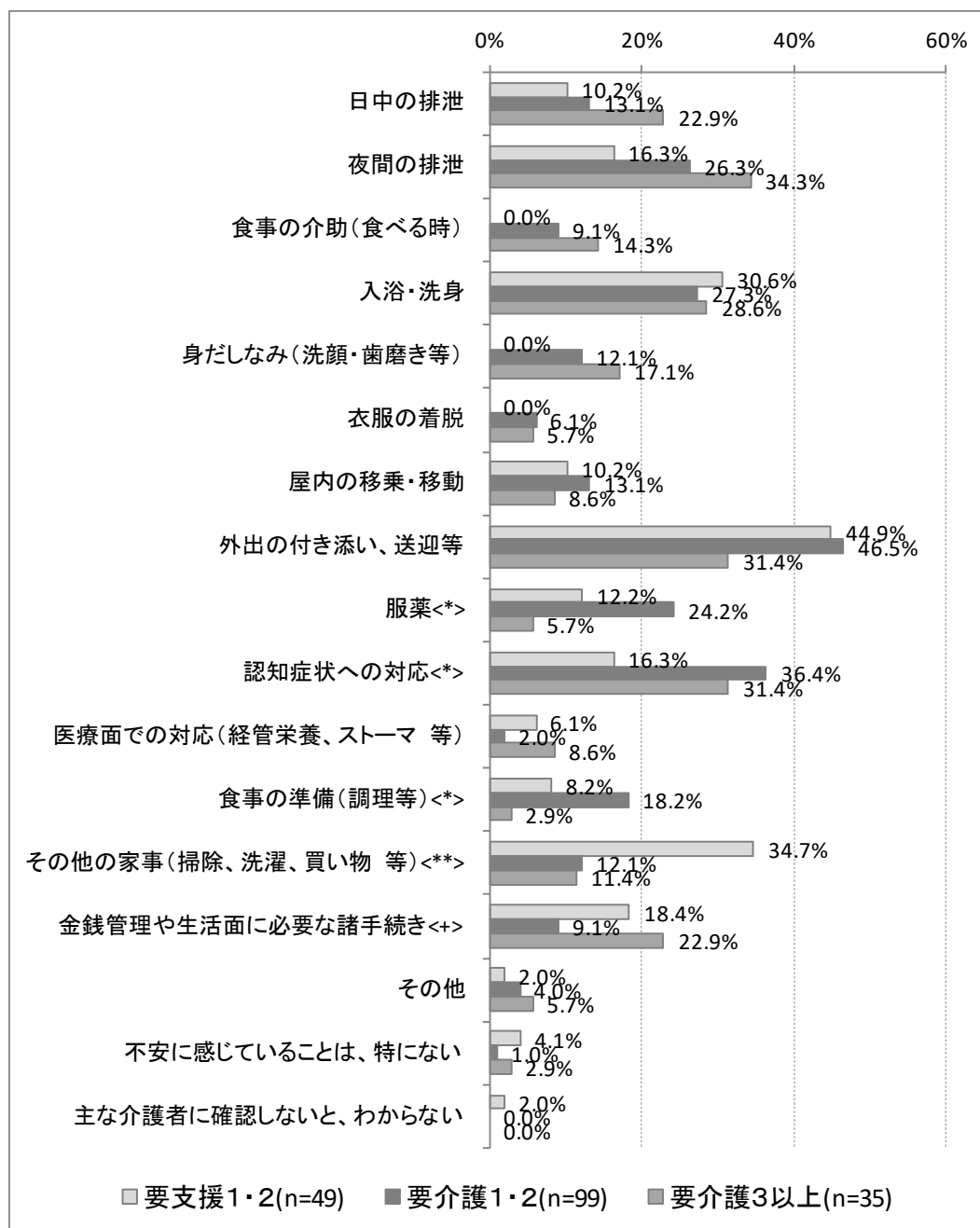
## 【留意事項】

- なお、「医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)」については、特に、実際に行われている割合が低い可能性が高いと考えられます。したがって、仮に選択した回答者が少ない場合でも、実際に医療ニーズのある要介護者を介護しているケースでは、主な介護者の不安は大きいことも考えられます。
- そのような観点から、在宅限界点に与える影響が過小評価される項目もあると考えられることから、注意が必要です。

【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が44.9%ともっとも割合が高く、次いで「その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)」が34.7%、「入浴・洗身」が30.6%となっている。「要介護1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が46.5%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が36.4%、「入浴・洗身」が27.3%となっている。「要介護3以上」では「夜間の排泄」が34.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」が31.4%、「入浴・洗身」が28.6%となっている。

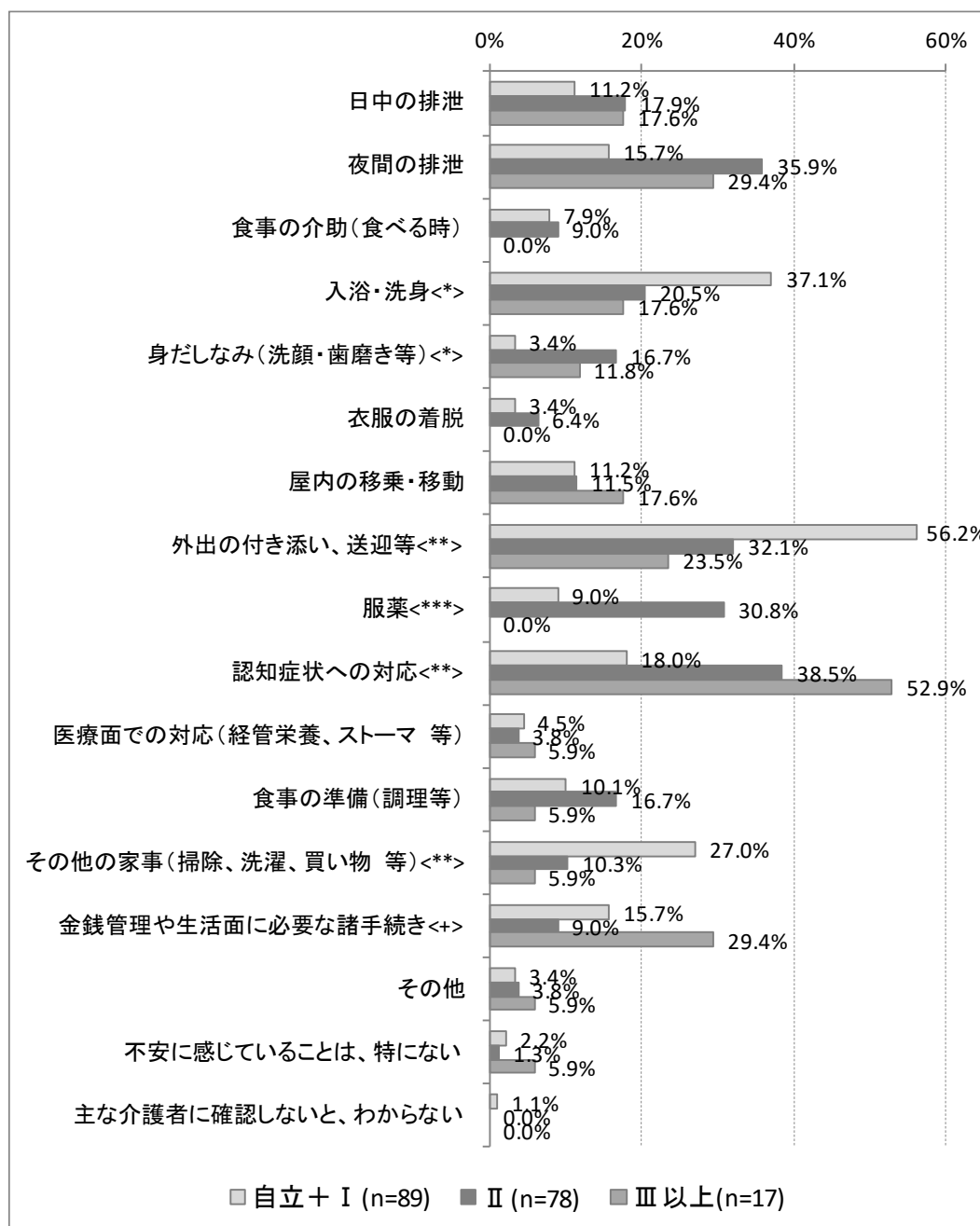
図表1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「外出の付き添い、送迎等」が56.2%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が37.1%、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が27.0%となっている。「Ⅱ」では「認知症状への対応」が38.5%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が35.9%、「外出の付き添い、送迎等」が32.1%となっている。「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が52.9%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が29.4%、「外出の付き添い、送迎等」が23.5%となっている。

図表1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています(図表1-6、図表1-7)。
- 特に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- さらに、例えば今後の中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

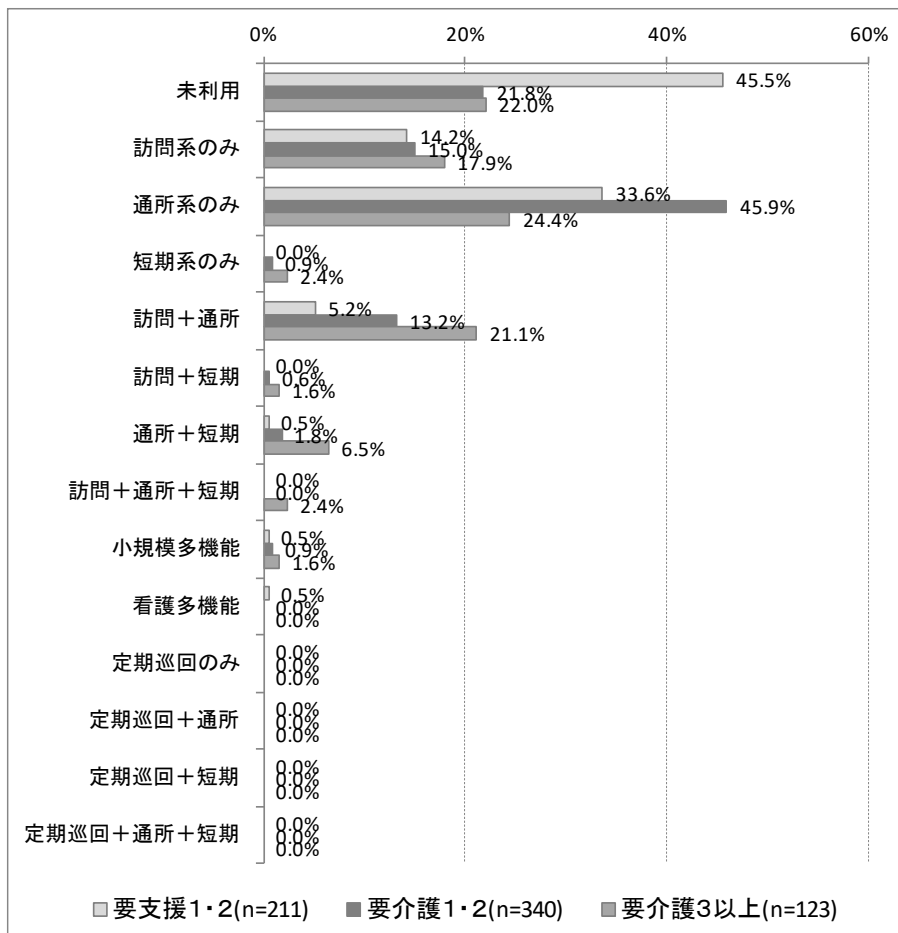
【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「通所系のみ」が33.6%、「訪問系のみ」が14.2%となっている。「要介護1・2」では「通所系のみ」が45.9%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が21.8%、「訪問系のみ」が15.0%となっている。「要介護3以上」では「通所系のみ」が24.4%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が22.0%、「訪問+通所」が21.1%となっている。

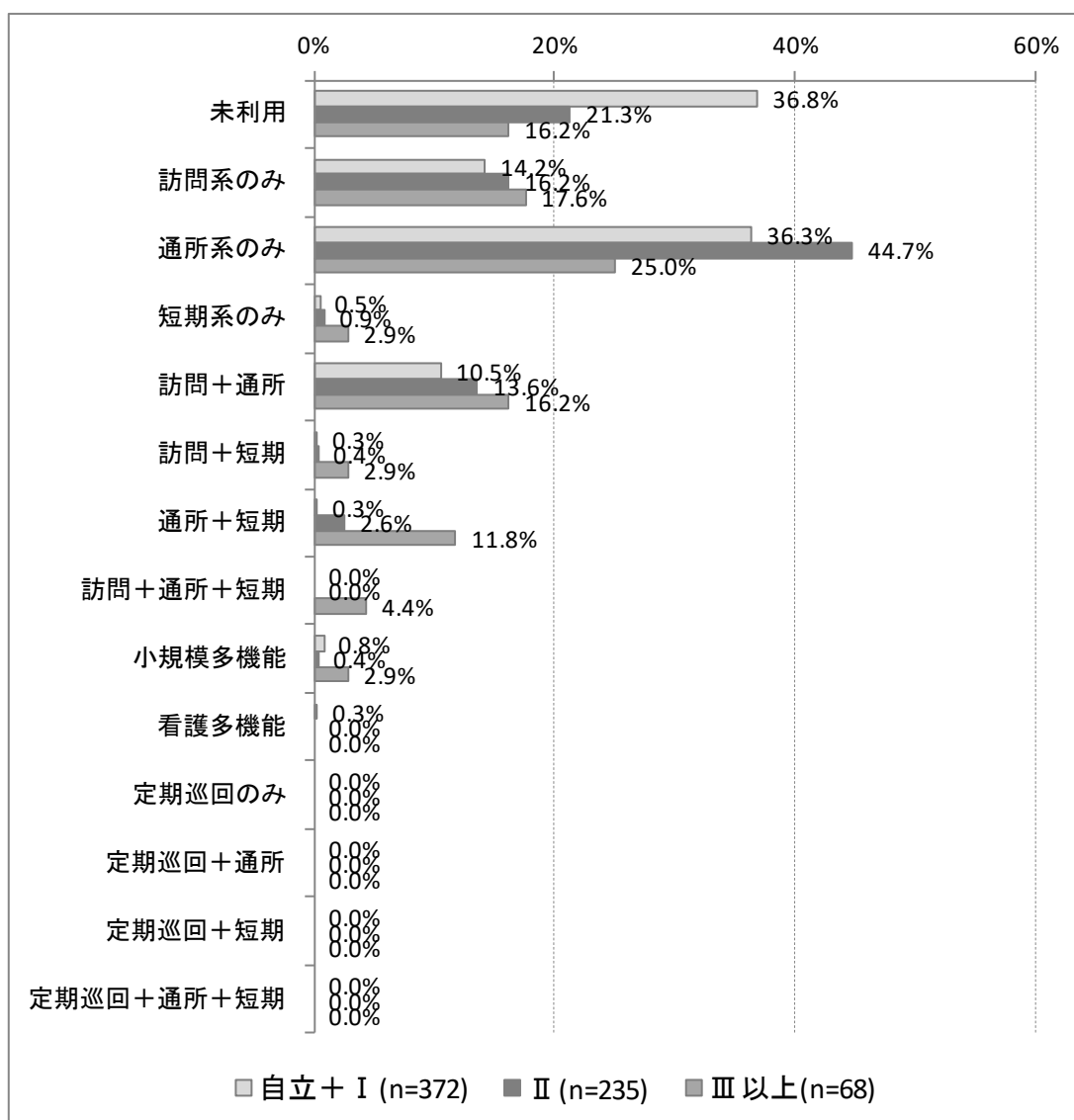
図表1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<\*\*\*>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「未利用」が36.8%ともっとも割合が高く、次いで「通所系のみ」が36.3%、「訪問系のみ」が14.2%となっている。「Ⅱ」では「通所系のみ」が44.7%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が21.3%、「訪問系のみ」が16.2%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系のみ」が25.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が17.6%、「未利用」、「訪問+通所」が16.2%となっている。

図表1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<\*\*\*>



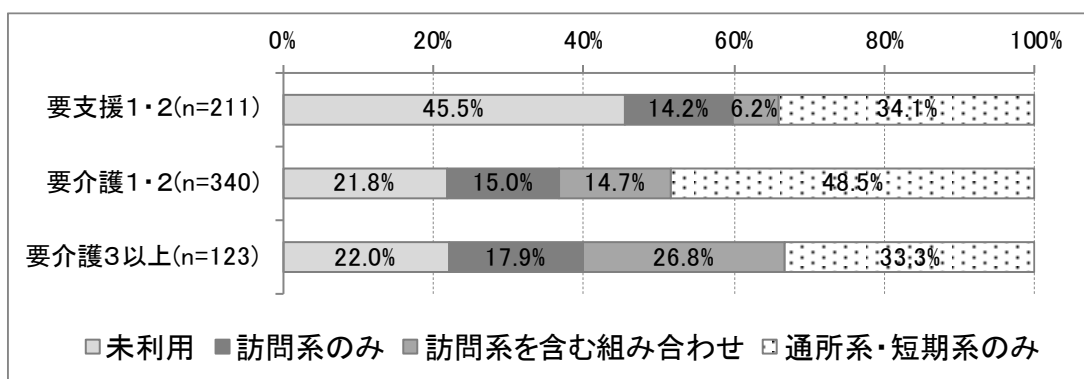
【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています(図表1-8、図表1-9)。
- 具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類(未利用除く)に分類したものです。
- 組み合わせのパターンが細分化された集計分析(図表1-6、図表1-7)と比較して、上記のような視点から、重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化の傾向等を分かりやすく示すことを目的としたものです。
- 前掲の集計分析(図表1-6、図表1-7)と同様に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- また、中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が34.1%、「訪問系のみ」が14.2%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が48.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が21.8%、「訪問系のみ」が15.0%となっている。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.8%、「未利用」が22.0%となっている。

図表1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<\*\*\*>

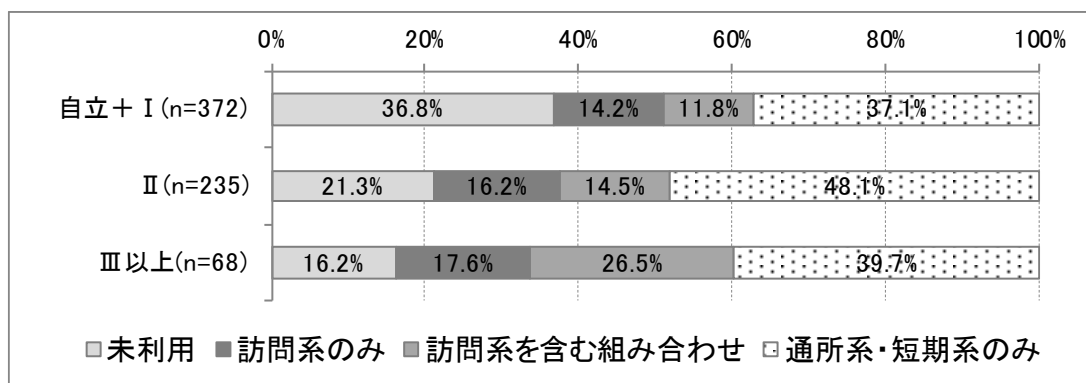




【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が37.1%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が36.8%、「訪問系のみ」が14.2%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が48.1%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が21.3%、「訪問系のみ」が16.2%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が39.7%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.5%、「訪問系のみ」が17.6%となっている。

図表1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<\*\*\*>



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表1-10～図表1-12は、「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析したもので、特に「サービス利用の組み合わせ」ごとの「施設等検討の状況」の比較が容易です。
- また、図表1-13～図表1-15は、表側と表頭を逆にして集計したもので、「施設等検討の状況」別の「サービス利用の組み合わせ」をみることができます。これにより、例えば施設等への入所・入居を「検討していない」ケースのような「適切な在宅生活の継続を実現している」と考えられる要介護者について、実際に「どのような組み合わせのサービスを利用しているか」を把握することができます。
- したがって、例えば「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

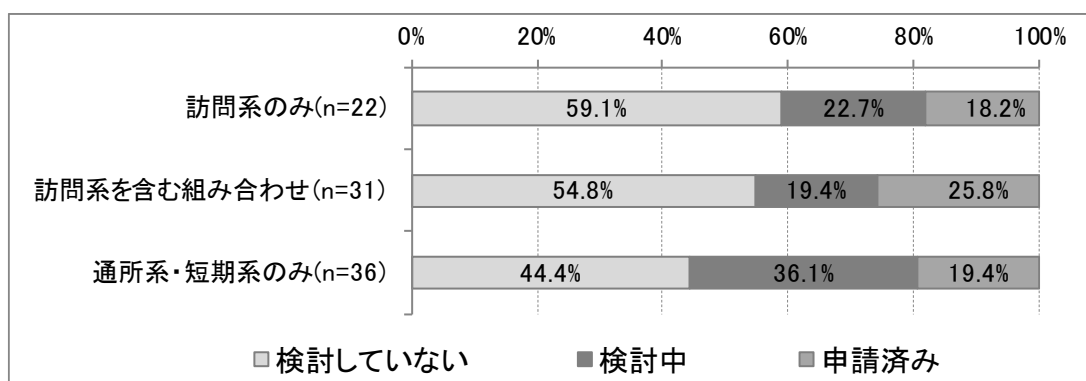
【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論を交えながら、地域ごとにその効果等についての考察を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が59.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が22.7%、「申請済み」が18.2%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が54.8%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が25.8%、「検討中」が19.4%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が44.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が36.1%、「申請済み」が19.4%となっている。

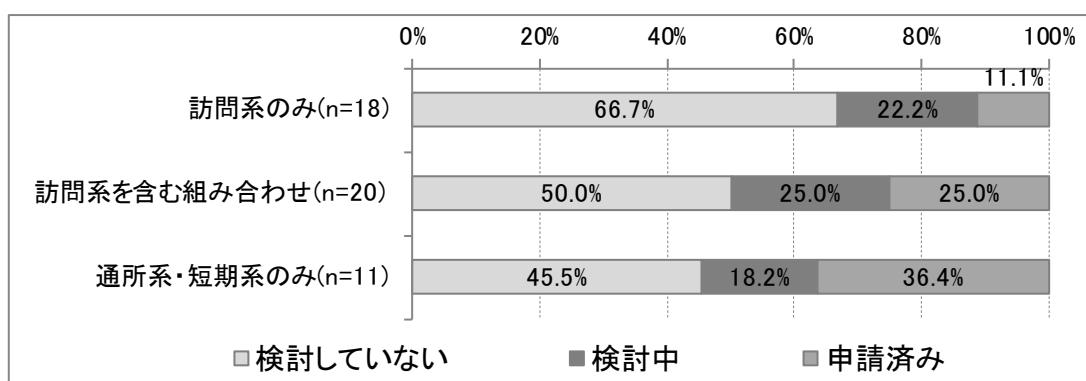
図表1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が22.2%、「申請済み」が11.1%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が25.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が45.5%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が36.4%、「検討中」が18.2%となっている。

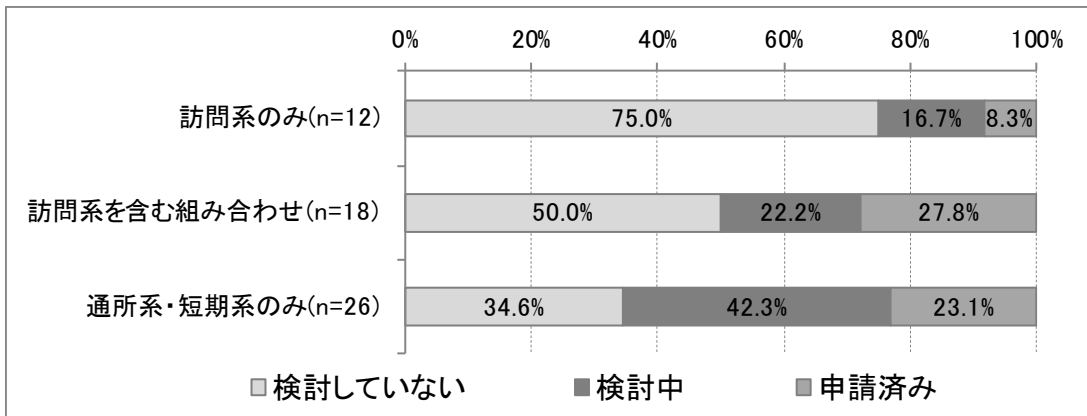
図表1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が16.7%、「申請済み」が8.3%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が27.8%、「検討中」が22.2%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討中」が42.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が34.6%、「申請済み」が23.1%となっている。

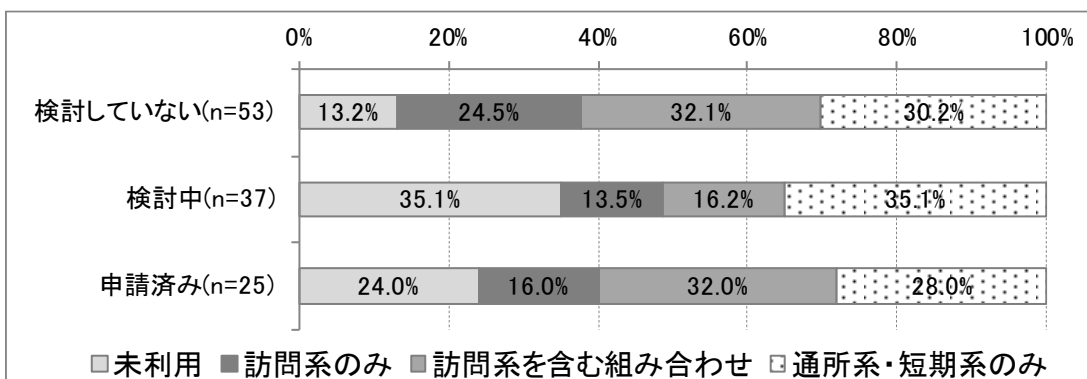
図表1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が32.1%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が30.2%、「訪問系のみ」が24.5%となっている。「検討中」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が35.1%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が16.2%、「訪問系のみ」が13.5%となっている。「申請済み」では「訪問系を含む組み合わせ」が32.0%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が28.0%、「未利用」が24.0%となっている。

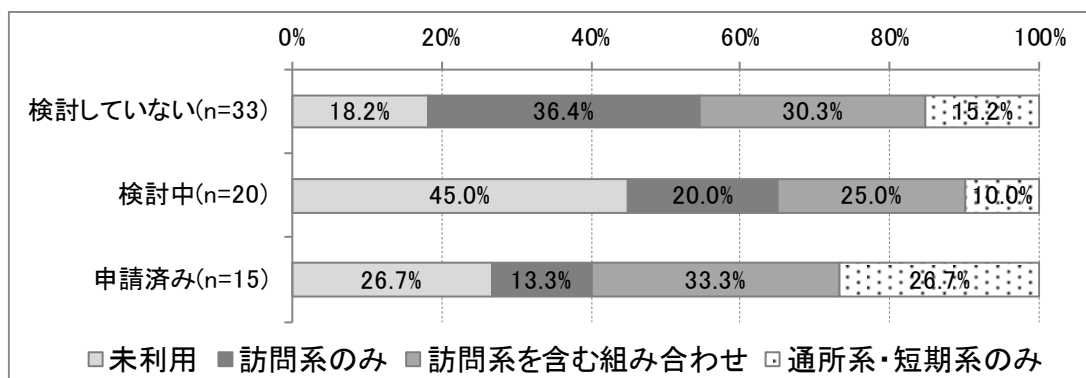
図表1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系のみ」が36.4%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が30.3%、「未利用」が18.2%となっている。「検討中」では「未利用」が45.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.0%、「訪問系のみ」が20.0%となっている。「申請済み」では「訪問系を含む組み合わせ」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「通所系・短期系のみ」が26.7%、「訪問系のみ」が13.3%となっている。

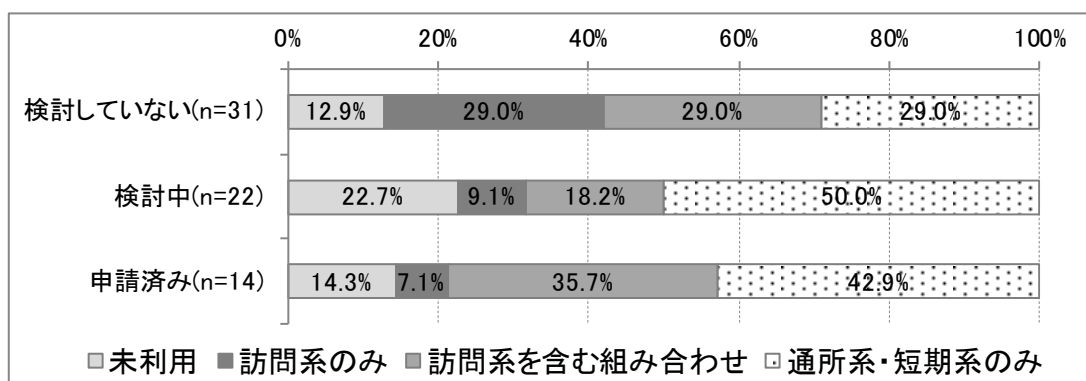
図表1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が29.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が12.9%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が22.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が18.2%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が35.7%、「未利用」が14.3%となっている。

図表1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)



(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係について、集計分析をしています(図表1-16、図表1-17)。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護(主な介護者の不安が大きな介護 等)」について、「主な介護者が不安を感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- したがって、「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

【留意事項】

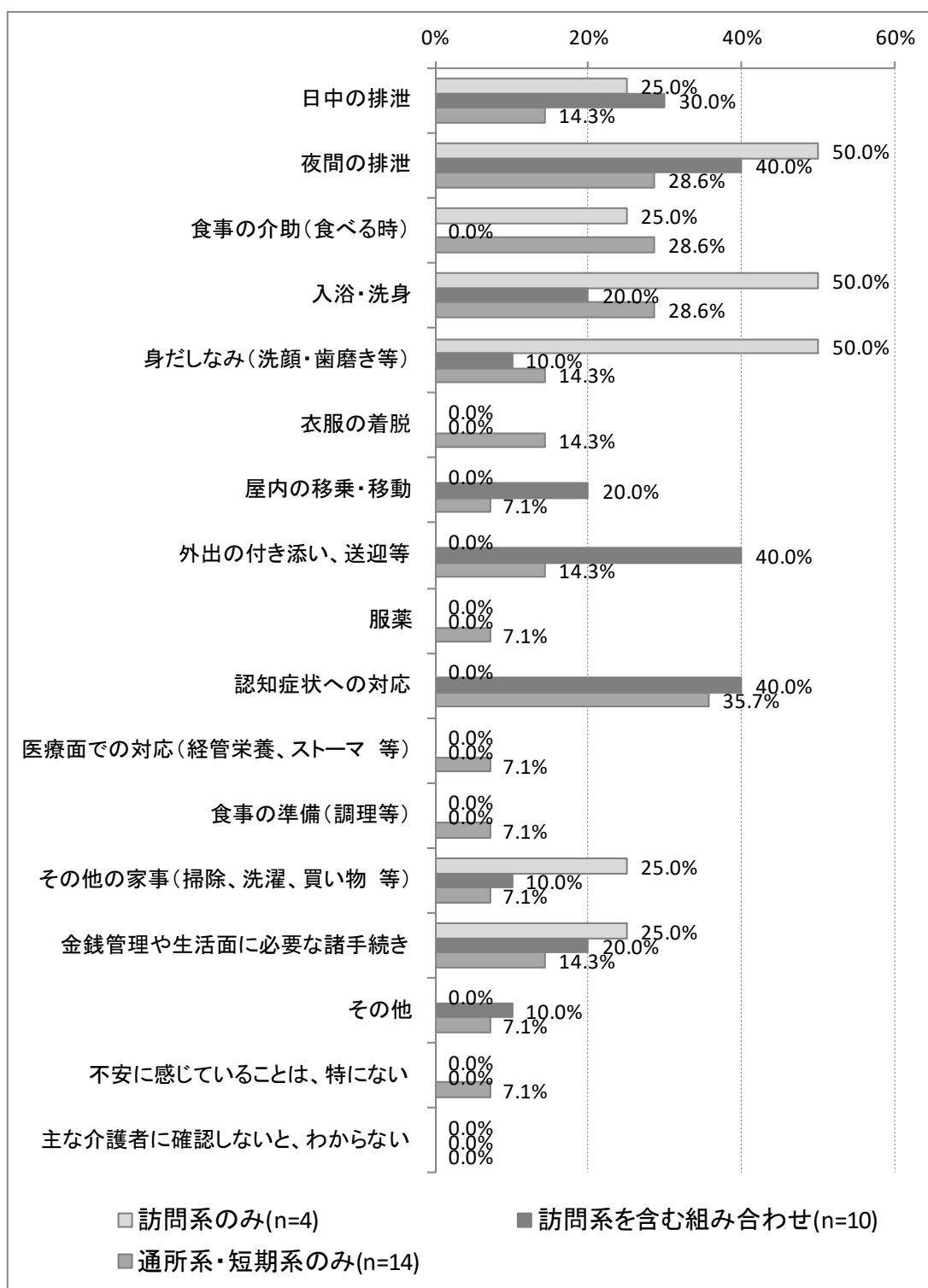
- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、〇〇の介護について「主な介護者が不安を感じる」割合が低い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、〇〇の介護について「主な介護者が不安を感じる」割合が低いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が25.0%となっている。

「訪問系を含む組み合わせ」では「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が30.0%、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が20.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が35.7%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「入浴・洗身」が28.6%、「日中の排泄」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「衣服の着脱」、「外出の付き添い、送迎等」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が14.3%となっている。

図表1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(要介護3以上)

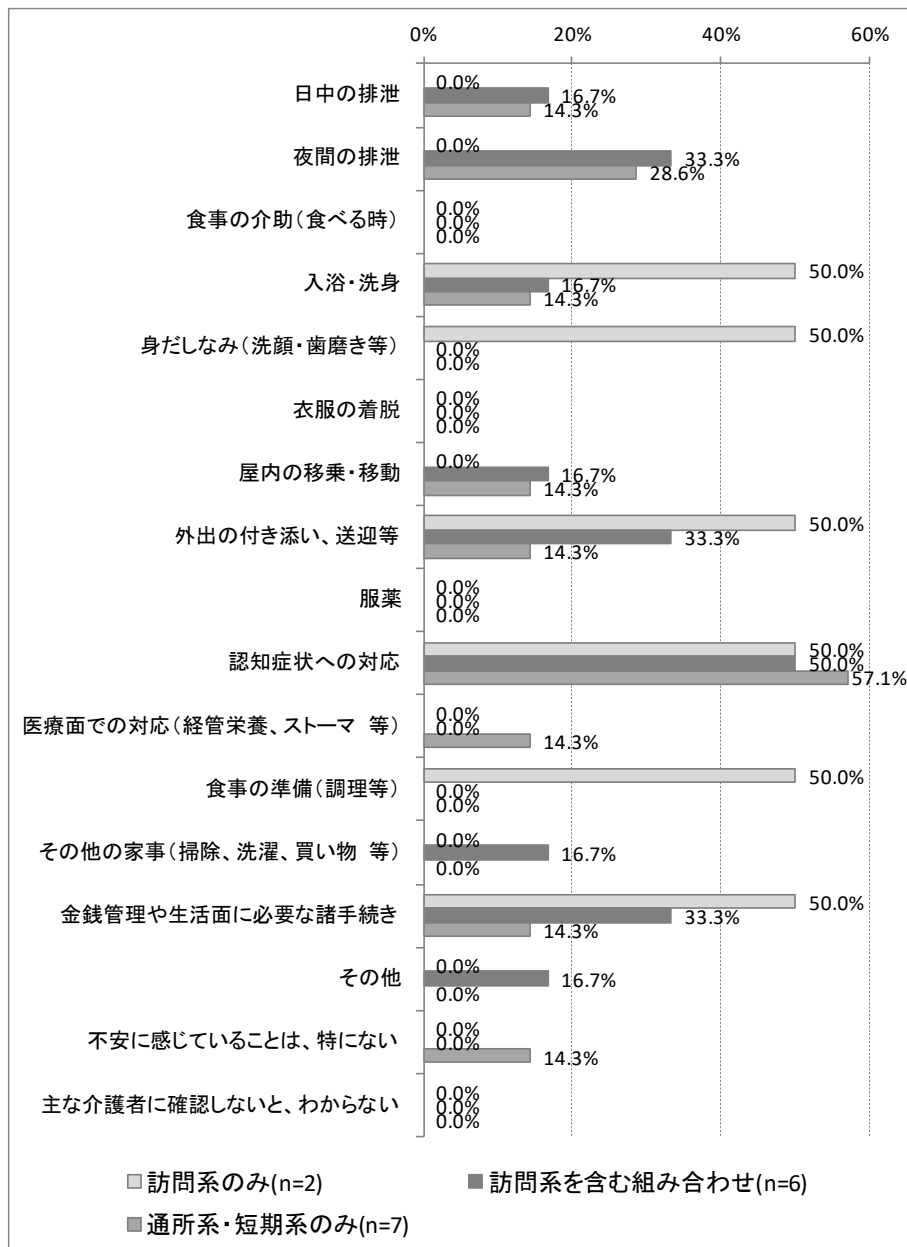


【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「入浴・洗身」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「食事の準備(調理等)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が50.0%と最も割合が高くなっている。

「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が50.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が33.3%、「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」、「その他」が16.7%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が57.1%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が28.6%、「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「医療面での対応(経管栄養、ストーマ 等)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「不安に感じていることは、特にない」が14.3%となっている。

図表1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(認知症Ⅲ以上)





(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- (4)では、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表1-18と図表1-19が訪問系、図表1-20と図表1-21通所系、図表1-22と図表1-23が短期系について集計分析した結果です。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、施設等への入所・入居を「検討していない」割合が高くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

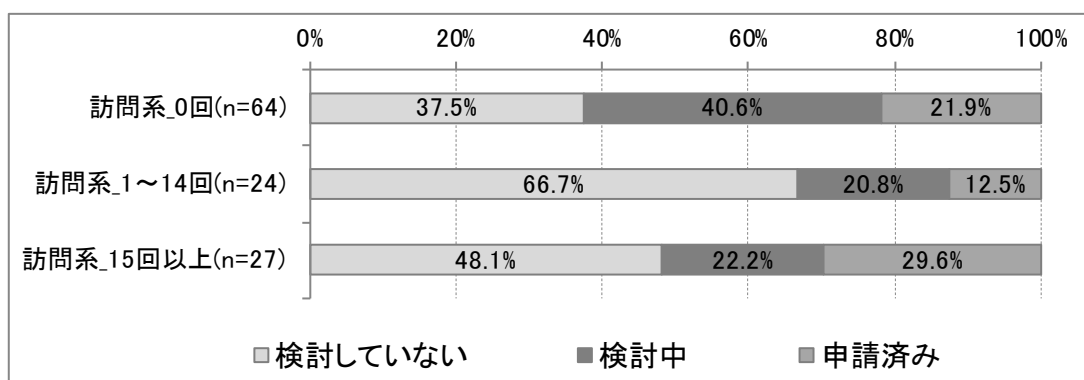
【留意事項】

- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、在宅限界点の向上に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系\_0回」では「検討中」が40.6%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が37.5%、「申請済み」が21.9%となっている。「訪問系\_1～14回」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.8%、「申請済み」が12.5%となっている。「訪問系\_15回以上」では「検討していない」が48.1%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が29.6%、「検討中」が22.2%となっている。

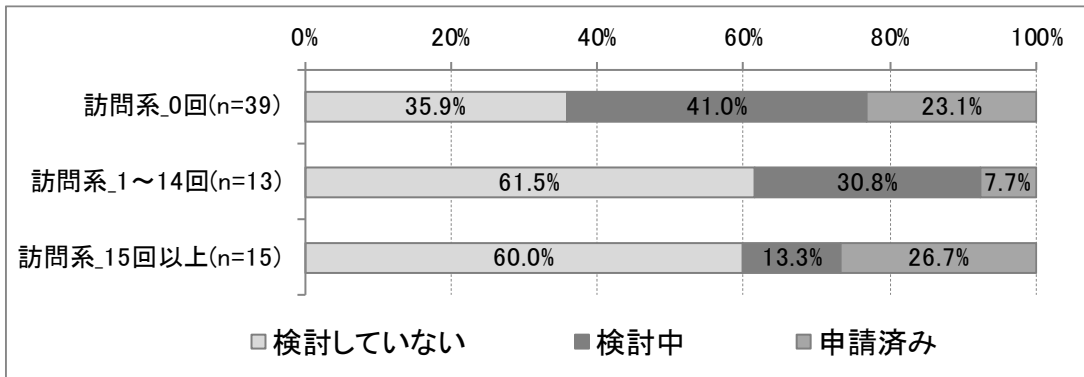
図表1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、要介護3以上)<+>



【サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系\_0回」では「検討中」が41.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が35.9%、「申請済み」が23.1%となっている。「訪問系\_1～14回」では「検討していない」が61.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が30.8%、「申請済み」が7.7%となっている。「訪問系\_15回以上」では「検討していない」が60.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が26.7%、「検討中」が13.3%となっている。

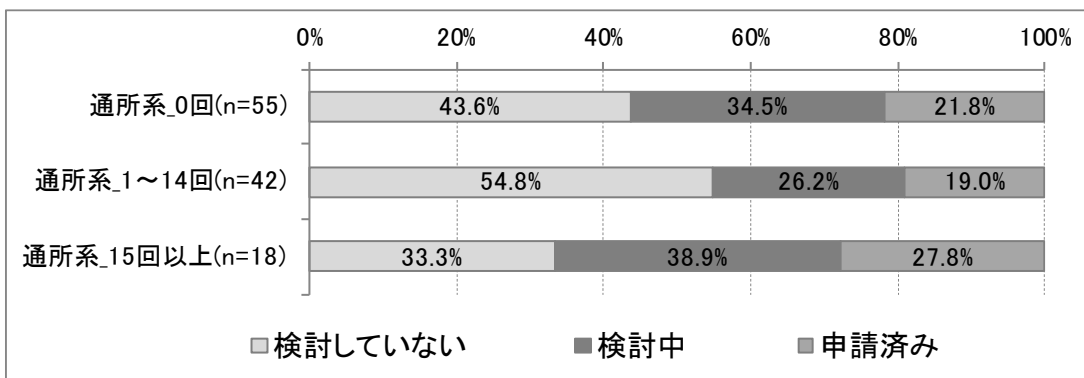
図表1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、認知症Ⅲ以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系\_0回」では「検討していない」が43.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が34.5%、「申請済み」が21.8%となっている。「通所系\_1～14回」では「検討していない」が54.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が26.2%、「申請済み」が19.0%となっている。「通所系\_15回以上」では「検討中」が38.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が33.3%、「申請済み」が27.8%となっている。

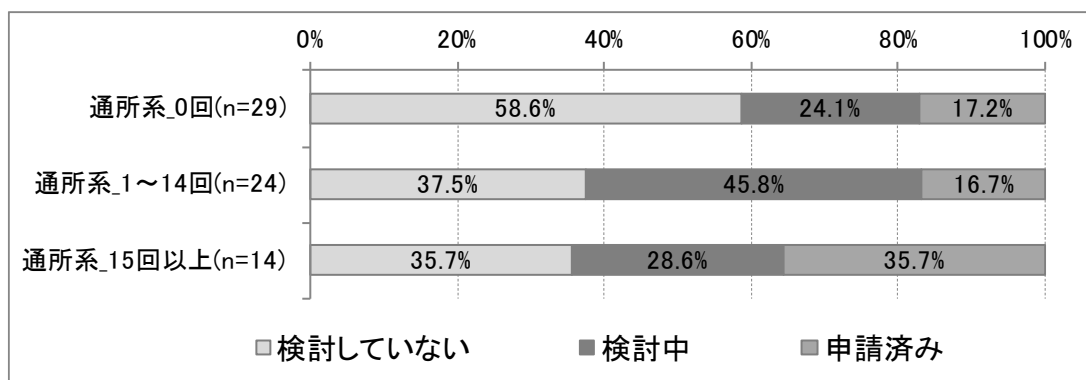
図表1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、要介護3以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系\_0回」では「検討していない」が58.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が24.1%、「申請済み」が17.2%となっている。「通所系\_1～14回」では「検討中」が45.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が37.5%、「申請済み」が16.7%となっている。「通所系\_15回以上」では「検討していない」、「申請済み」が35.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が28.6%となっている。

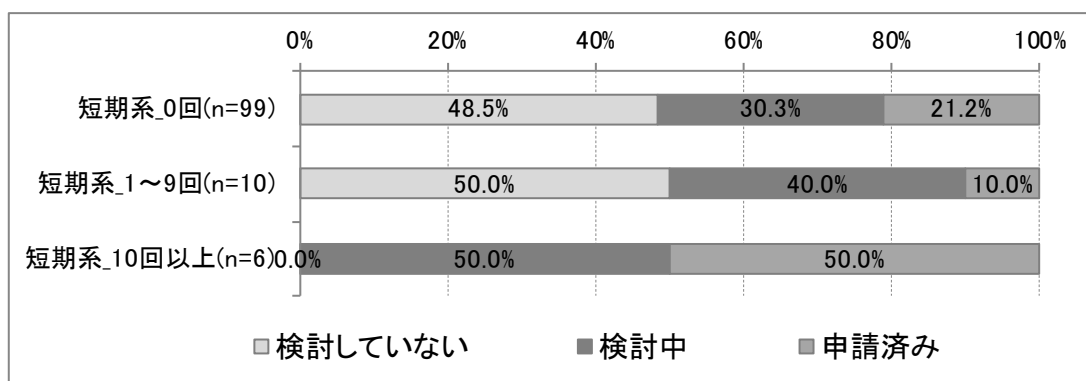
図表1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、認知症Ⅲ以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系\_0回」では「検討していない」が48.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が30.3%、「申請済み」が21.2%となっている。「短期系\_1～9回」では「検討していない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が40.0%、「申請済み」が10.0%となっている。「短期系\_10回以上」では「検討中」、「申請済み」が50.0%ともっとも割合が高くなっている。

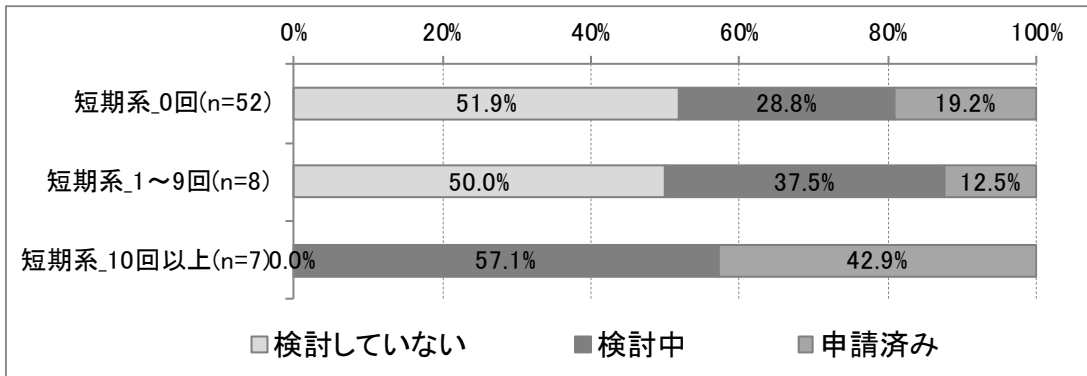
図表1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、要介護3以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系\_0回」では「検討していない」が51.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が28.8%、「申請済み」が19.2%となっている。「短期系\_1～9回」では「検討していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が37.5%、「申請済み」が12.5%となっている。「短期系\_10回以上」では「検討中」が57.1%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が42.9%となっている。

図表1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、認知症Ⅲ以上)



## (7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

## 【着目すべきポイント】

- (5)では、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安を感じる介護」について、集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護(主な介護者の不安が大きな介護 等)」について、「主な介護者が不安を感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることを想定しています。
- 図表1-24と図表1-25が訪問系、図表1-26と図表1-27が通所系、図表1-28と図表1-29が短期系について集計分析した結果です。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、「主な介護者が不安を感じる」割合が低くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

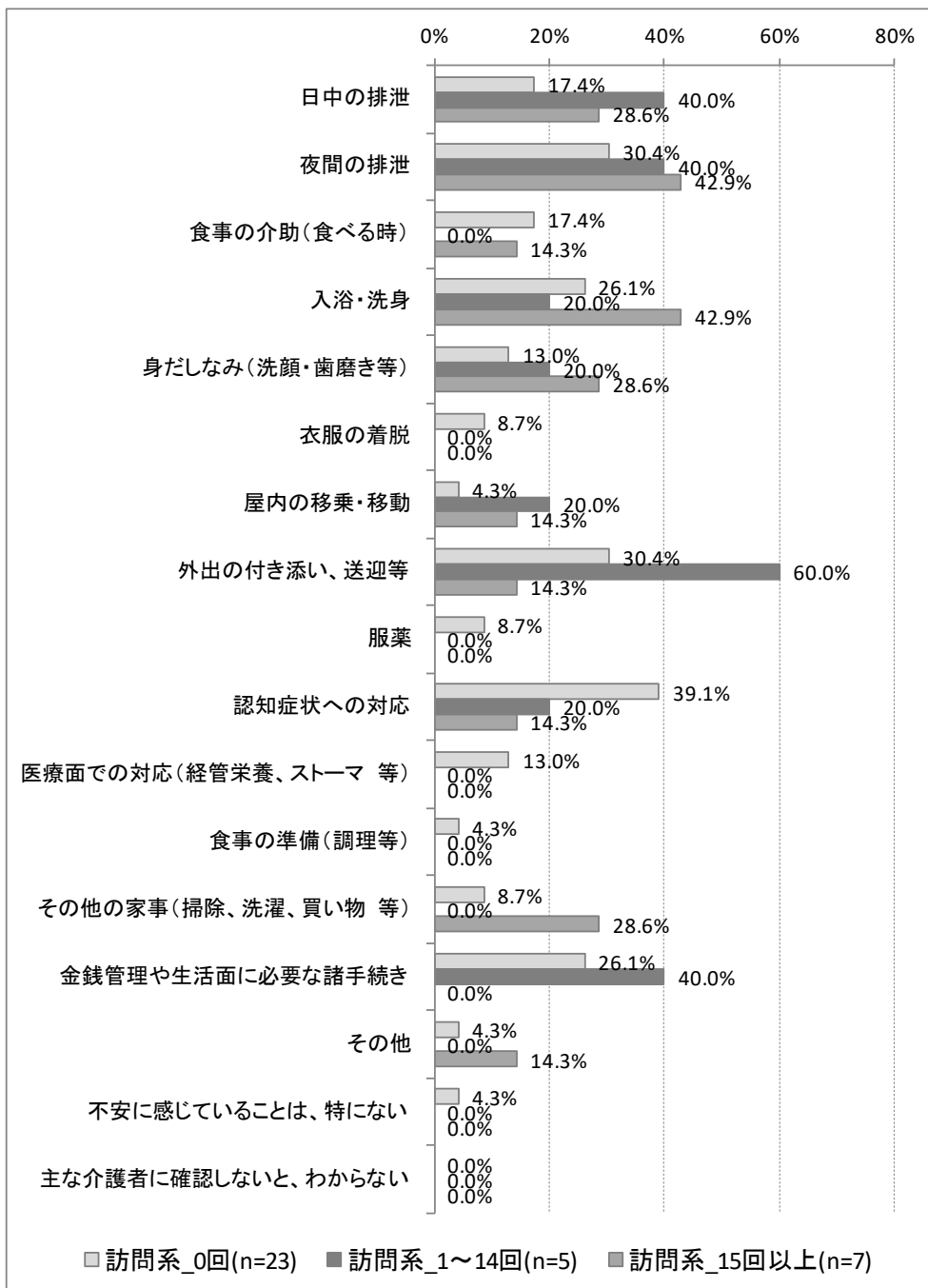
## 【留意事項】

- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、介護者不安の軽減に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系\_0回」では「認知症状への対応」が39.1%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が30.4%、「入浴・洗身」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が26.1%となっている。「訪問系\_1～14回」では「外出の付き添い、送迎等」が60.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が40.0%、「入浴・洗身」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」が20.0%となっている。「訪問系\_15回以上」では「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が28.6%、「食事の介助(食べる時)」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「その他」が14.3%となっている。

図表1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系、要介護3以上)

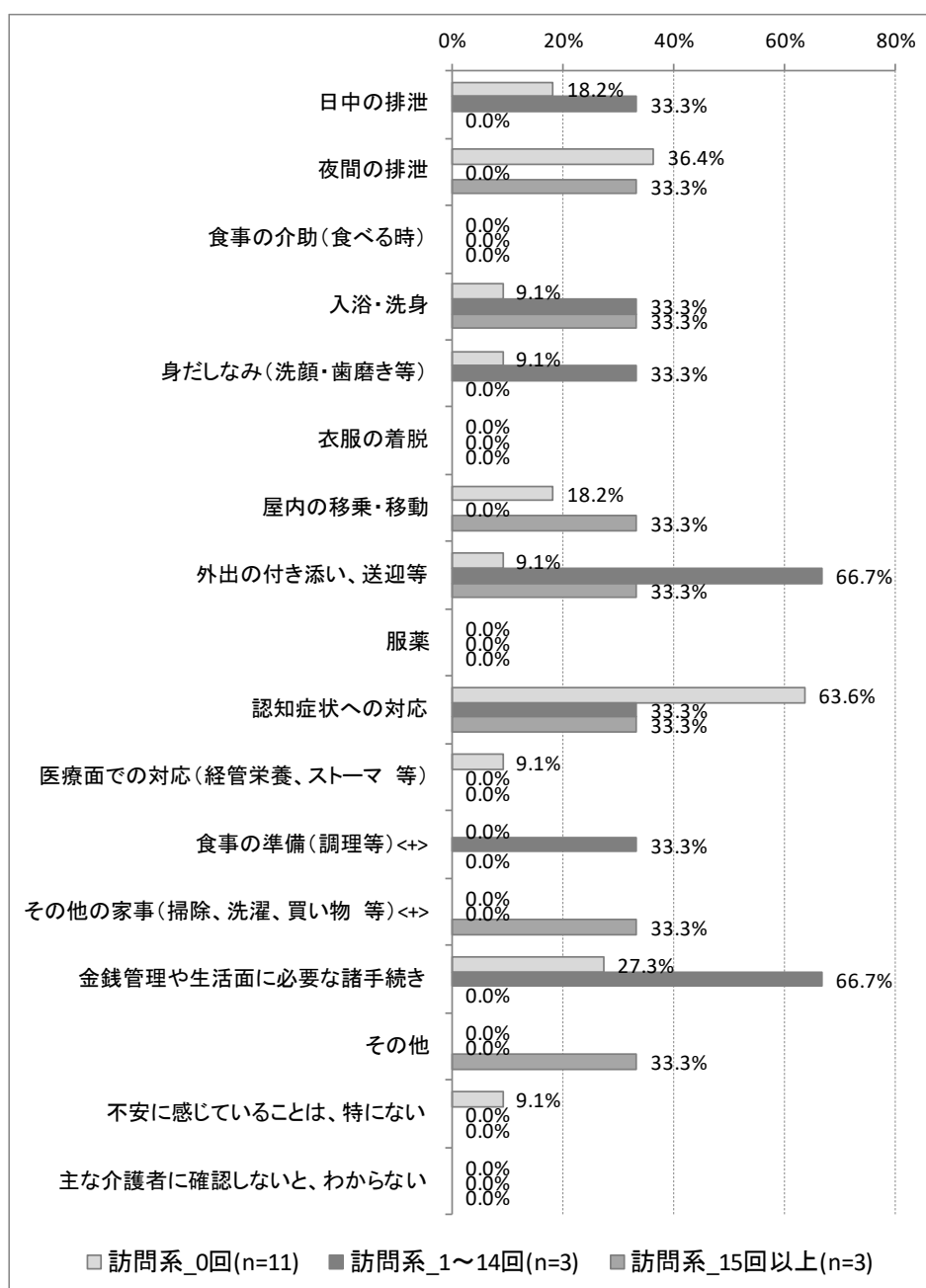


【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系\_0回」では「認知症状への対応」が63.6%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が36.4%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が27.3%となっている。「訪問系\_1～14回」では「外出の付き添い、送迎等」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が66.7%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「認知症状への対応」、「食事の準備(調理等)」が33.3%となっている。

「訪問系\_15回以上」では「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)」、「その他」が33.3%と最も割合が高くなっている。

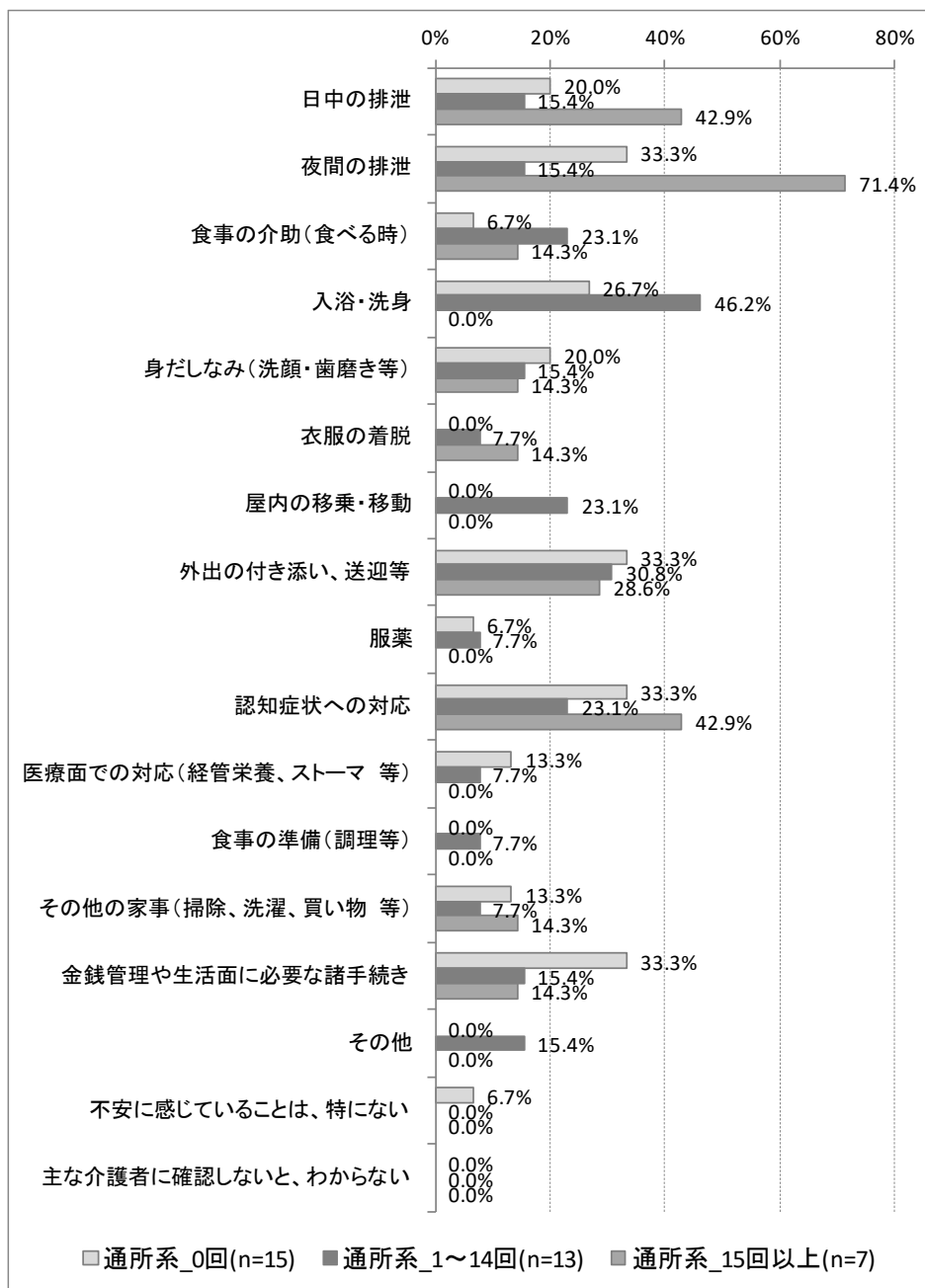
図表1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系、認知症Ⅲ以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系\_0回」では「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が26.7%、「日中の排泄」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」が20.0%となっている。「通所系\_1~14回」では「入浴・洗身」が46.2%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が30.8%、「食事の介助(食べる時)」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」が23.1%となっている。「通所系\_15回以上」では「夜間の排泄」が71.4%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「認知症状への対応」が42.9%、「外出の付き添い、送迎等」が28.6%となっている。

図表1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、要介護3以上)

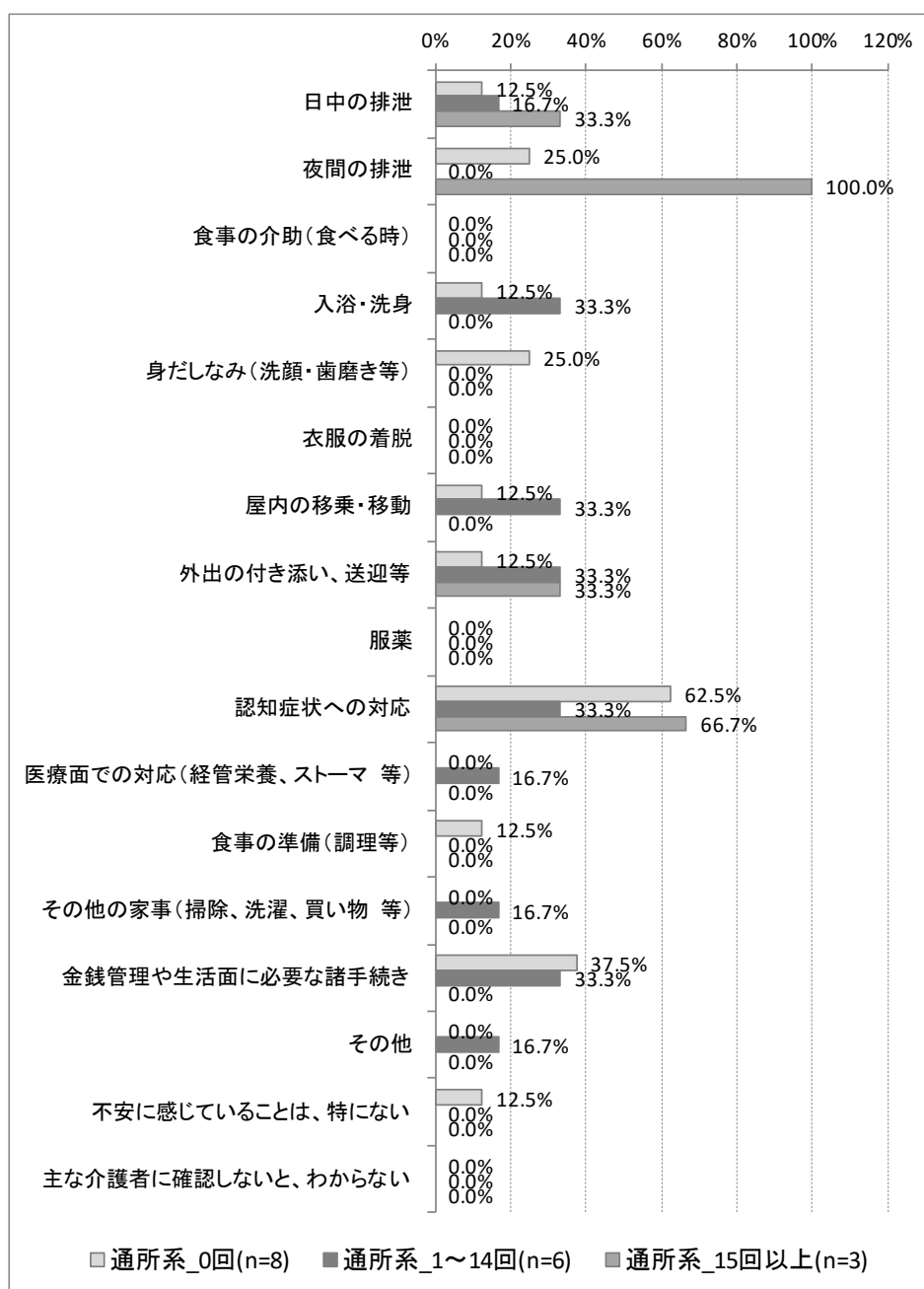




【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系\_0回」では「認知症状への対応」が62.5%ともっとも割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が37.5%、「夜間の排泄」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」が25.0%となっている。「通所系\_1～14回」では「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「医療面での対応(経管栄養、ストーマ 等)」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)」、「その他」が16.7%となっている。「通所系\_15回以上」では「夜間の排泄」が100.0%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が66.7%、「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が33.3%となっている。

図表1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、認知症Ⅲ以上)

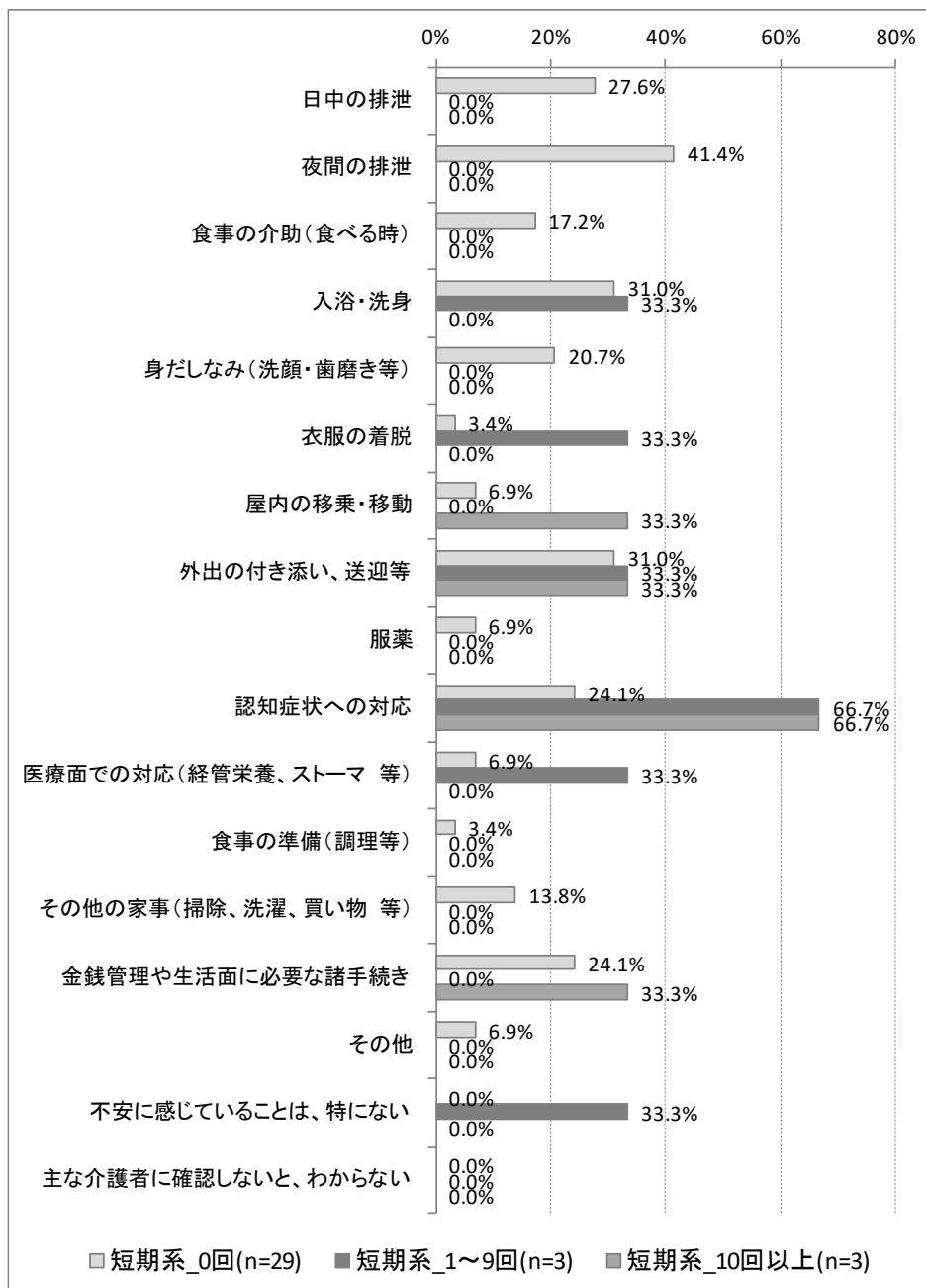


【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系\_0回」では「夜間の排泄」が41.4%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が31.0%、「日中の排泄」が27.6%となっている。「短期系\_1～9回」では「認知症状への対応」が66.7%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」、「衣服の着脱」、「外出の付き添い、送迎等」、「医療面での対応(経管栄養、ストーマ 等)」、「不安を感じていることは、特にない」が33.3%となっている。

「短期系\_10回以上」では「認知症状への対応」が66.7%と最も割合が高くなっている。

図表1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、要介護3以上)

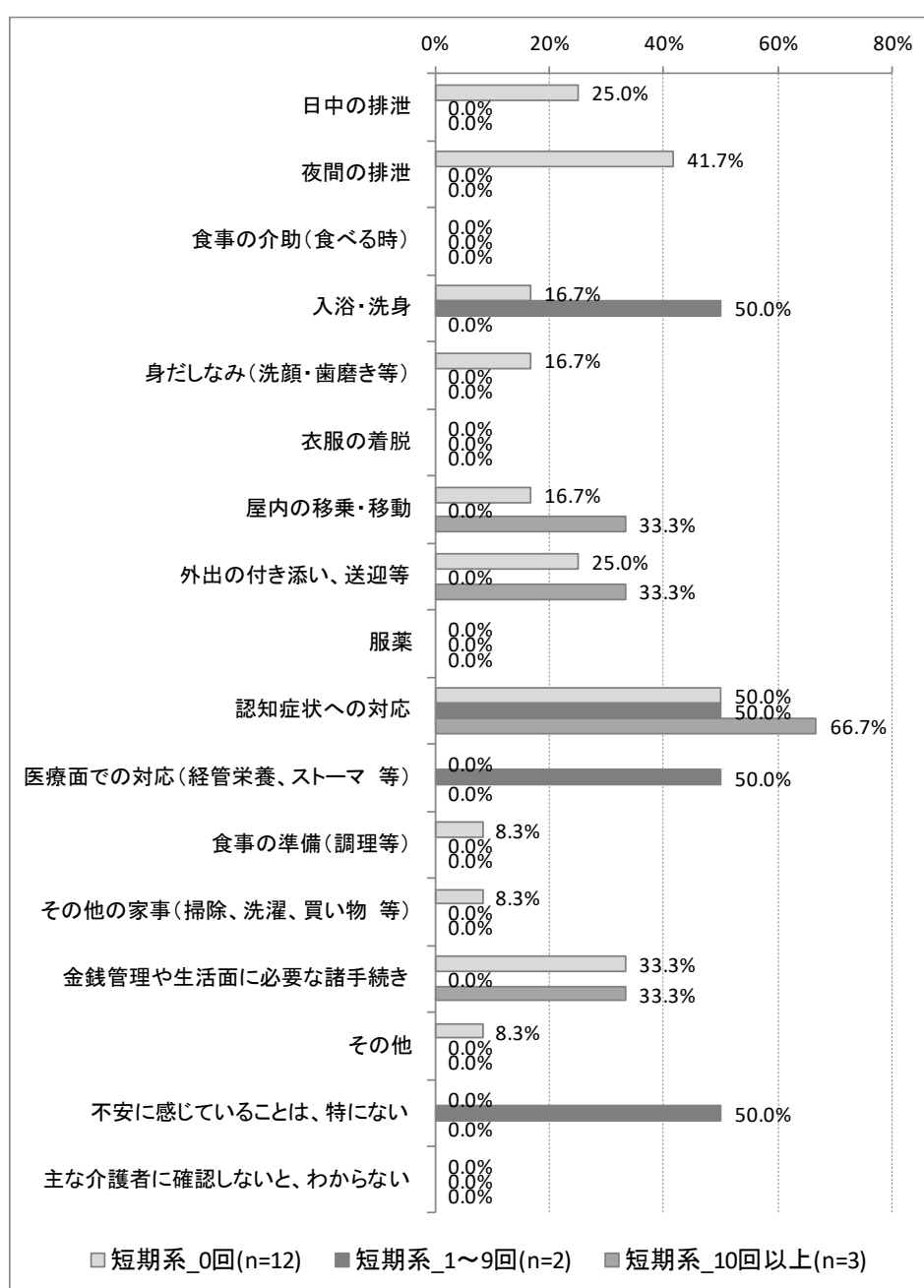


【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系\_0回」では「認知症状への対応」が50.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が41.7%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が33.3%となっている。「短期系\_1～9回」では「入浴・洗身」、「認知症状への対応」、「医療面での対応(経管栄養、ストーマ 等)」、「不安を感じていることは、特にない」が50.0%と最も割合が高くなっている。

「短期系\_10回以上」では「認知症状への対応」が66.7%と最も割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が33.3%となっている。

図表1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、認知症Ⅲ以上)



## 2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

### 2.1 集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者(フルタイム勤務、パートタイム勤務)」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

### 2.2 集計結果と着目すべきポイント

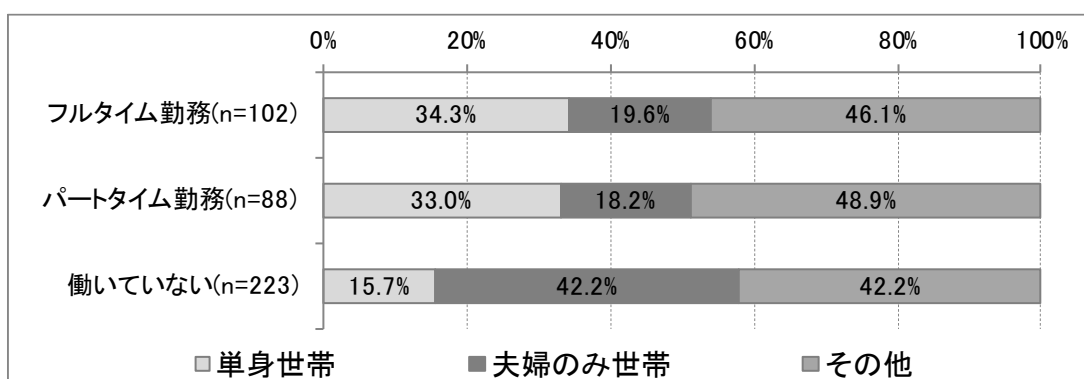
#### (1) 基本集計

- 主な介護者の就労状況(フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない)別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。
- 主な介護者の属性や、要介護者の要介護度・認知症自立度について、就労状況別にその状況を確認してください。

#### 【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他」が46.1%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が34.3%、「夫婦のみ世帯」が19.6%となっている。「パートタイム勤務」では「その他」が48.9%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が33.0%、「夫婦のみ世帯」が18.2%となっている。「働いていない」では「夫婦のみ世帯」、「その他」が42.2%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が15.7%となっている。

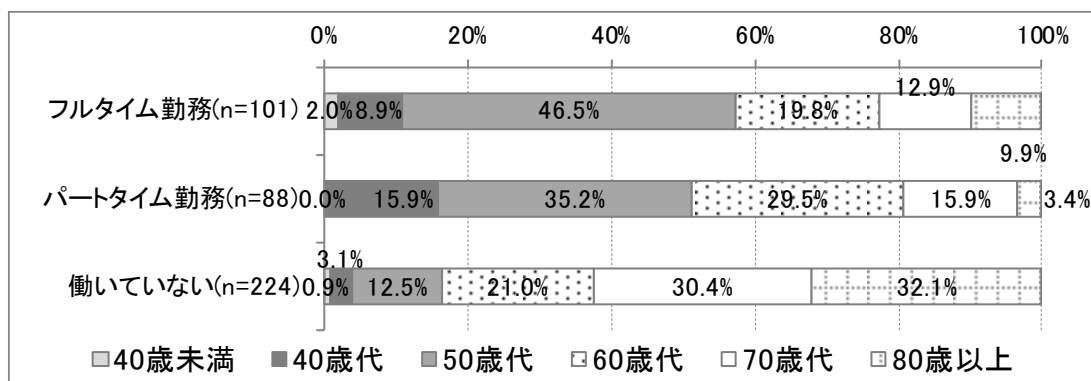
図表2-1 就労状況別・世帯類型<\*\*\*>



【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50歳代」が46.5%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が19.8%、「70歳代」が12.9%となっている。「パートタイム勤務」では「50歳代」が35.2%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が29.5%、「40歳代」、「70歳代」が15.9%となっている。「働いていない」では「80歳以上」が32.1%と最も割合が高く、次いで「70歳代」が30.4%、「60歳代」が21.0%となっている。

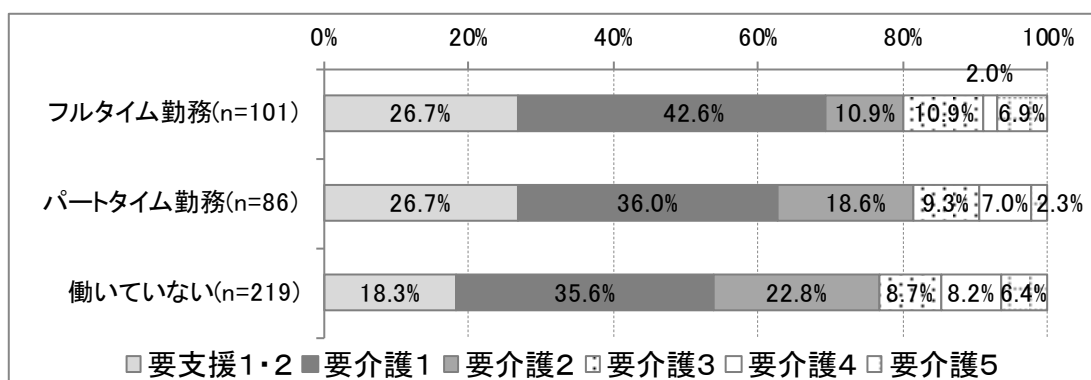
図表2-2 就労状況別・主な介護者の年齢<\*\*\*>



【就労状況別・要介護度】

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要介護1」が42.6%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が26.7%、「要介護2」、「要介護3」が10.9%となっている。「パートタイム勤務」では「要介護1」が36.0%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が26.7%、「要介護2」が18.6%となっている。「働いていない」では「要介護1」が35.6%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が22.8%、「要支援1・2」が18.3%となっている。

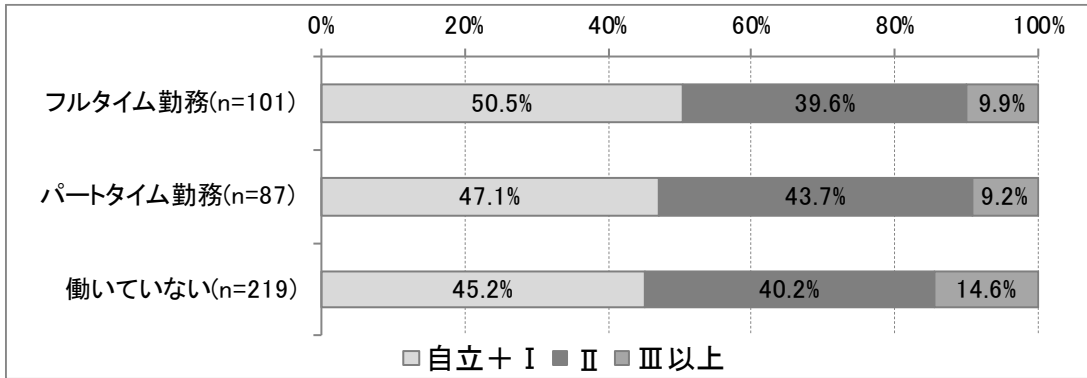
図表2-3 就労状況別・要介護度<+>



【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「自立+Ⅰ」が50.5%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅱ」が39.6%、「Ⅲ以上」が9.9%となっている。「パートタイム勤務」では「自立+Ⅰ」が47.1%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅱ」が43.7%、「Ⅲ以上」が9.2%となっている。「働いていない」では「自立+Ⅰ」が45.2%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅱ」が40.2%、「Ⅲ以上」が14.6%となっている。

図表2-4 就労状況別・認知症自立度



(2) 就労状況別の就労継続見込み

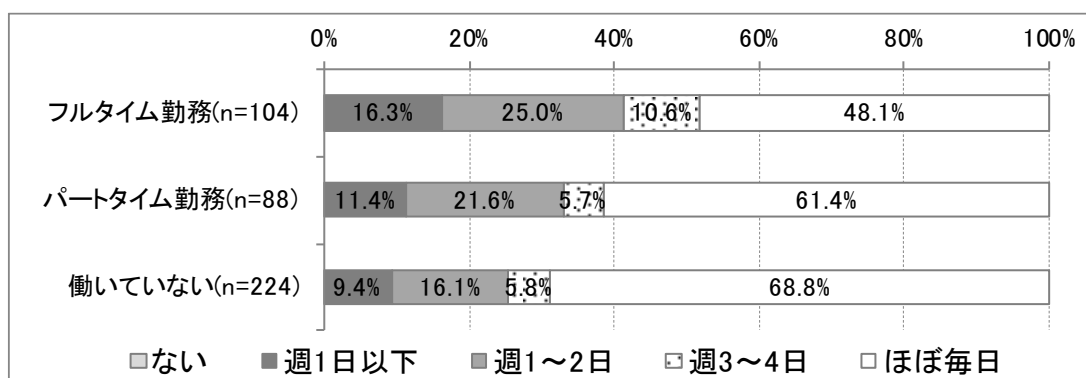
【着目すべきポイント】

- ここでは、「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています(図表2-6)。
- 「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができます。
- なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の2つの指標に着目しています(図表2-7、図表2-8)。

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が48.1%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が25.0%、「週1日以下」が16.3%となっている。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が61.4%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が21.6%、「週1日以下」が11.4%となっている。「働いていない」では「ほぼ毎日」が68.8%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が16.1%、「週1日以下」が9.4%となっている。

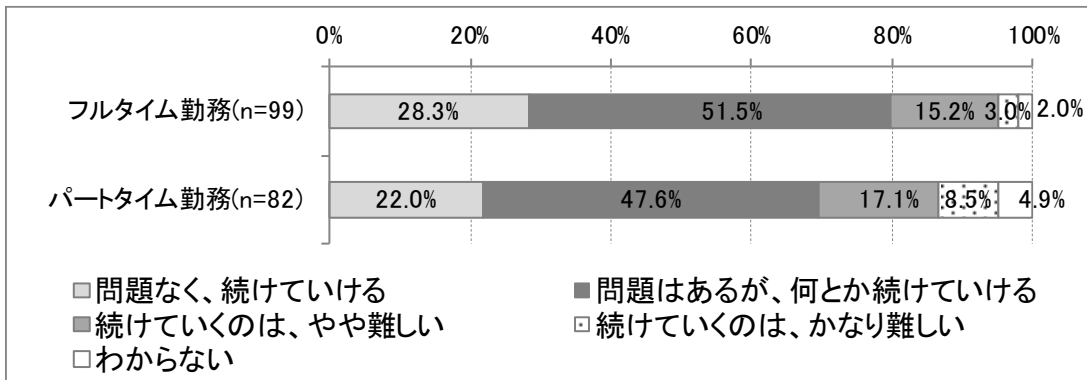
図表2-5 就労状況別・家族等による介護の頻度<+>



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が51.5%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が28.3%、「続けていくのは、やや難しい」が15.2%となっている。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が47.6%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が22.0%、「続けていくのは、やや難しい」が17.1%となっている。

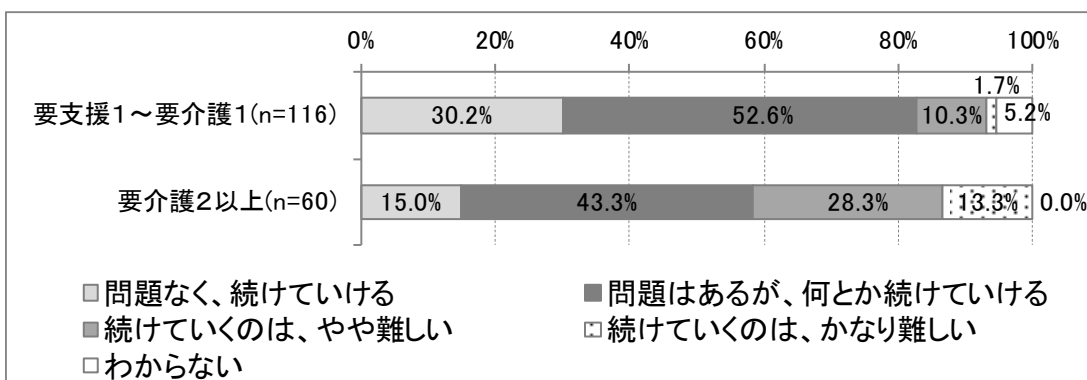
図表2-6 就労状況別・就労継続見込み



【要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が52.6%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が30.2%、「続けていくのは、やや難しい」が10.3%となっている。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が43.3%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が28.3%、「問題なく、続けていける」が15.0%となっている。

図表2-7 要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務) <\*\*\*>

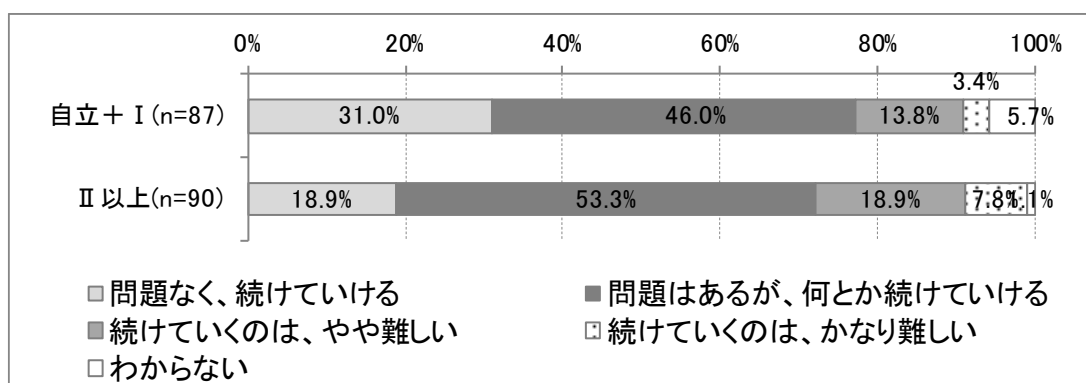




【認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「問題はあるが、何とか続けていける」が46.0%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が31.0%、「続けていくのは、やや難しい」が13.8%となっている。「Ⅱ以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が53.3%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」が18.9%、「続けていくのは、かなり難しい」が7.8%となっている。

図表2-8 認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)<+>



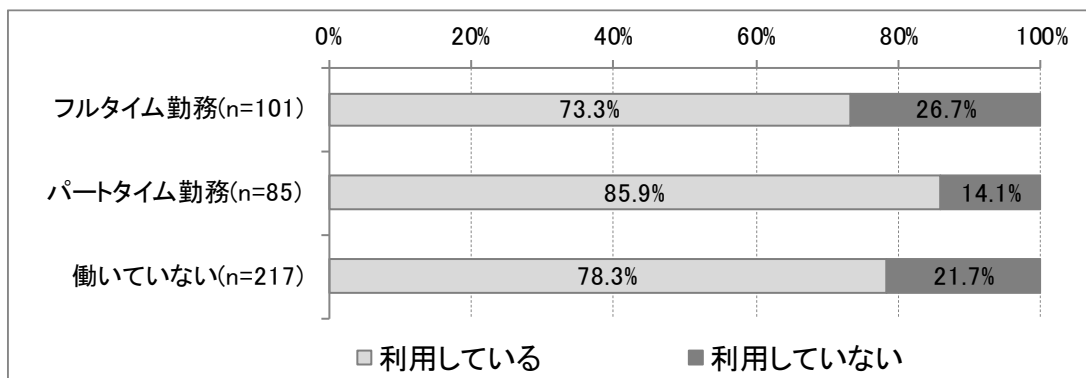
(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係  
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています(図表2-9～図表2-12)。
- 「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができます。さらに、サービスを利用していない人の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える人が、そうでない人と比較して特徴がみられる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができます。
- 例えば、就労継続が困難と考える人において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないこととなります(図表2-10、図表2-11)。
- 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。

【就労状況別・★介護保険サービス利用の有無】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が73.3%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が26.7%となっている。「パートタイム勤務」では「利用している」が85.9%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が14.1%となっている。「働いていない」では「利用している」が78.3%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が21.7%となっている。

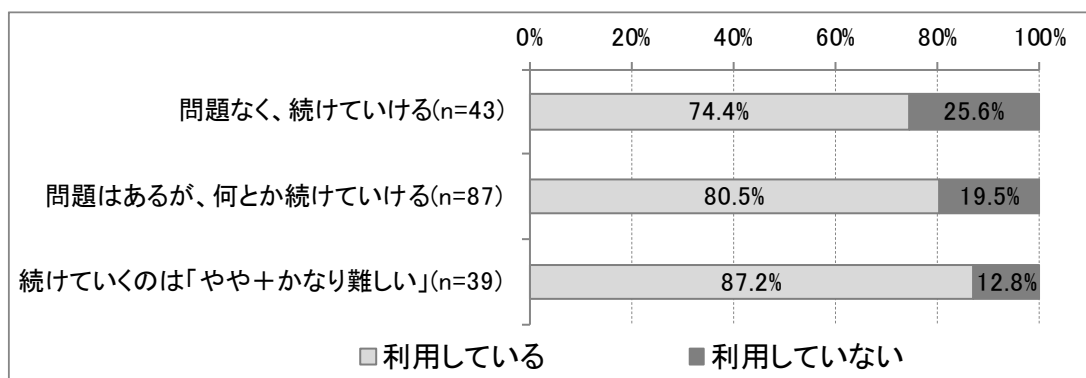
図表2-9 就労状況別・★介護保険サービス利用の有無



【就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が74.4%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が25.6%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が80.5%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が19.5%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「利用している」が87.2%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が12.8%となっている。

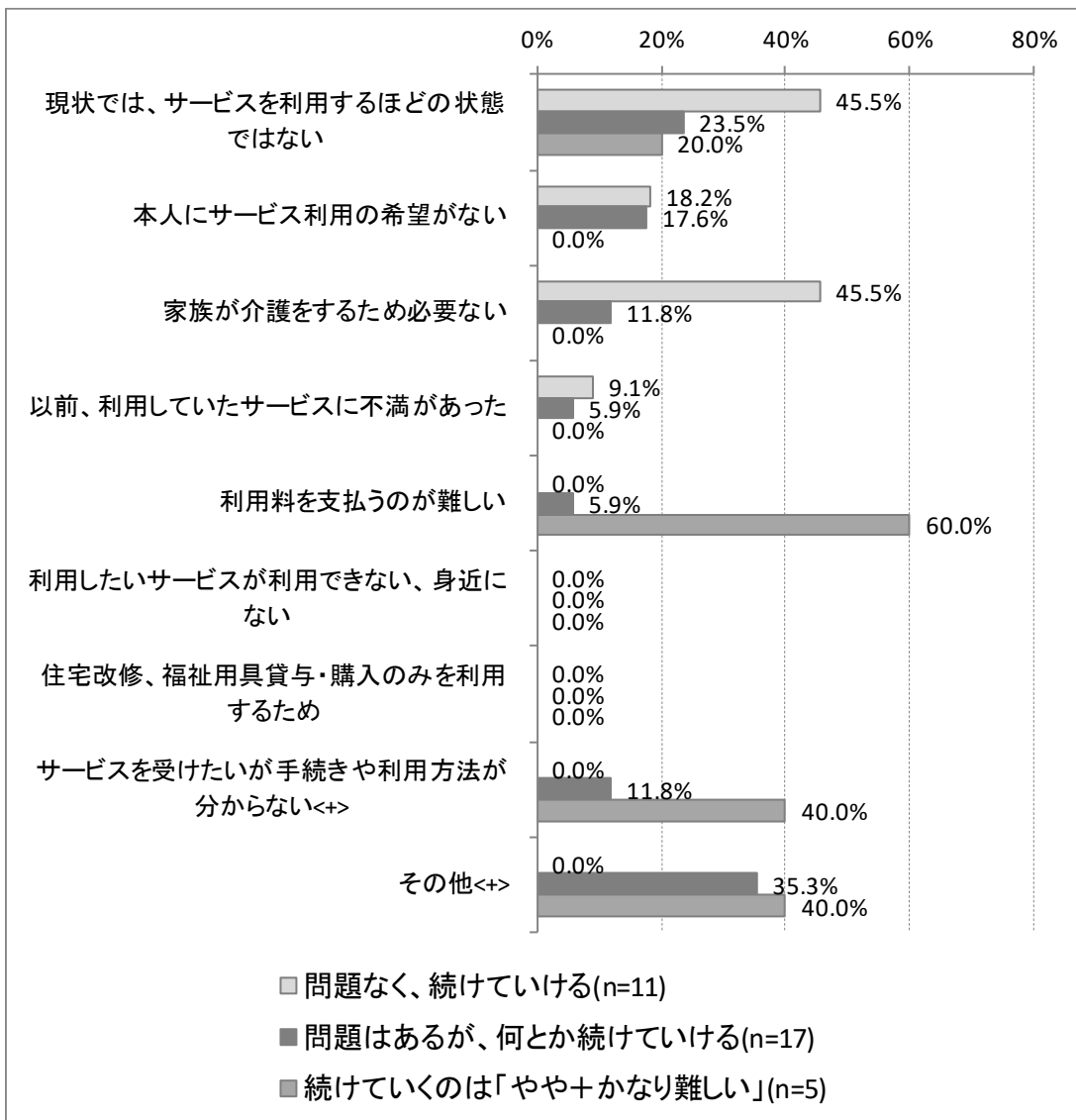
図表2-10 就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【就労継続見込み別・★サービス未利用の理由(フルタイム勤務+パート勤務)】

未利用の理由を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が18.2%、「以前、利用していたサービスに不満があった」が9.1%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「その他」が35.3%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が23.5%、「本人にサービス利用の希望がない」が17.6%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「利用料を支払うのが難しい」が60.0%ともっとも割合が高く、次いで「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が40.0%、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が20.0%となっている。

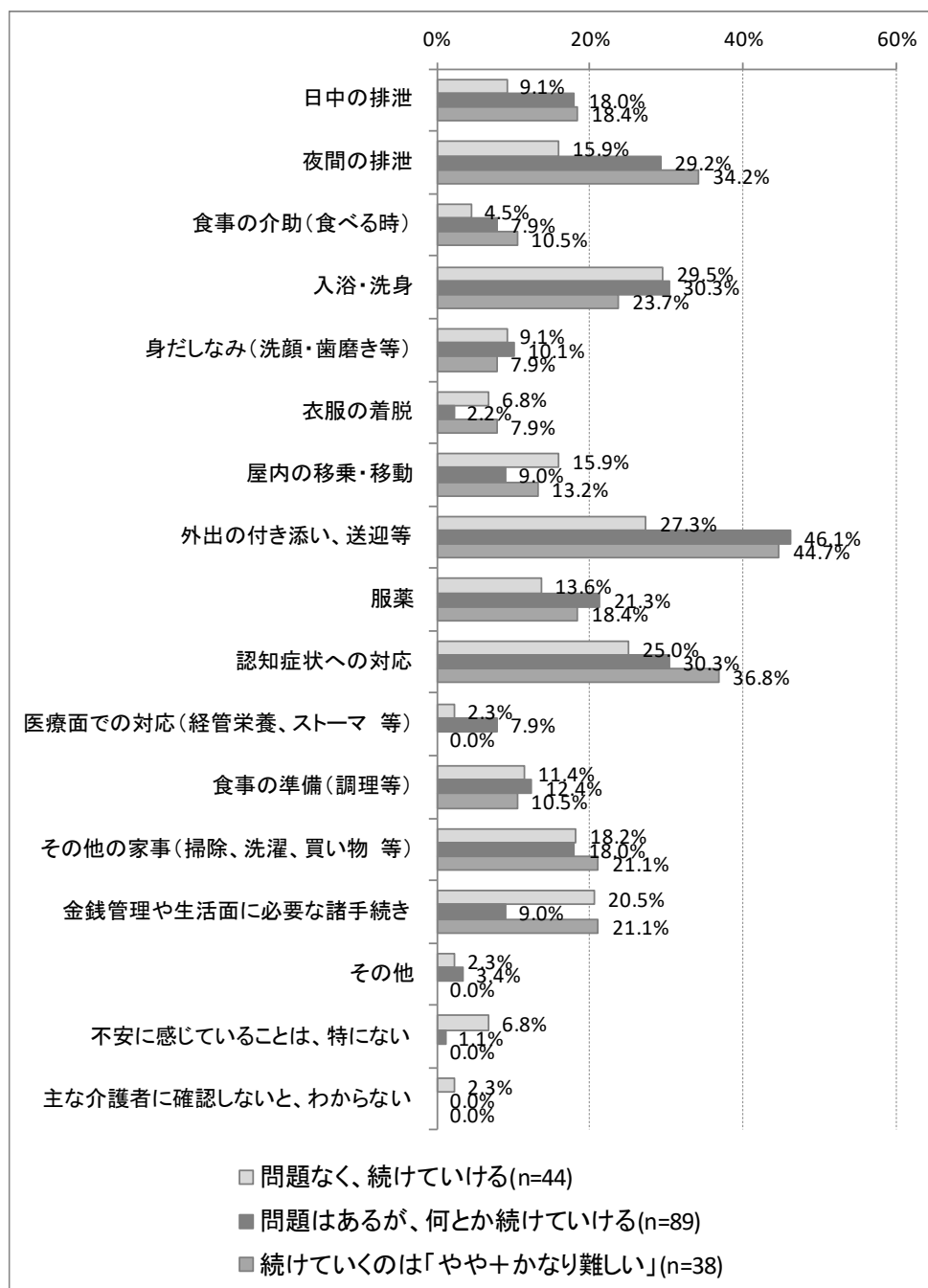
図表2-11 就労継続見込み別・★サービス未利用の理由(フルタイム勤務+パート勤務)



【就労継続見込み別・介護者が不安を感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者が不安を感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「入浴・洗身」が29.5%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が27.3%、「認知症状への対応」が25.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「外出の付き添い、送迎等」が46.1%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が30.3%、「夜間の排泄」が29.2%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「外出の付き添い、送迎等」が44.7%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が36.8%、「夜間の排泄」が34.2%となっている。

図表2-12 就労継続見込み別・介護者が不安を感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

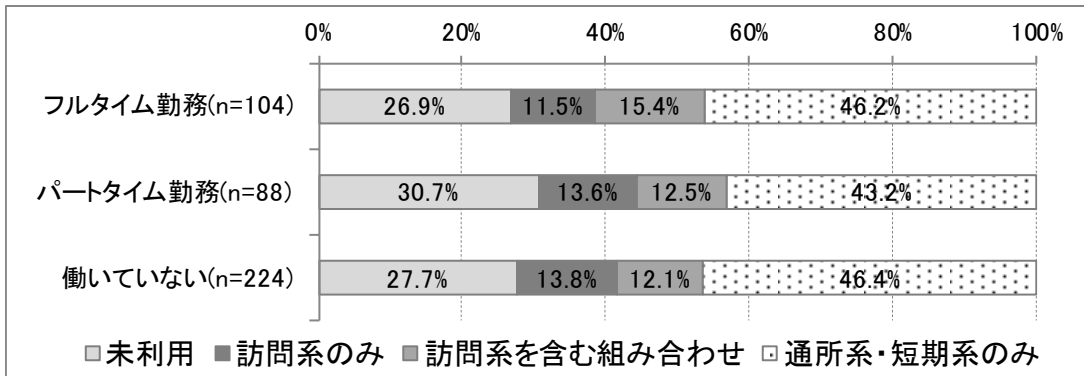
【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護2以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています(図表2-13～図表2-15)。
- ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差がみられるかどうかを把握することができます。
- また、「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が46.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が26.9%、「訪問系を含む組み合わせ」が15.4%となっている。「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が43.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が30.7%、「訪問系のみ」が13.6%となっている。「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が46.4%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が27.7%、「訪問系のみ」が13.8%となっている。

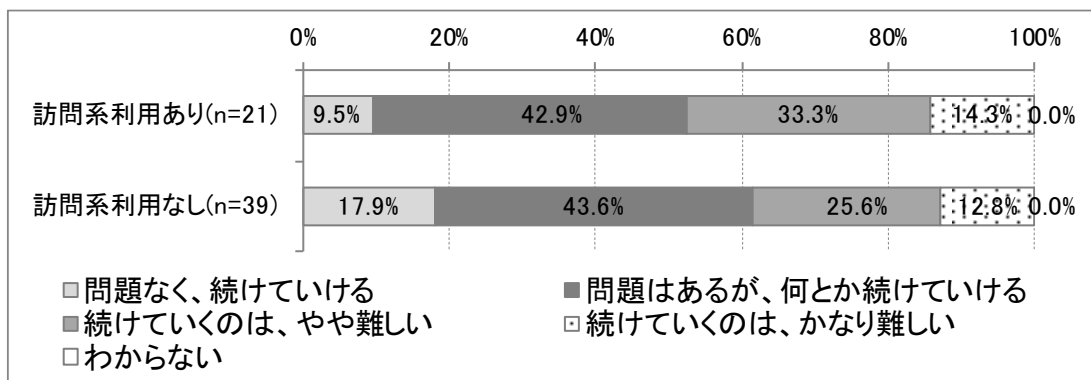
図表2-13 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が33.3%、「続けていくのは、かなり難しい」が14.3%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が43.6%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が25.6%、「問題なく、続けていける」が17.9%となっている。

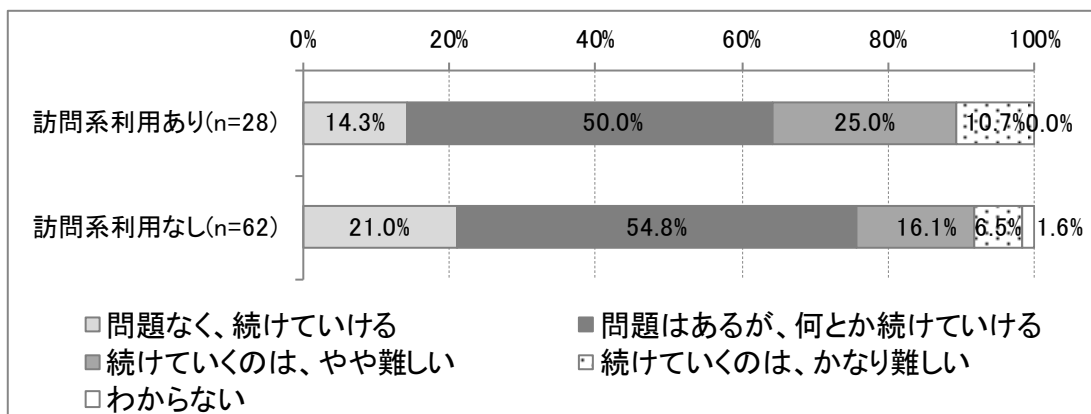
図表2-14 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み  
(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が25.0%、「問題なく、続けていける」が14.3%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が54.8%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が21.0%、「続けていくのは、やや難しい」が16.1%となっている。

図表2-15 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

【着目すべきポイント】

- ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています(図表2-16～図表2-18)。
- 「利用している保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差をみることにより、働いている介護者が必要と感じているが、実際には利用されていない生活支援サービスを把握することができます。
- 「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としています。
- さらに、要介護2以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える人のうち、どの程度の人が施設を検討しているかに着目しています。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性と、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができます。

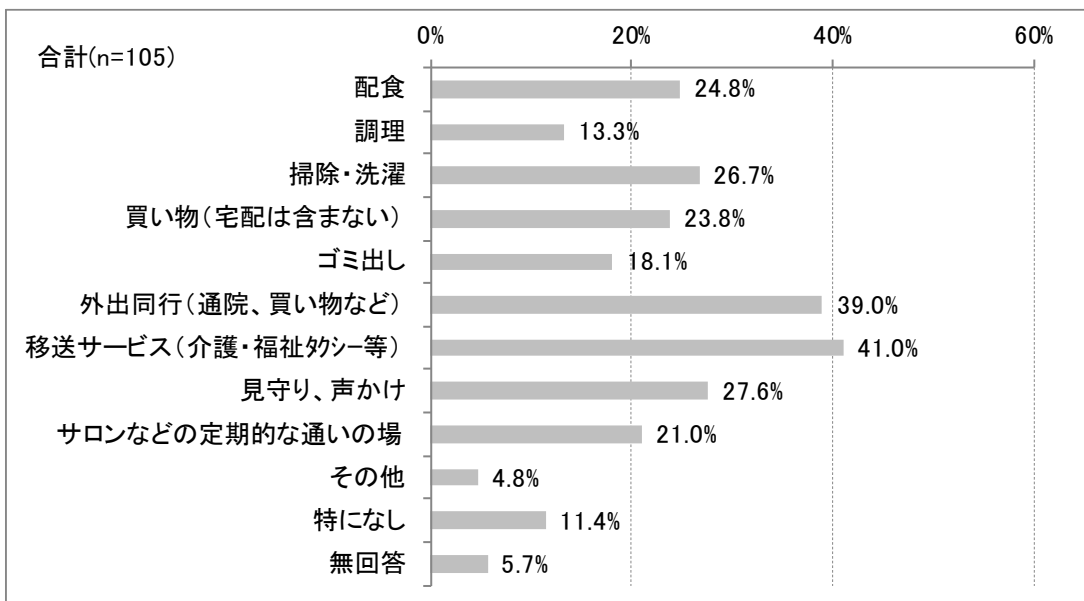
【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。
- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。

【★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(フルタイム勤務)】

「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」の割合が最も高く41.0%となっている。次いで、「外出同行(通院、買い物など)(39.0%)」、「見守り、声かけ(27.6%)」となっている。

図表2-16 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(フルタイム勤務)

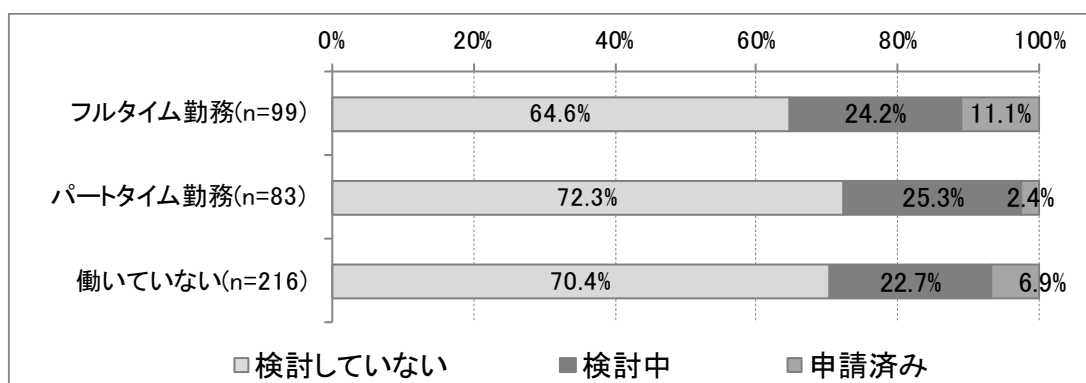




【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が64.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が24.2%、「申請済み」が11.1%となっている。「パートタイム勤務」では「検討していない」が72.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.3%、「申請済み」が2.4%となっている。「働いていない」では「検討していない」が70.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.7%、「申請済み」が6.9%となっている。

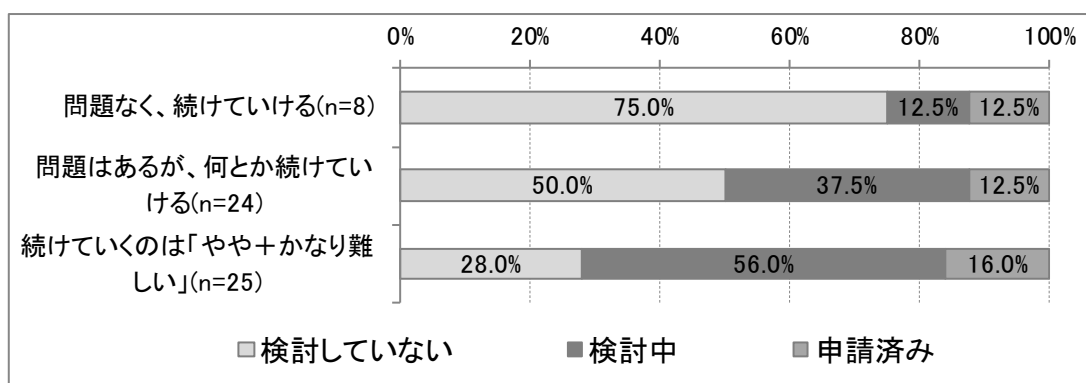
図表2-17 就労状況別・施設等検討の状況



【就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「検討していない」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が12.5%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が37.5%、「申請済み」が12.5%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「検討中」が56.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が28.0%、「申請済み」が16.0%となっている。

図表2-18 就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整

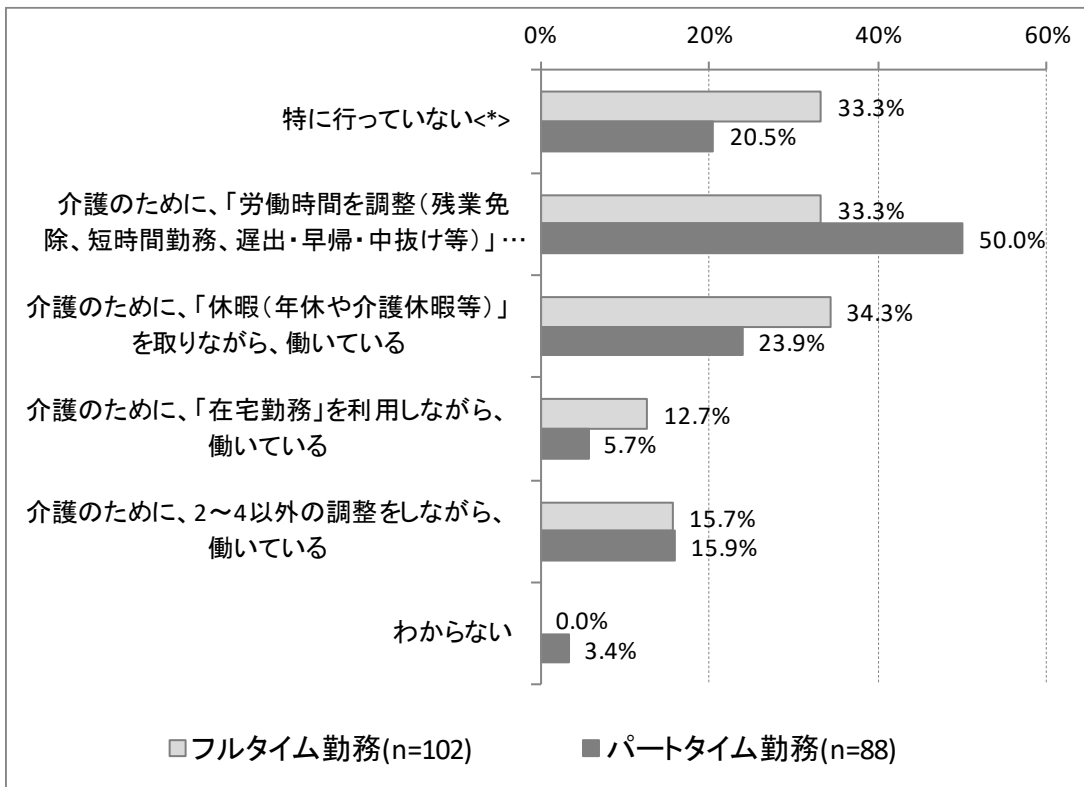
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護のための働き方の調整」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています(図表2-19～図表2-20)。
- 就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が34.3%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が33.3%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が15.7%となっている。「パートタイム勤務」では「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が50.0%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が23.9%、「特に行っていない」が20.5%となっている。

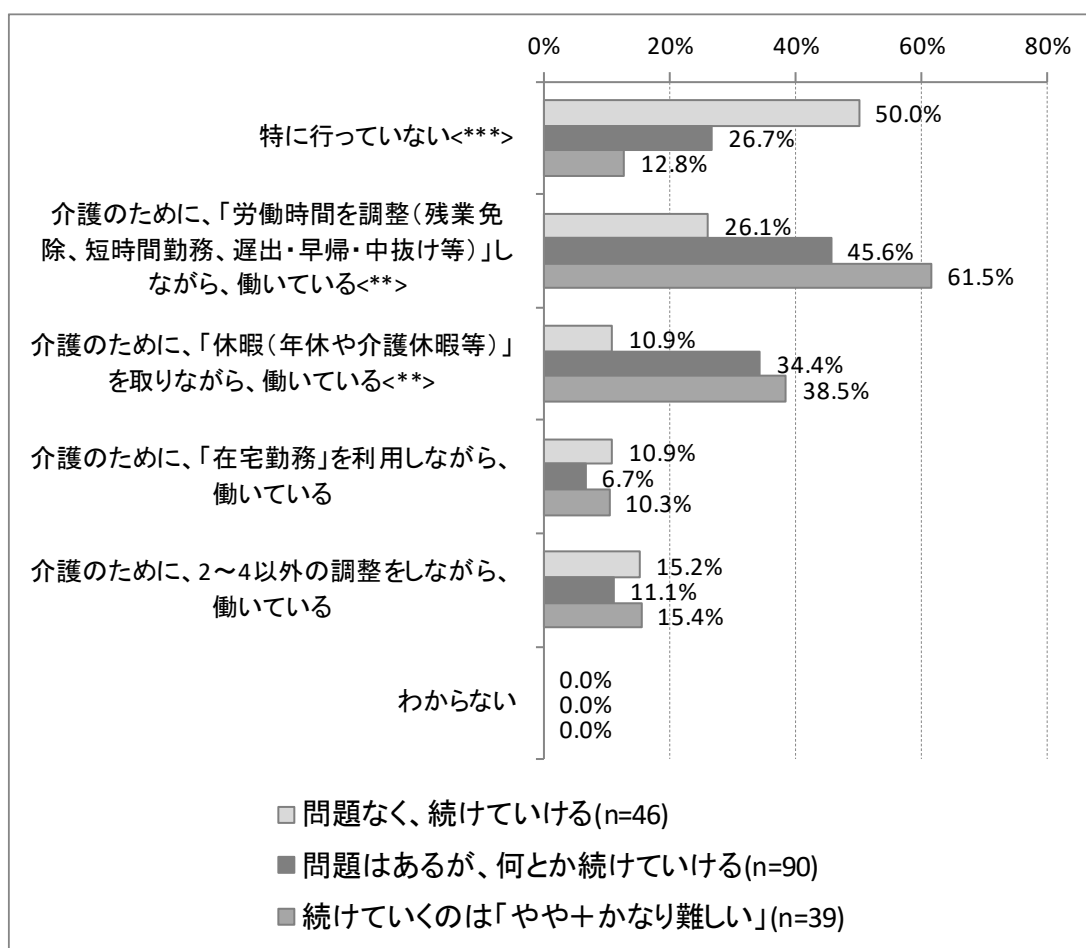
図表2-19 就労状況別・介護のための働き方の調整



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が26.1%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が15.2%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が45.6%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が34.4%、「特に行っていない」が26.7%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が61.5%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が38.5%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が15.4%となっている。

図表2-20 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



### 3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

#### 3.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。
- 具体的には、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行います。
- なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していません。

#### 3.2 集計結果と着目すべきポイント

##### (1) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

###### 【着目すべきポイント】

- 世帯類型別に「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています(図表3-1)。
- 「サービスの利用割合」については、世帯類型別の割合をアウトプット指標としてモニタリングしていくも考えられます。
- また、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、世帯類型別に異なる傾向がみられた場合は、世帯類型に応じたアプローチを検討していくことが重要になると考えられます。

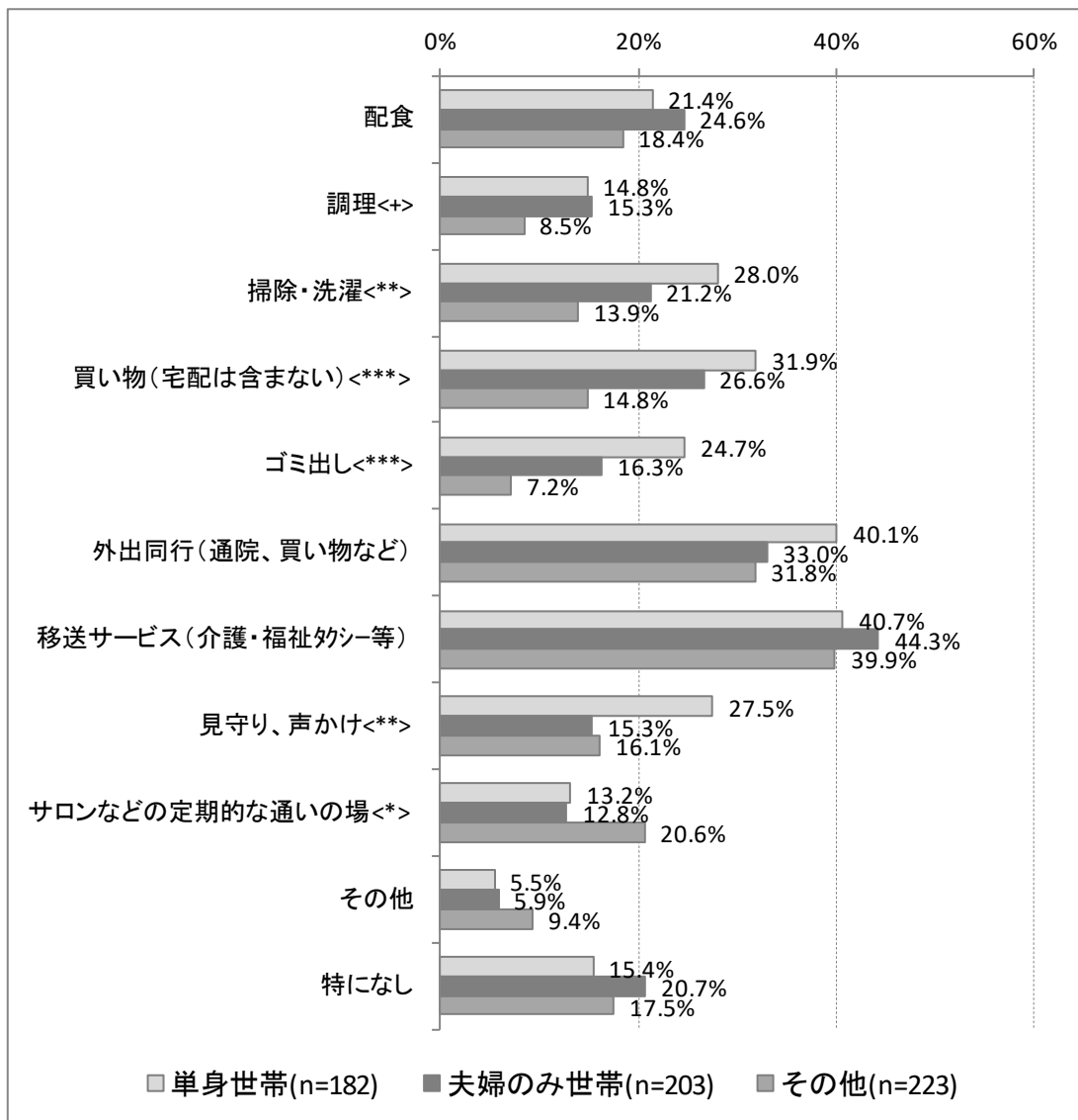
###### 【留意事項】

- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。
- 「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、特に「複数の支援・サービスを比較して、より優先順位の高い支援・サービスを明らかにする」といった視点でみることが重要です。

【世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が40.7%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が40.1%、「買い物(宅配は含まない)」が31.9%となっている。「夫婦のみ世帯」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が44.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が33.0%、「買い物(宅配は含まない)」が26.6%となっている。「その他」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が39.9%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が31.8%、「サロンなどの定期的な通いの場」が20.6%となっている。

図表3-1 世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(2) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

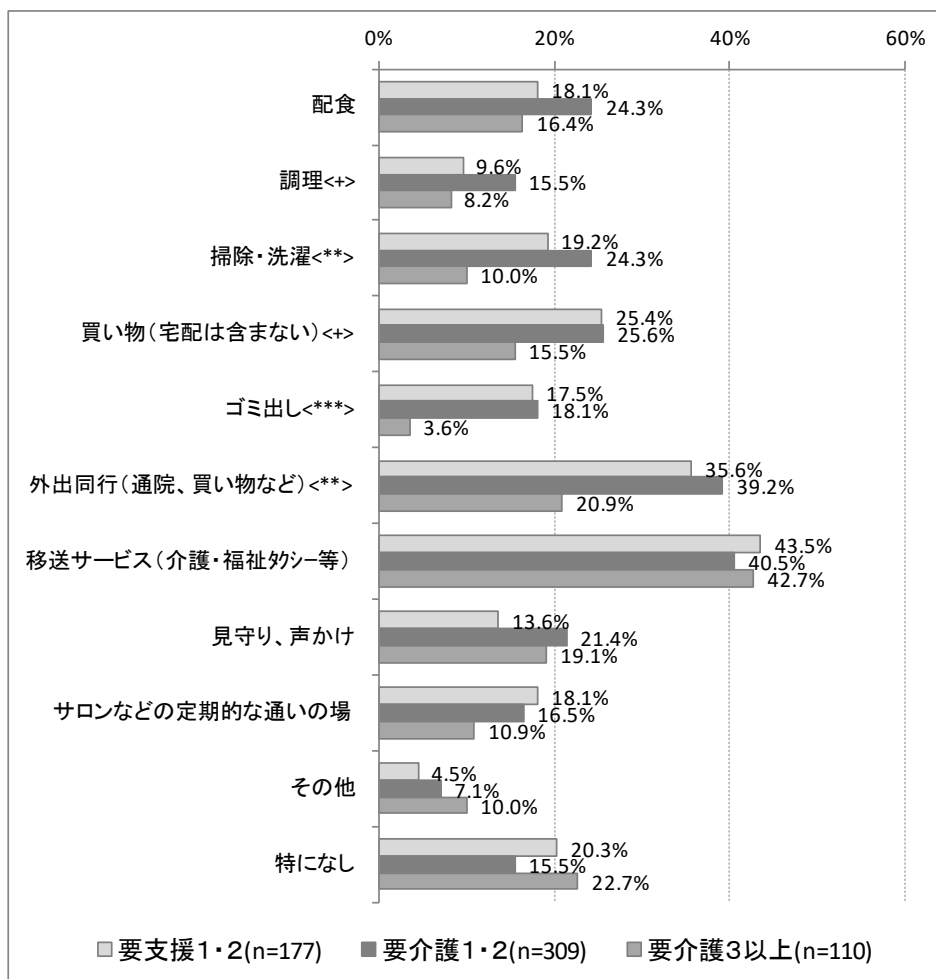
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています(図表3-2～図表3-5)。
- 特に、各世帯類型の要介護度別のニーズに着目しながら、各地域の実情に応じた取組を推進していくことが必要です。

【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が43.5%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が35.6%、「買い物(宅配は含まない)」が25.4%となっている。「要介護1・2」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が40.5%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が39.2%、「買い物(宅配は含まない)」が25.6%となっている。「要介護3以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が42.7%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が22.7%、「外出同行(通院、買い物など)」が20.9%となっている。

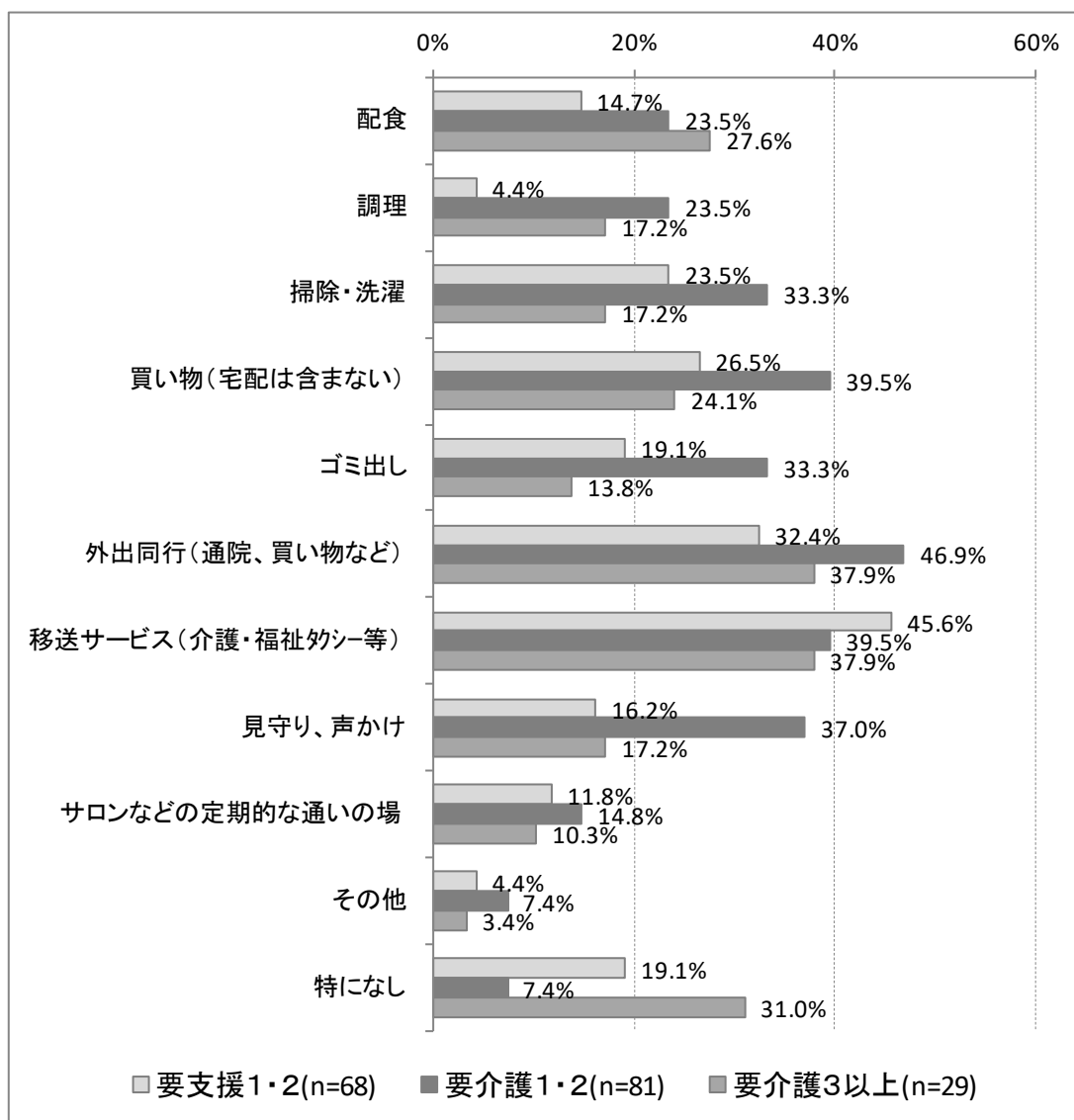
図表3-2 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が45.6%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が32.4%、「買い物(宅配は含まない)」が26.5%となっている。「要介護1・2」では「外出同行(通院、買い物など)」が46.9%ともっとも割合が高く、次いで「買い物(宅配は含まない)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が39.5%、「見守り、声かけ」が37.0%となっている。「要介護3以上」では「外出同行(通院、買い物など)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が37.9%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が31.0%、「配食」が27.6%となっている。

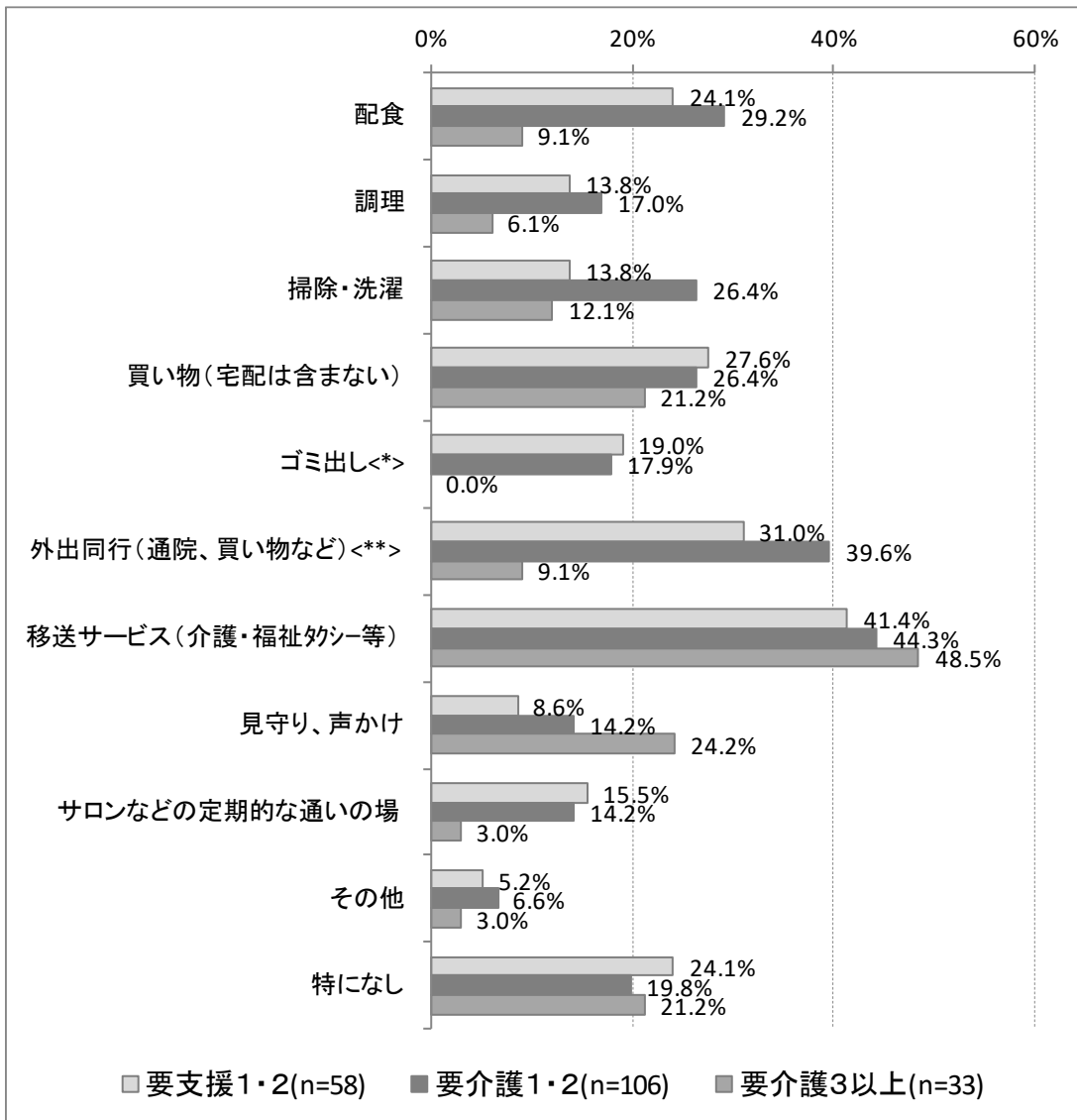
図表3-3 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が41.4%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が31.0%、「買い物(宅配は含まない)」が27.6%となっている。「要介護1・2」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が44.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が39.6%、「配食」が29.2%となっている。「要介護3以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が48.5%ともっとも割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が24.2%、「買い物(宅配は含まない)」、「特になし」が21.2%となっている。

図表3-4 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)

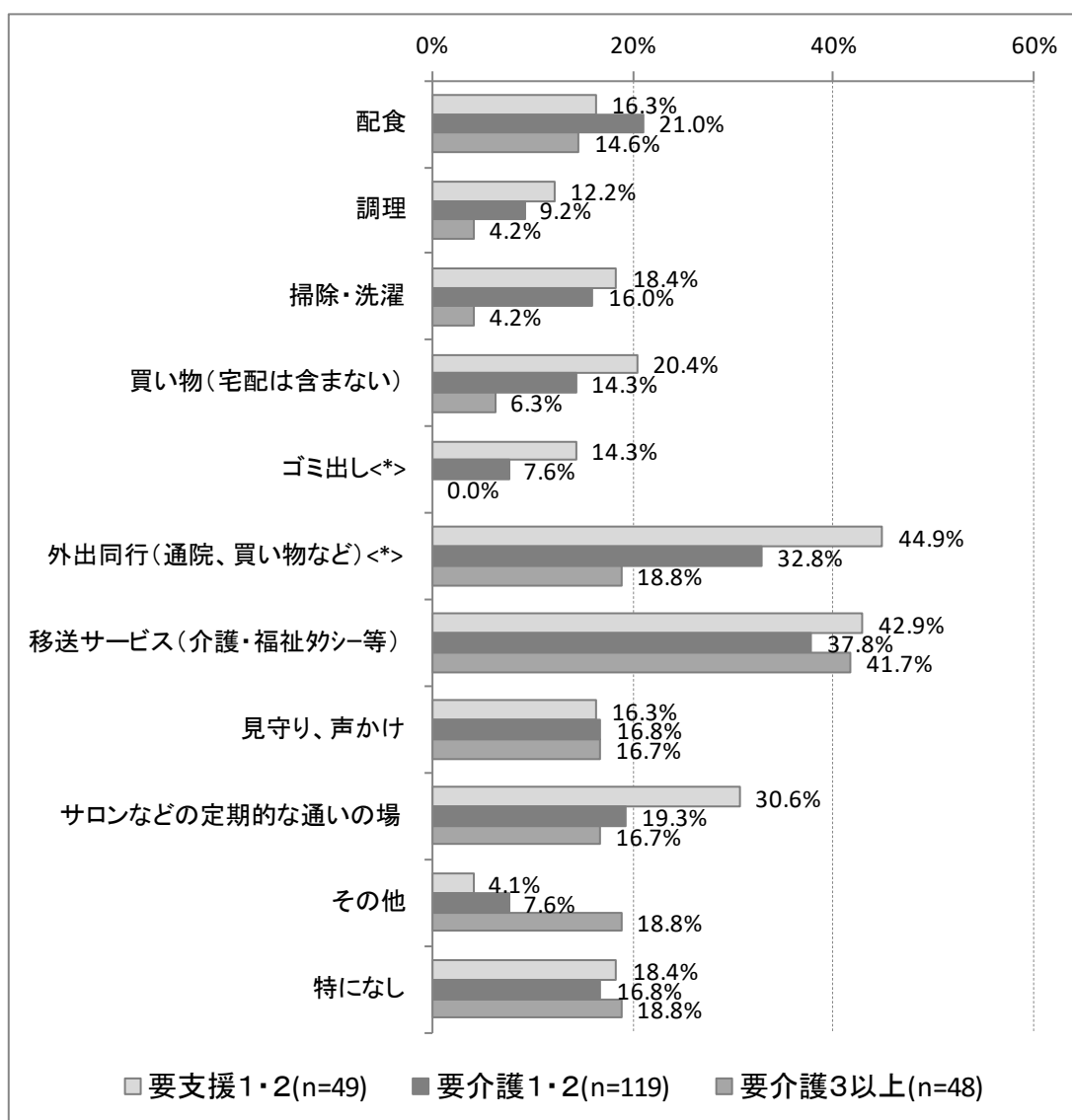




【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出同行(通院、買い物など)」が44.9%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が42.9%、「サロンなどの定期的な通いの場」が30.6%となっている。「要介護1・2」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が37.8%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が32.8%、「配食」が21.0%となっている。「要介護3以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が41.7%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」、「その他」、「特になし」が18.8%、「見守り、声かけ」、「サロンなどの定期的な通いの場」が16.7%となっている。

図表3-5 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)



## 4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

### 4.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。
- 将来の高齢世帯の世帯類型の構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

### 4.2 集計結果と着目すべきポイント

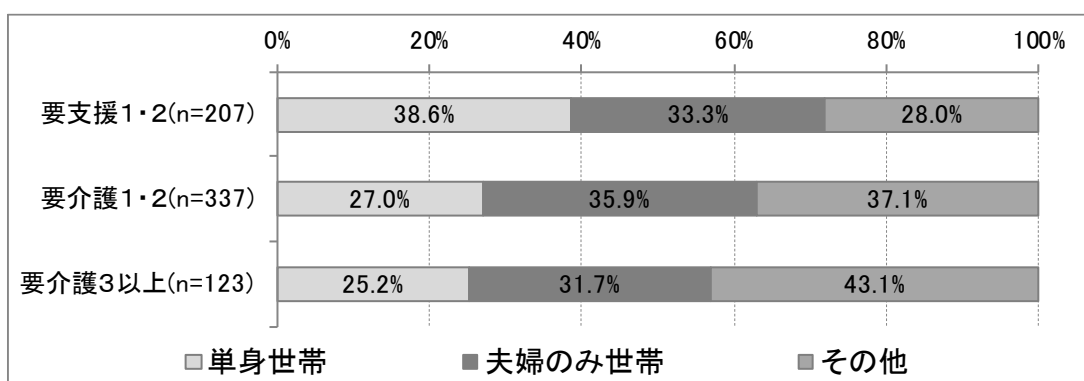
#### (1) 基礎集計

- 「要介護度別の世帯類型の割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています(図表4-1、図表4-2)。
- 要介護度の重度化に伴う、世帯類型の変化などを確認してください。

#### 【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「単身世帯」が38.6%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が33.3%、「その他」が28.0%となっている。「要介護1・2」では「その他」が37.1%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が35.9%、「単身世帯」が27.0%となっている。「要介護3以上」では「その他」が43.1%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が31.7%、「単身世帯」が25.2%となっている。

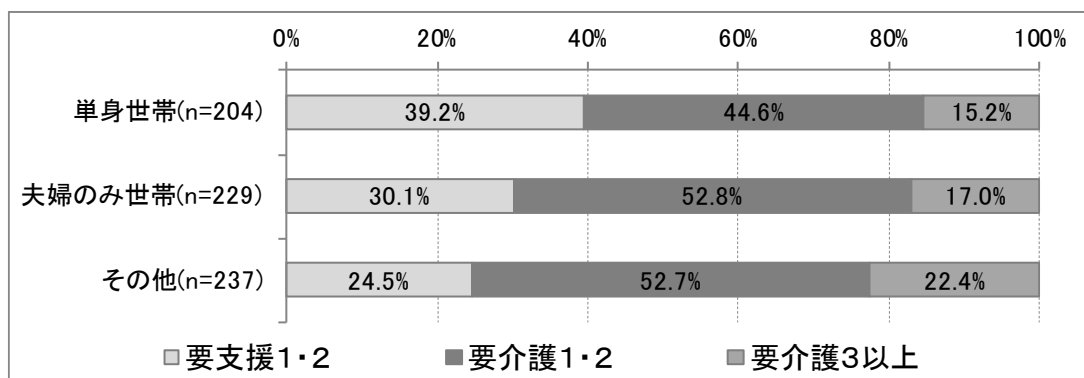
図表4-1 要介護度別・世帯類型<\*>



## 【世帯類型別・要介護度】

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要介護1・2」が44.6%ともっとも割合が高く、次いで「要支援1・2」が39.2%、「要介護3以上」が15.2%となっている。「夫婦のみ世帯」では「要介護1・2」が52.8%ともっとも割合が高く、次いで「要支援1・2」が30.1%、「要介護3以上」が17.0%となっている。「その他」では「要介護1・2」が52.7%ともっとも割合が高く、次いで「要支援1・2」が24.5%、「要介護3以上」が22.4%となっている。

図表4-2 世帯類型別・要介護度&lt;\*&gt;



(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

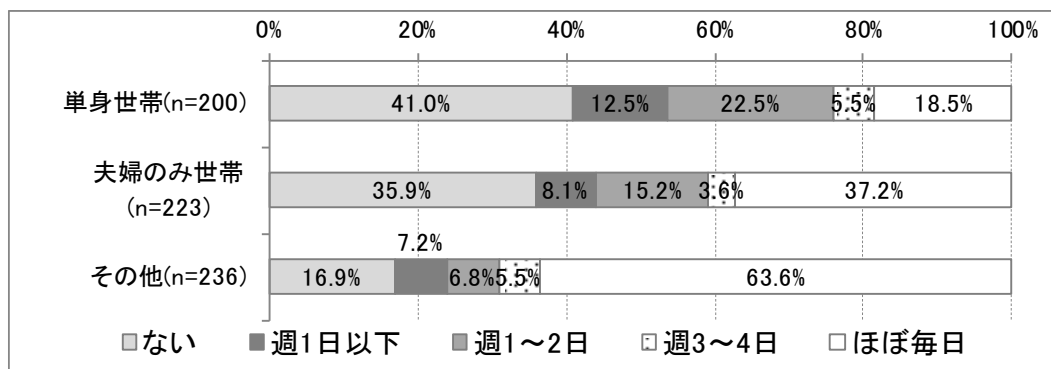
【着目すべきポイント】

- 図表4-3では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、図表4-4～図表4-6では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。
- 「単身世帯」については、同居の家族等はいなくても、近居の家族等による介護が行われているケースも多いと考えられます。中重度の単身世帯のうち、家族等の介護がない中で在宅生活を送っているケースがどの程度あるかなど、現状についてご確認ください。

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「ない」が41.0%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が22.5%、「ほぼ毎日」が18.5%となっている。「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が37.2%と最も割合が高く、次いで「ない」が35.9%、「週1～2日」が15.2%となっている。「その他」では「ほぼ毎日」が63.6%と最も割合が高く、次いで「ない」が16.9%、「週1日以下」が7.2%となっている。

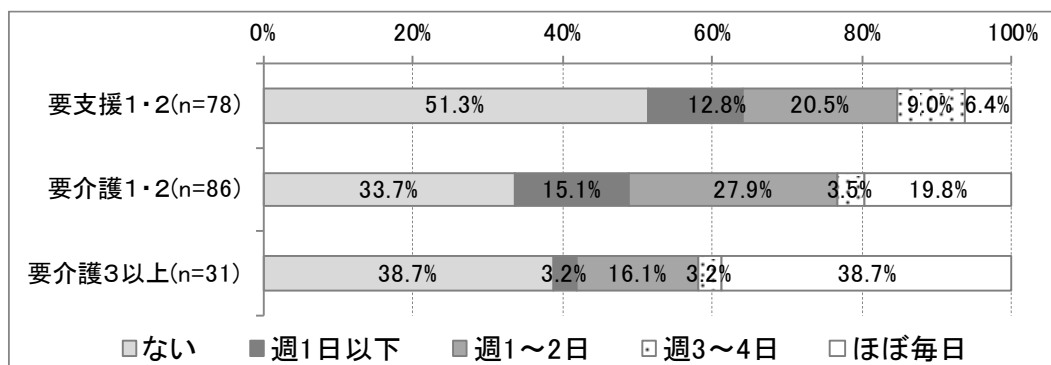
図表4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度<\*\*\*>



【要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が51.3%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が20.5%、「週1日以下」が12.8%となっている。「要介護1・2」では「ない」が33.7%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が27.9%、「ほぼ毎日」が19.8%となっている。「要介護3以上」では「ない」、「ほぼ毎日」が38.7%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が16.1%、「週1日以下」、「週3～4日」が3.2%となっている。

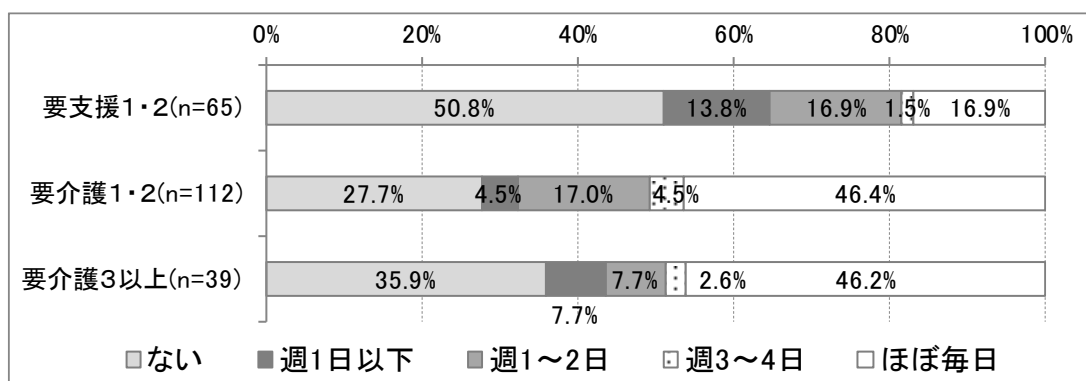
図表4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)<\*\*>



【要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が50.8%ともっとも割合が高く、次いで「週1～2日」、「ほぼ毎日」が16.9%、「週1日以下」が13.8%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が46.4%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が27.7%、「週1～2日」が17.0%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が46.2%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が35.9%、「週1日以下」、「週1～2日」が7.7%となっている。

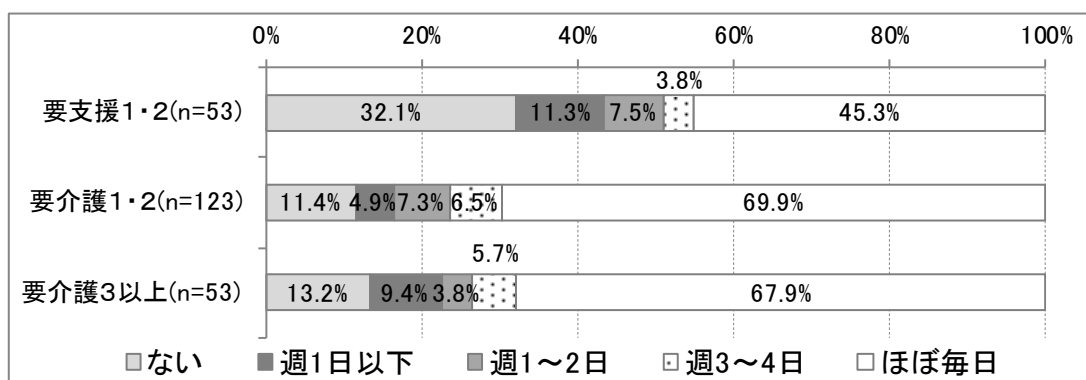
図表4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯) <\*>



【要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ほぼ毎日」が45.3%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が32.1%、「週1日以下」が11.3%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が69.9%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が11.4%、「週1～2日」が7.3%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が67.9%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が13.2%、「週1日以下」が9.4%となっている。

図表4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯) <\*>



(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

【着目すべきポイント】

- 要介護度別・認知症自立度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています(図表4-7～図表4-12)。
- サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類(未利用除く)に簡略化したものを使用しています。
- 重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを、世帯類型別に把握することができます。
- また、世帯類型別の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。
- 例えば、特に今後「要介護度が中重度の単身世帯」が増加すると見込まれる場合は、単身世帯の要介護者が要介護度の重度化に伴いどのようなサービス利用の組み合わせを増加させているかに着目し、推測することなどが考えられます。

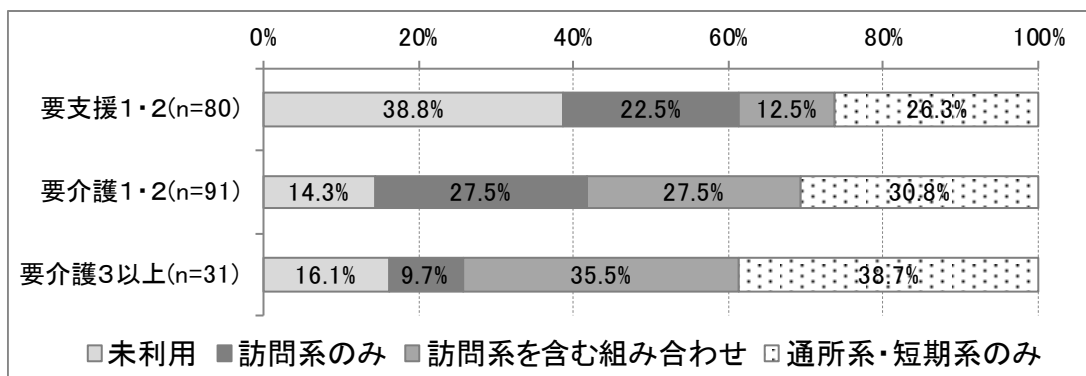
【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が38.8%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が26.3%、「訪問系のみ」が22.5%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が30.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が27.5%、「未利用」が14.3%となっている。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が38.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が35.5%、「未利用」が16.1%となっている。

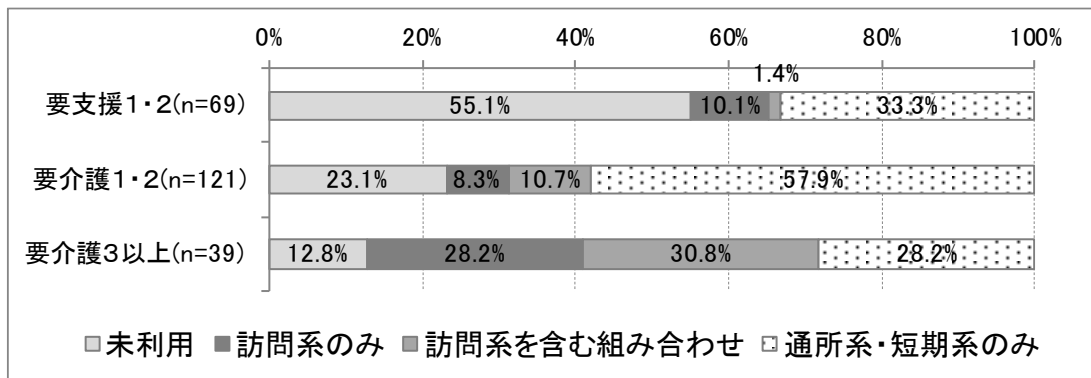
図表4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯) <\*\*\*>



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が55.1%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が33.3%、「訪問系のみ」が10.1%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が57.9%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が23.1%、「訪問系を含む組み合わせ」が10.7%となっている。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が30.8%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が28.2%、「未利用」が12.8%となっている。

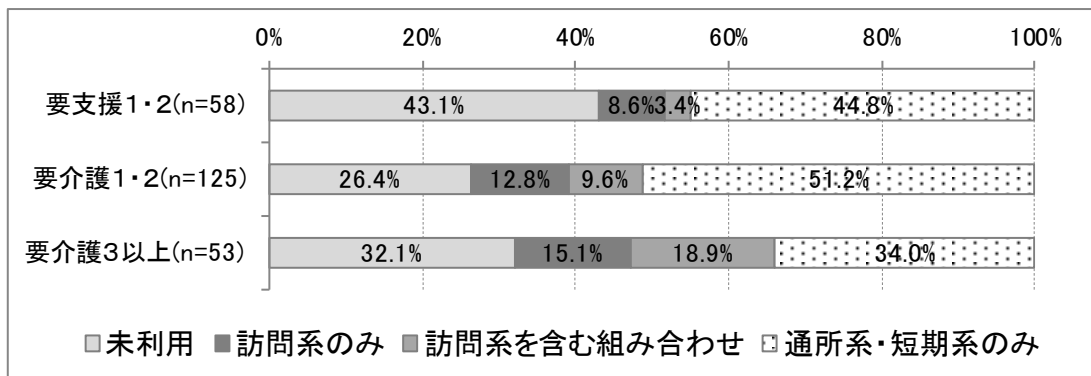
図表4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯) <\*\*\*>



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「通所系・短期系のみ」が44.8%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が43.1%、「訪問系のみ」が8.6%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が51.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が26.4%、「訪問系のみ」が12.8%となっている。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が34.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が32.1%、「訪問系を含む組み合わせ」が18.9%となっている。

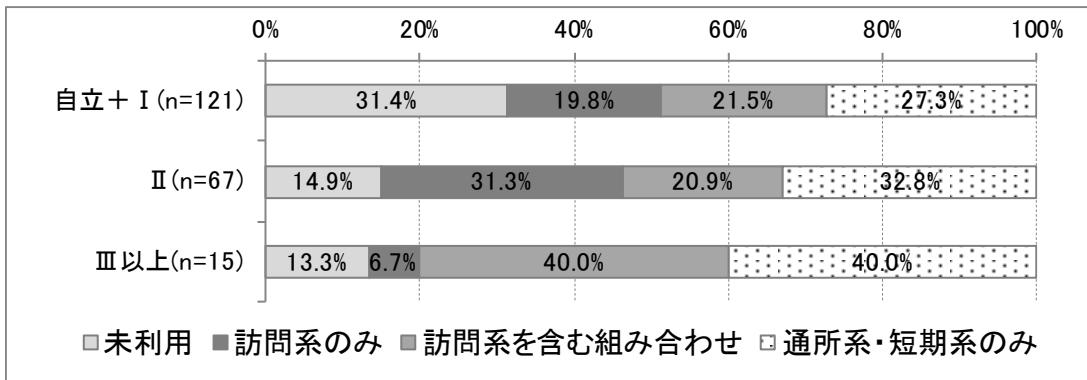
図表4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯) <\*>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「未利用」が31.4%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が21.5%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が32.8%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が31.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が20.9%となっている。「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が13.3%、「訪問系のみ」が6.7%となっている。

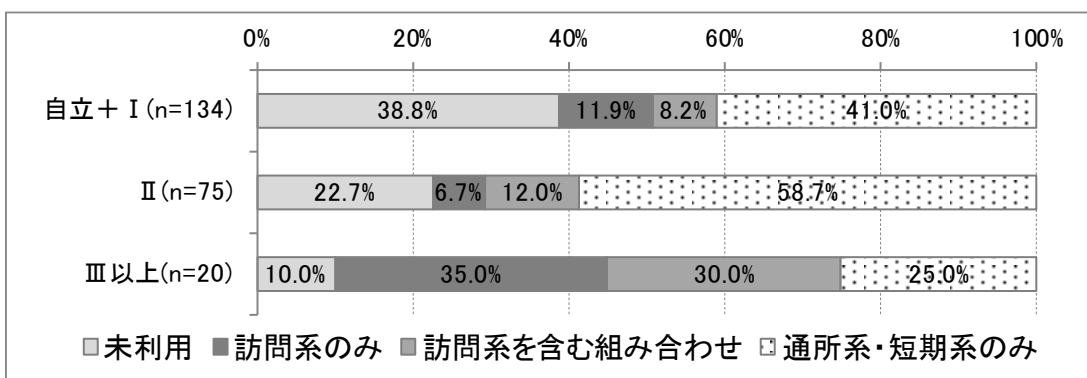
図表4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)<\*>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が41.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が38.8%、「訪問系のみ」が11.9%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が58.7%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が22.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が12.0%となっている。「Ⅲ以上」では「訪問系のみ」が35.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が30.0%、「通所系・短期系のみ」が25.0%となっている。

図表4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)<\*\*\*>

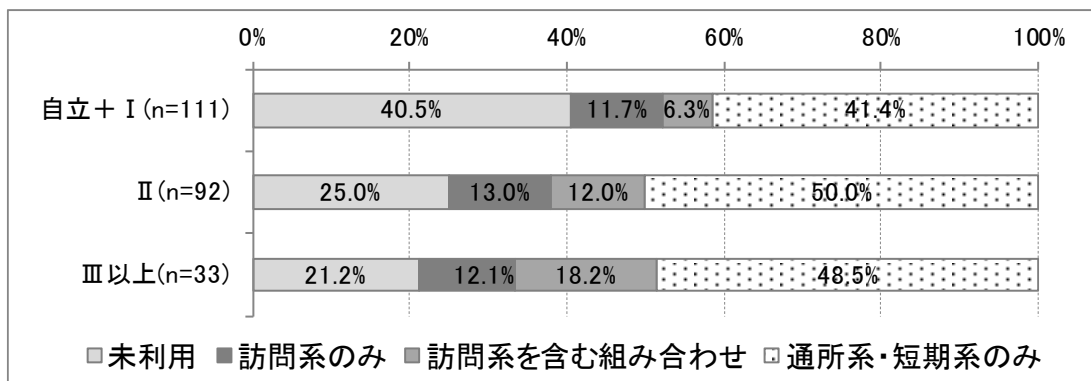




【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が41.4%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が40.5%、「訪問系のみ」が11.7%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が25.0%、「訪問系のみ」が13.0%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が48.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が21.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が18.2%となっている。

図表4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)



(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

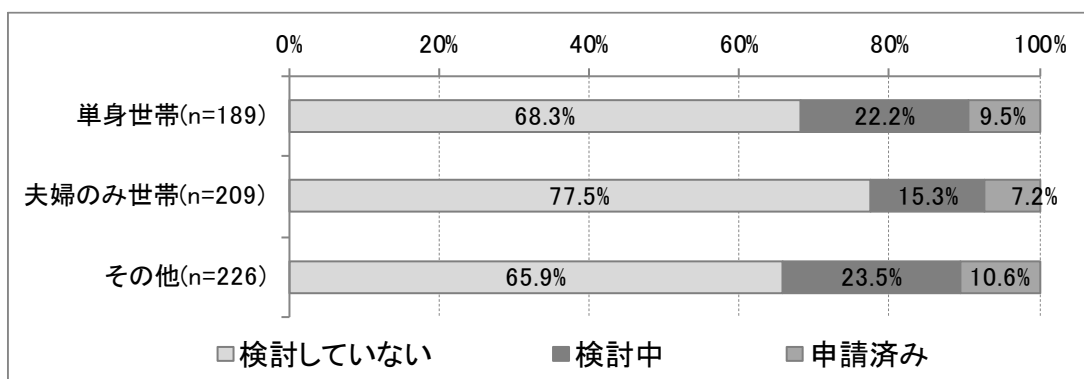
【着目すべきポイント】

- ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています(図表4-13～図表4-19)。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「世帯類型」ごとの特徴を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

【世帯類型別・施設等検討の状況(全要介護度)】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が68.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が22.2%、「申請済み」が9.5%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が77.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が15.3%、「申請済み」が7.2%となっている。「その他」では「検討していない」が65.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.5%、「申請済み」が10.6%となっている。

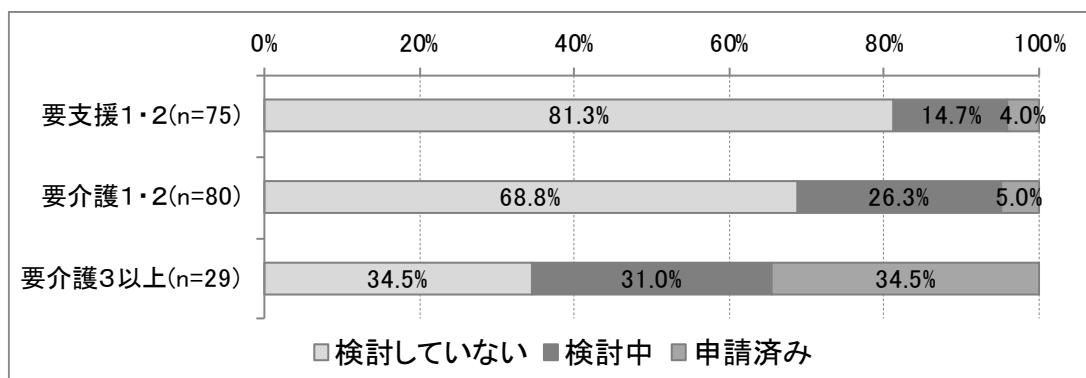
図表4-13 世帯類型別・施設等検討の状況(全要介護度)



【要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が81.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が14.7%、「申請済み」が4.0%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が68.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が26.3%、「申請済み」が5.0%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」、「申請済み」が34.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が31.0%となっている。

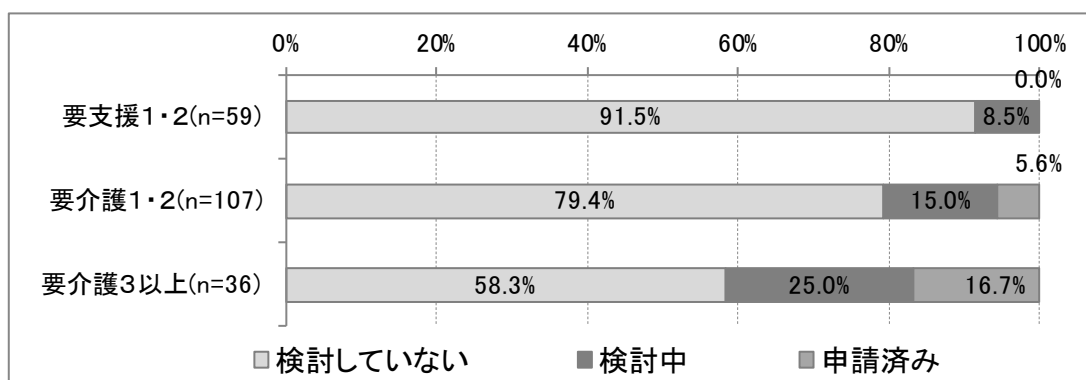
図表4-14 要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯) <\*\*\*>



【要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が91.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が8.5%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が79.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が15.0%、「申請済み」が5.6%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が58.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が16.7%となっている。

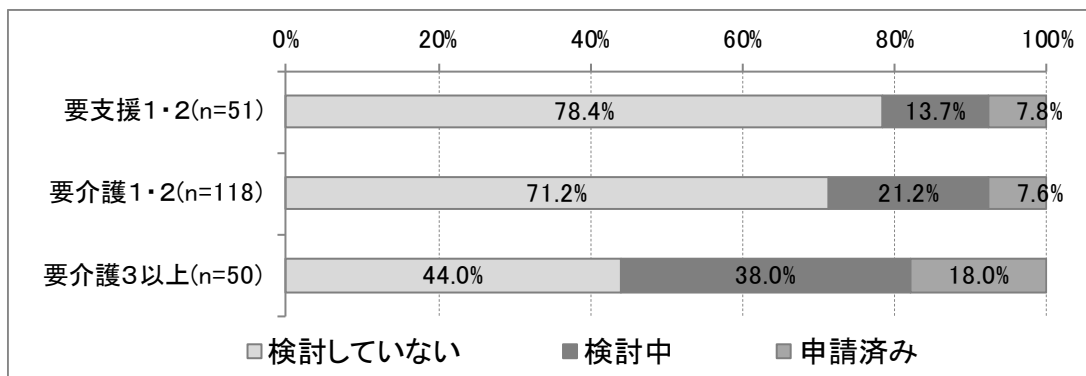
図表4-15 要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯) <\*>



【要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が78.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が13.7%、「申請済み」が7.8%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が71.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が21.2%、「申請済み」が7.6%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が44.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が38.0%、「申請済み」が18.0%となっている。

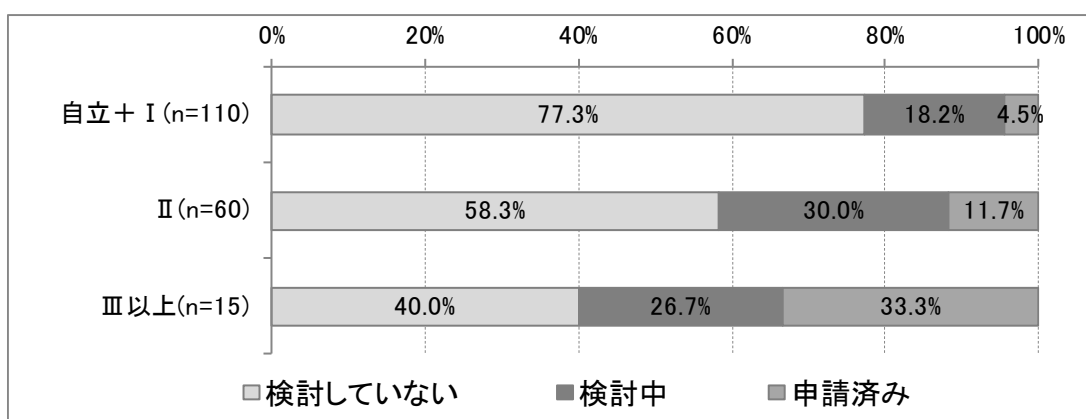
図表4-16 要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯) <\*>



【認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「検討していない」が77.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.2%、「申請済み」が4.5%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が58.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が30.0%、「申請済み」が11.7%となっている。「Ⅲ以上」では「検討していない」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が33.3%、「検討中」が26.7%となっている。

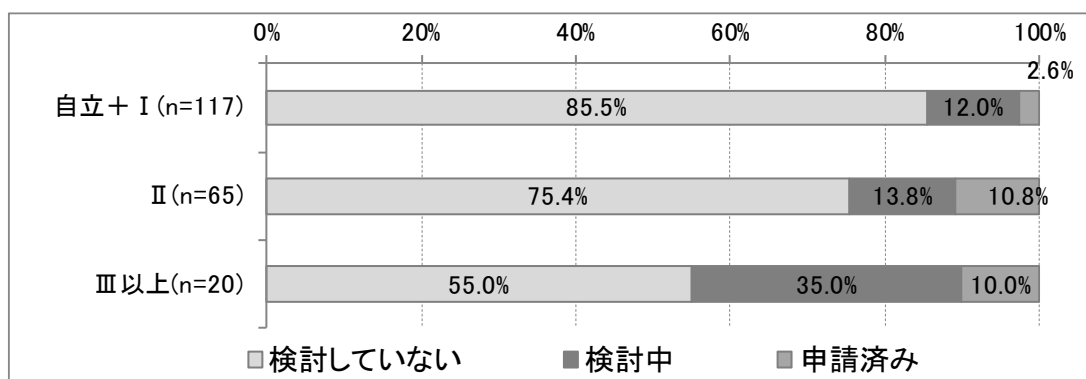
図表4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯) <\*\*\*>



【認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「検討していない」が85.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が12.0%、「申請済み」が2.6%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が75.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が13.8%、「申請済み」が10.8%となっている。「Ⅲ以上」では「検討していない」が55.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が35.0%、「申請済み」が10.0%となっている。

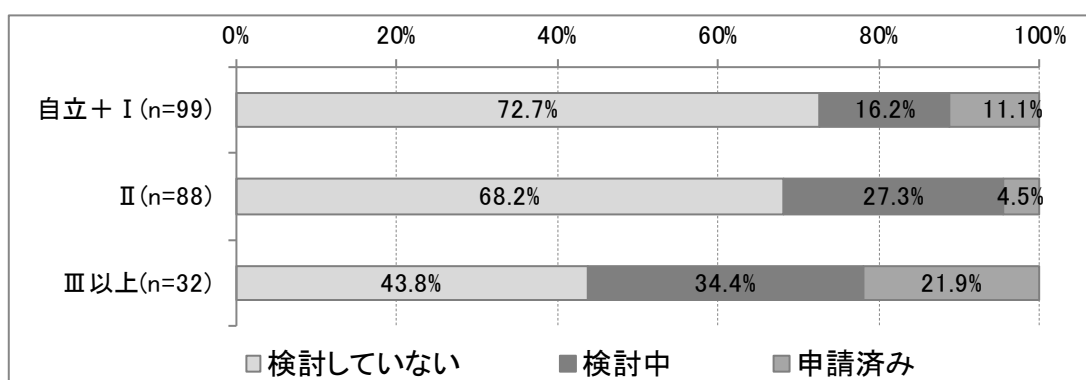
図表4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯) <\*>



【認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「検討していない」が72.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が16.2%、「申請済み」が11.1%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が68.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.3%、「申請済み」が4.5%となっている。「Ⅲ以上」では「検討していない」が43.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が34.4%、「申請済み」が21.9%となっている。

図表4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯) <\*>



## 5 サービス未利用の理由など

### 5.1 集計・分析の狙い

- ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。
- 主要なデータは、テーマ1～テーマ5において整理をしていますが、ここで整理する集計結果も必要に応じてご活用ください。

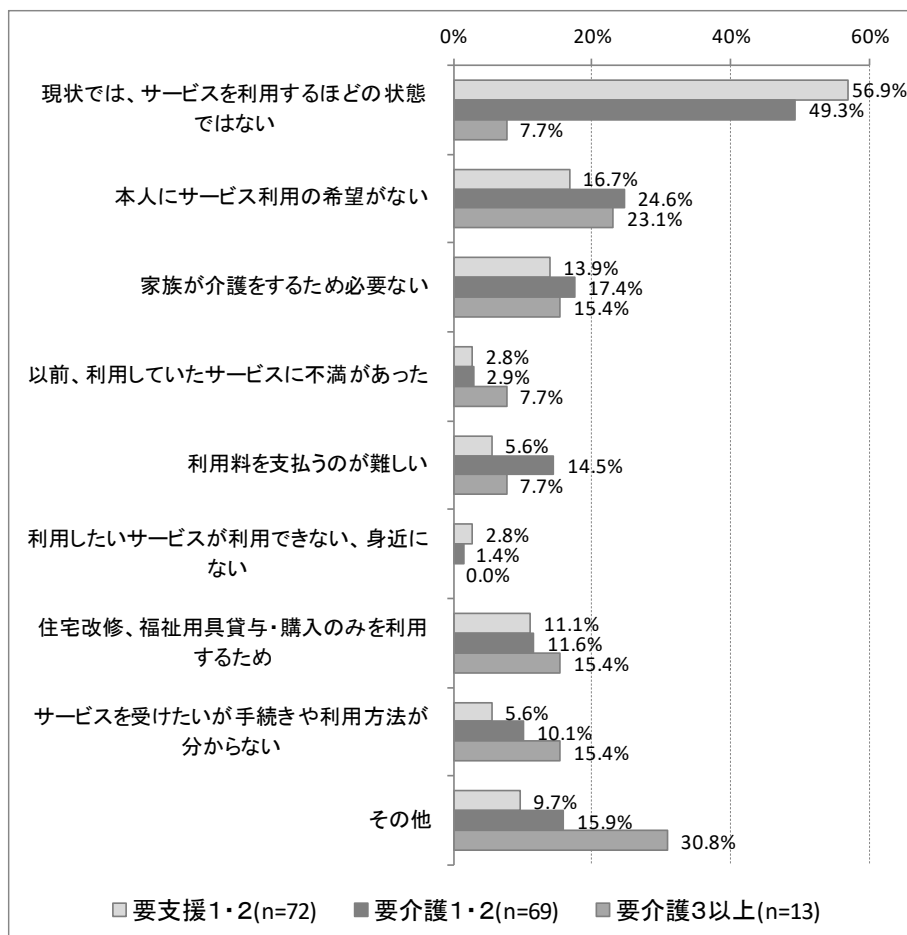
### 5.2 集計結果(参考)

#### (1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

##### 【要介護度別の★サービス未利用の理由】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が56.9%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が16.7%、「家族が介護をするため必要ない」が13.9%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が49.3%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が24.6%、「家族が介護をするため必要ない」が17.4%となっている。「要介護3以上」では「その他」が30.8%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が23.1%、「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が15.4%となっている。

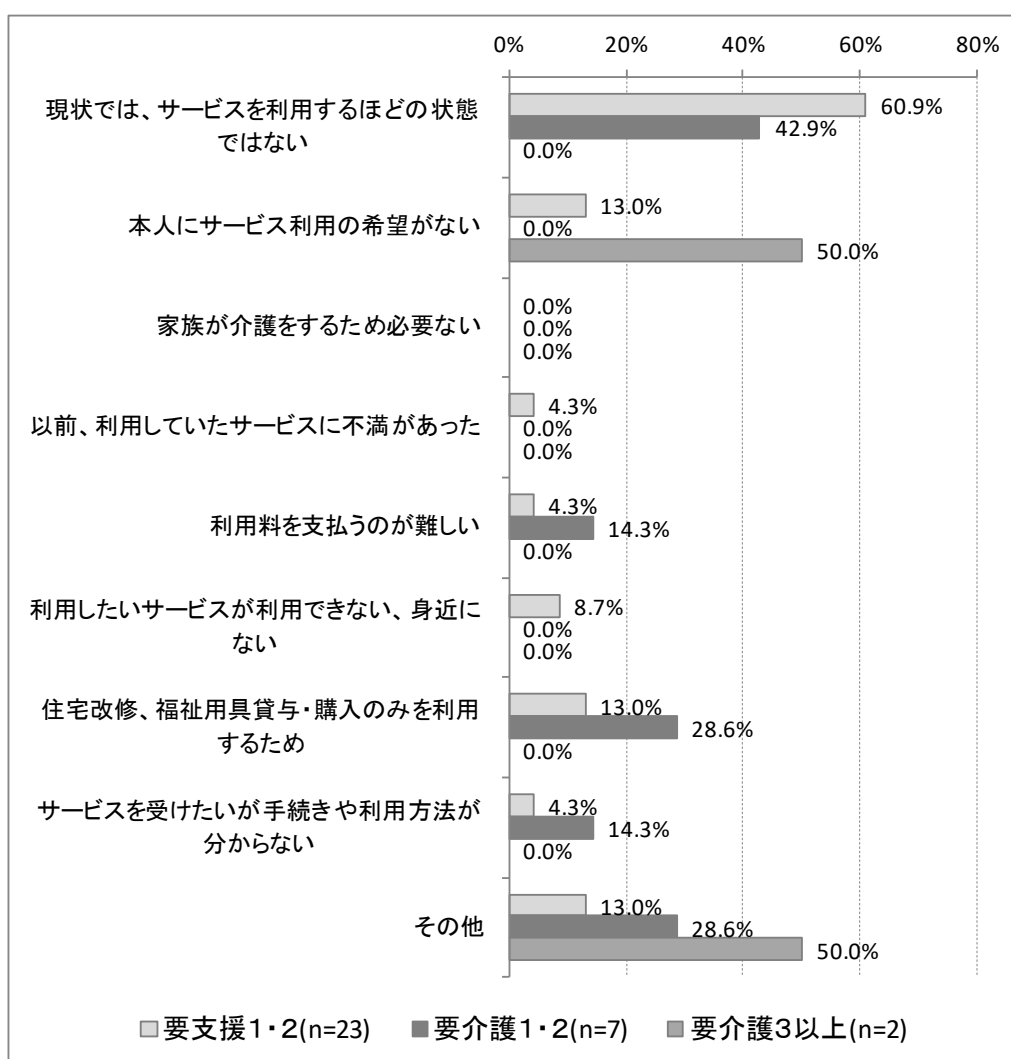
図表5-1 要介護度別の★サービス未利用の理由



【要介護度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が60.9%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「その他」が13.0%、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」が8.7%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が42.9%と最も割合が高く、次いで「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「その他」が28.6%、「利用料を支払うのが難しい」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が14.3%となっている。「要介護3以上」では「本人にサービス利用の希望がない」、「その他」が50.0%と最も割合が高くなっている。

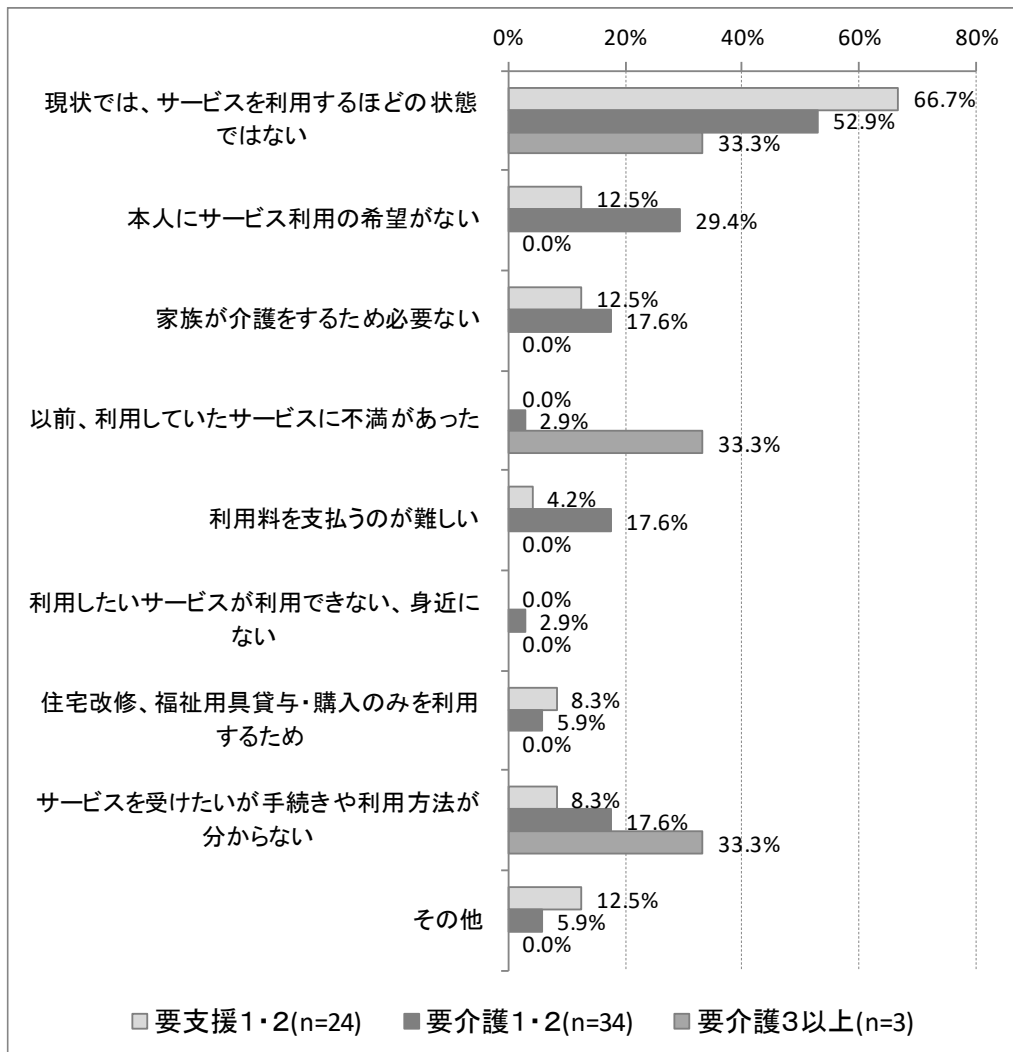
図表5-2 要介護度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)



【要介護度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「その他」が12.5%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が8.3%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が52.9%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が29.4%、「家族が介護をするため必要ない」、「利用料を支払うのが難しい」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が17.6%となっている。「要介護3以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が33.3%と最も割合が高くなっている。

図表5-3 要介護度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)

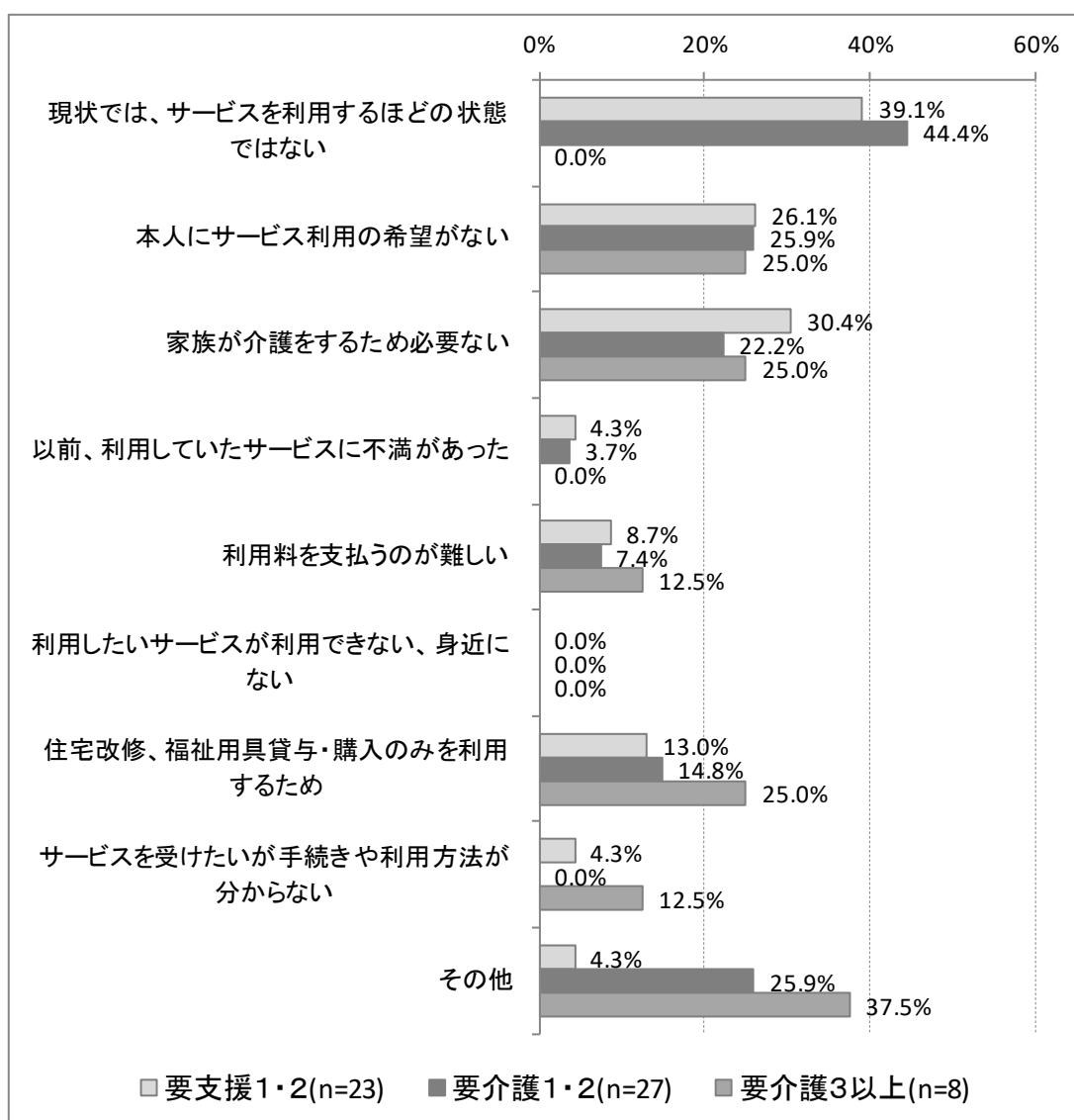




【要介護度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が39.1%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が30.4%、「本人にサービス利用の希望がない」が26.1%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が44.4%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「その他」が25.9%、「家族が介護をするため必要ない」が22.2%となっている。「要介護3以上」では「その他」が37.5%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が25.0%、「利用料を支払うのが難しい」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が12.5%となっている。

図表5-4 要介護度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)

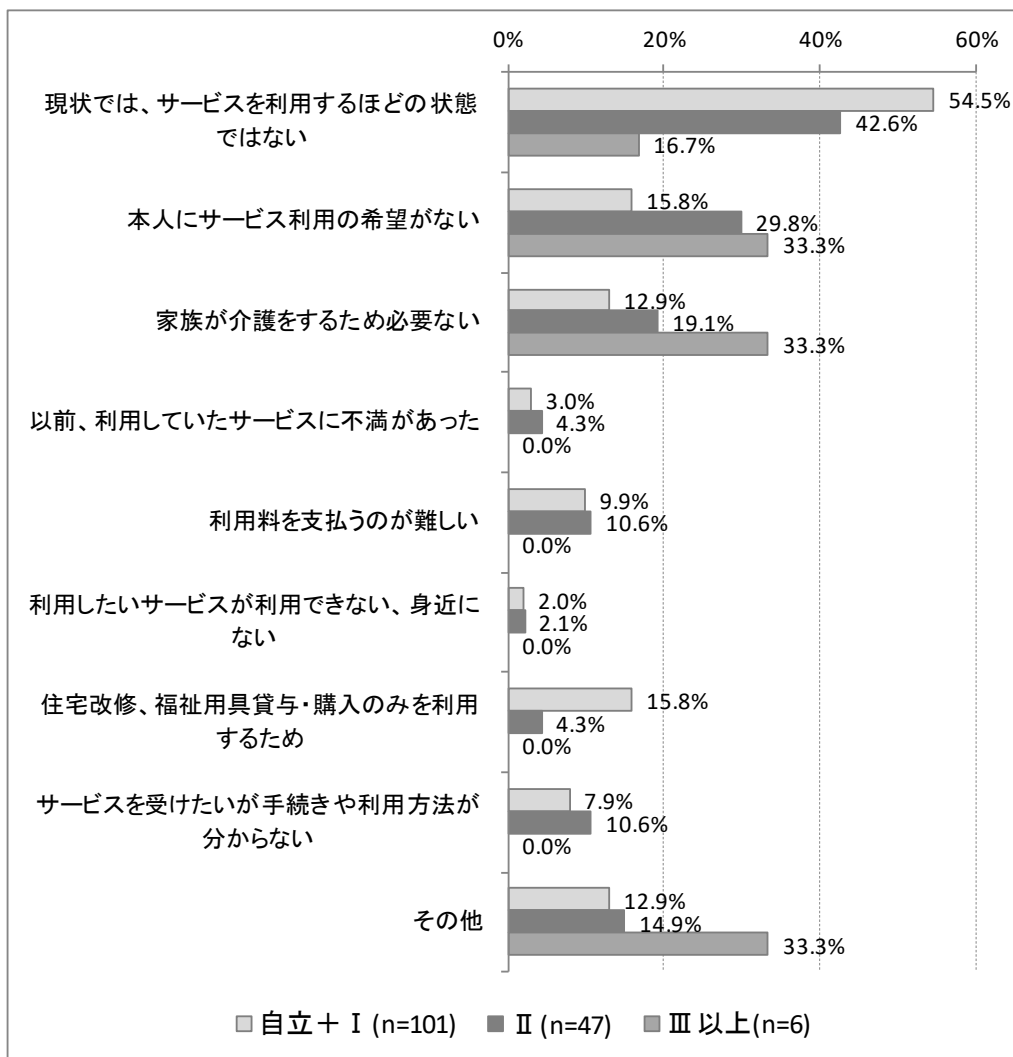


(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【認知症自立度別の★サービス未利用の理由】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が54.5%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が15.8%、「家族が介護をするため必要ない」、「その他」が12.9%となっている。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が42.6%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が29.8%、「家族が介護をするため必要ない」が19.1%となっている。「Ⅲ以上」では「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「その他」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が16.7%となっている。

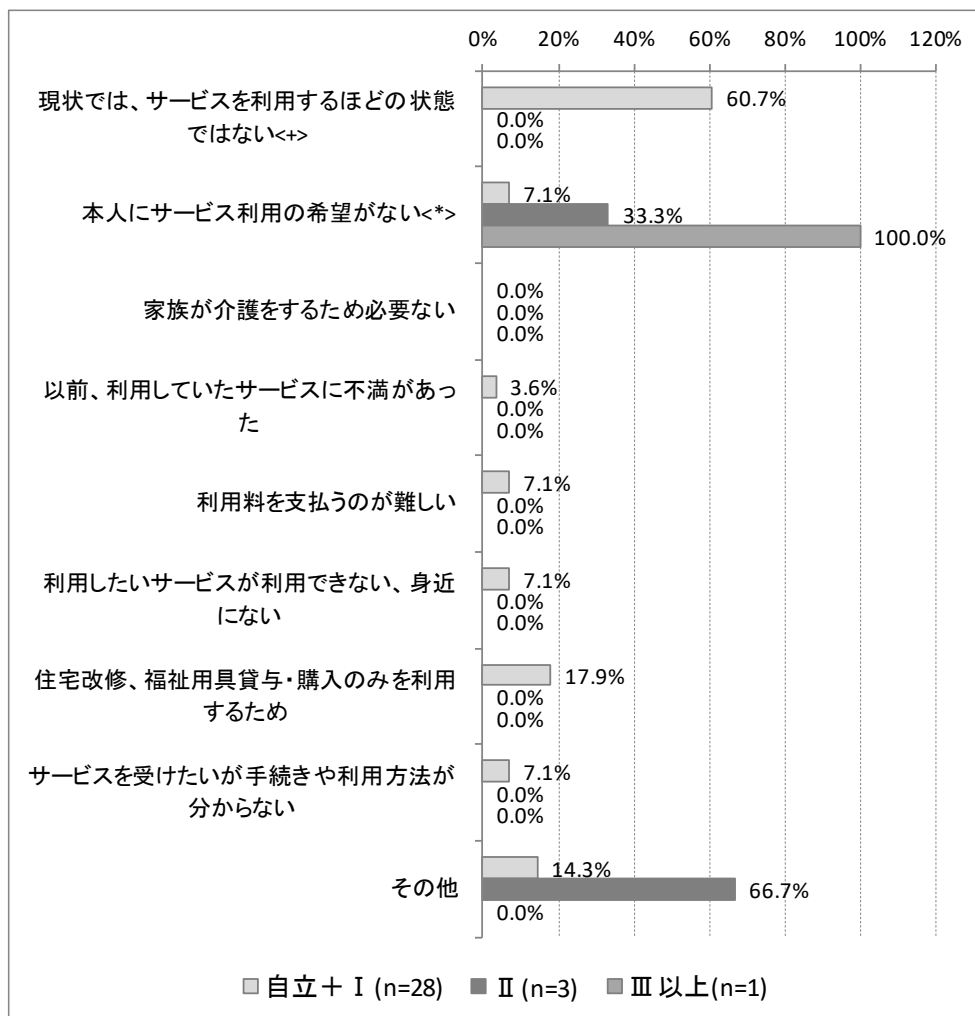
図表5-5 認知症自立度別の★サービス未利用の理由



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が60.7%ともっとも割合が高く、次いで「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が17.9%、「その他」が14.3%となっている。「Ⅱ」では「その他」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が33.3%となっている。「Ⅲ以上」では「本人にサービス利用の希望がない」が100.0%ともっとも割合が高くなっている。

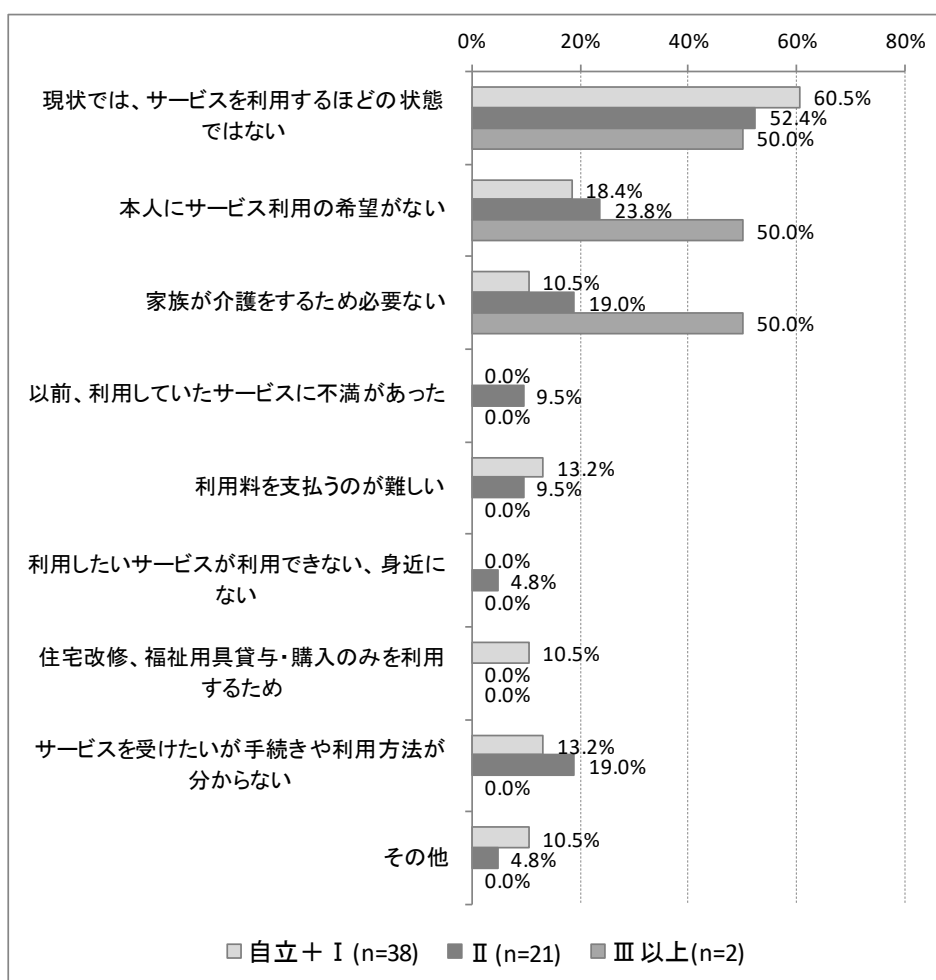
図表5-6 認知症自立度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が60.5%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が18.4%、「利用料を支払うのが難しい」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が13.2%となっている。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が52.4%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が23.8%、「家族が介護をするため必要ない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が19.0%となっている。「Ⅲ以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」が50.0%と最も割合が高くなっている。

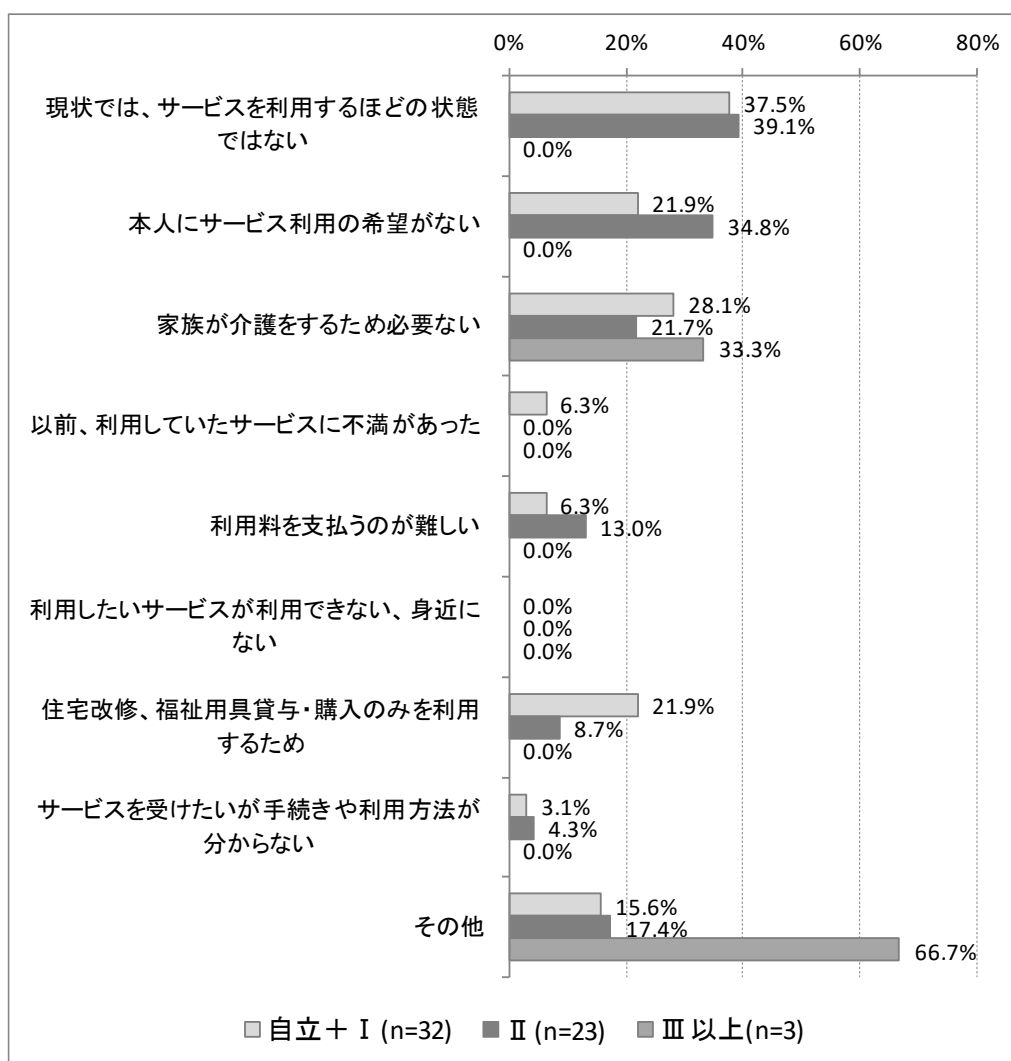
図表5-7 認知症自立度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が37.5%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が28.1%、「本人にサービス利用の希望がない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が21.9%となっている。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が39.1%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が34.8%、「家族が介護をするため必要ない」が21.7%となっている。「Ⅲ以上」では「その他」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が33.3%となっている。

図表5-8 認知症自立度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)

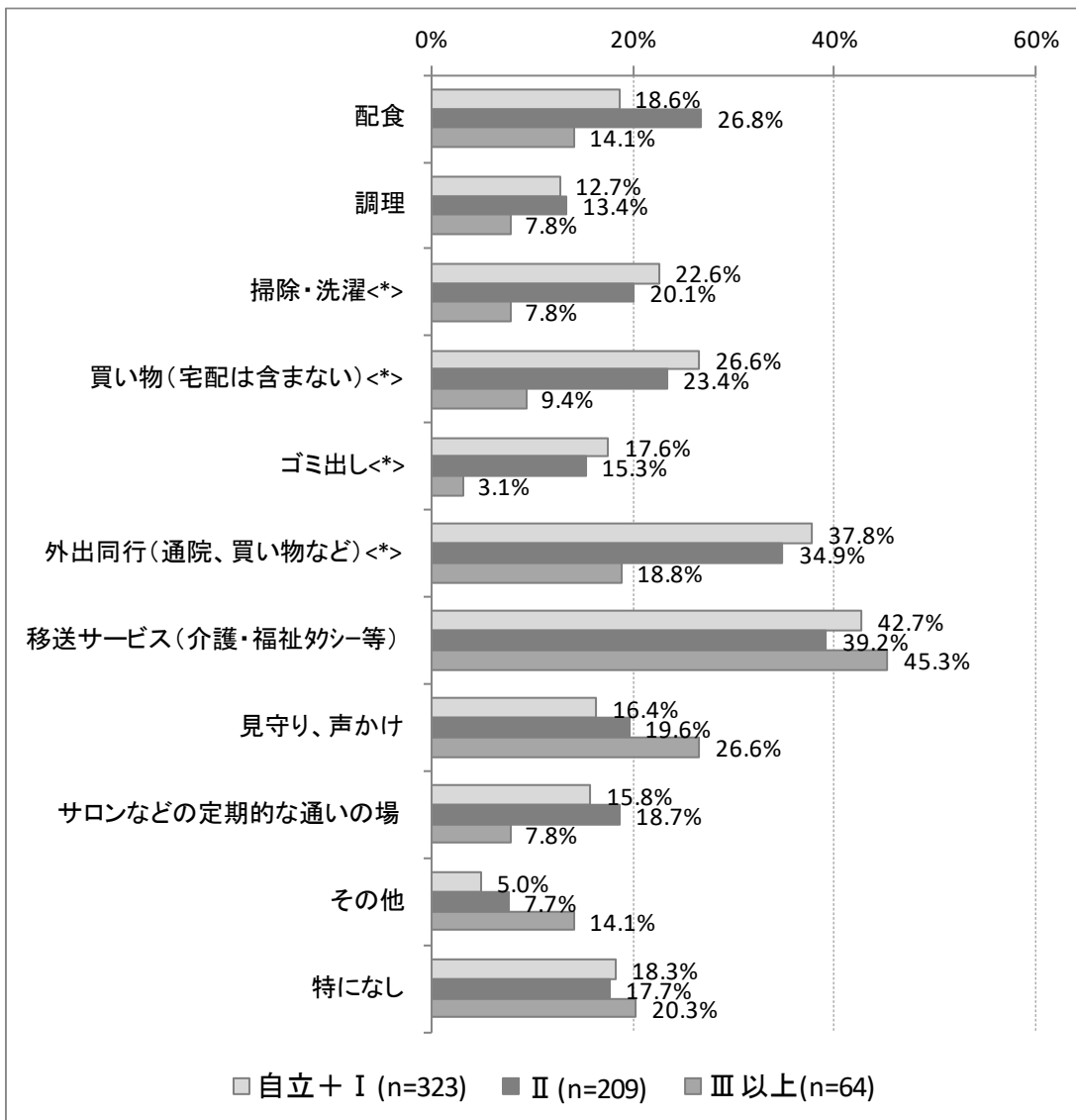


(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要なと感じる支援・サービス

【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が42.7%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が37.8%、「買い物(宅配は含まない)」が26.6%となっている。「Ⅱ」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が39.2%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が34.9%、「配食」が26.8%となっている。「Ⅲ以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が45.3%ともっとも割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が26.6%、「特になし」が20.3%となっている。

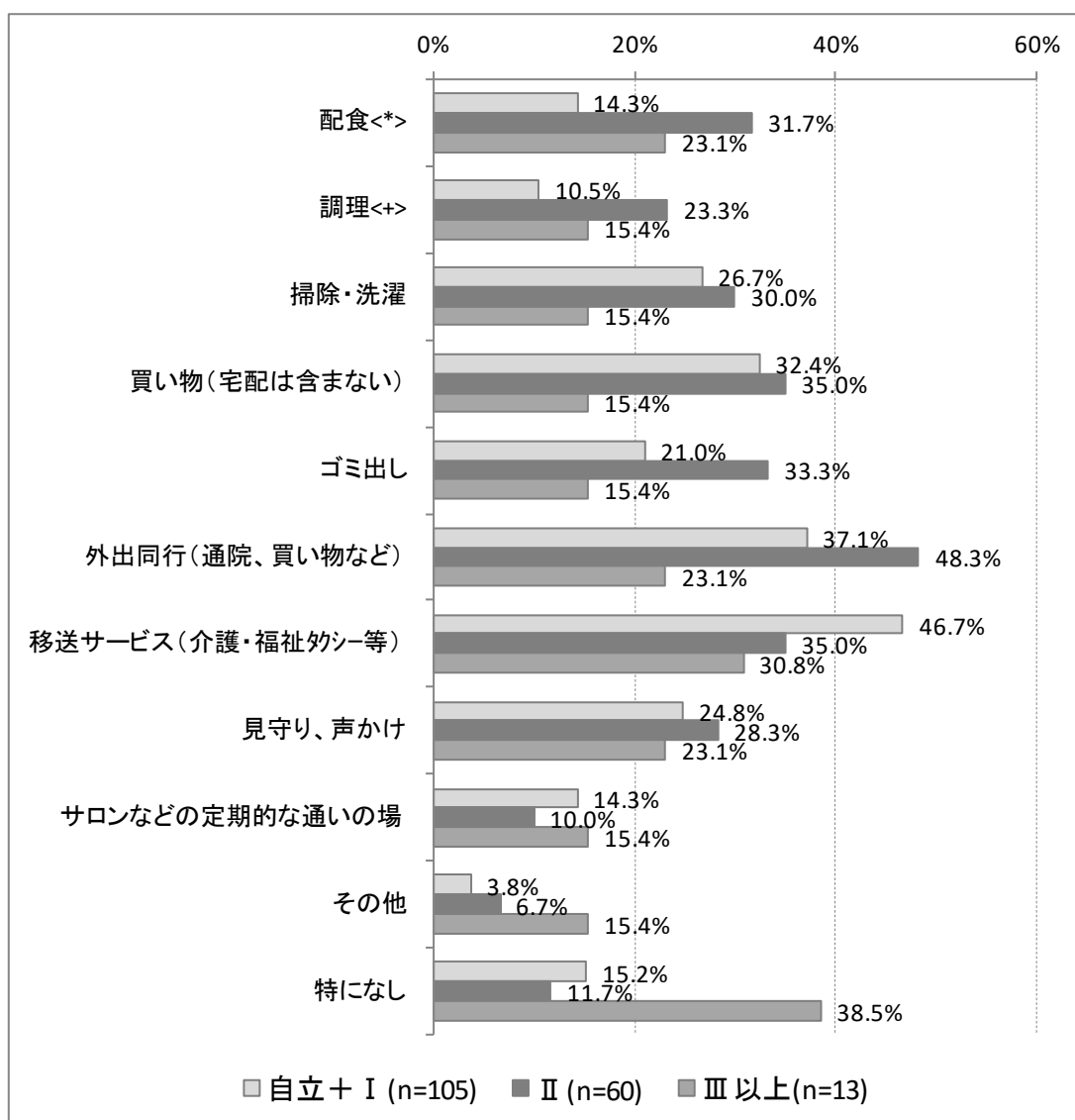
図表5-9 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が46.7%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が37.1%、「買い物(宅配は含まない)」が32.4%となっている。「Ⅱ」では「外出同行(通院、買い物など)」が48.3%ともっとも割合が高く、次いで「買い物(宅配は含まない)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が35.0%、「ゴミ出し」が33.3%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が38.5%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が30.8%、「配食」、「外出同行(通院、買い物など)」、「見守り、声かけ」が23.1%となっている。

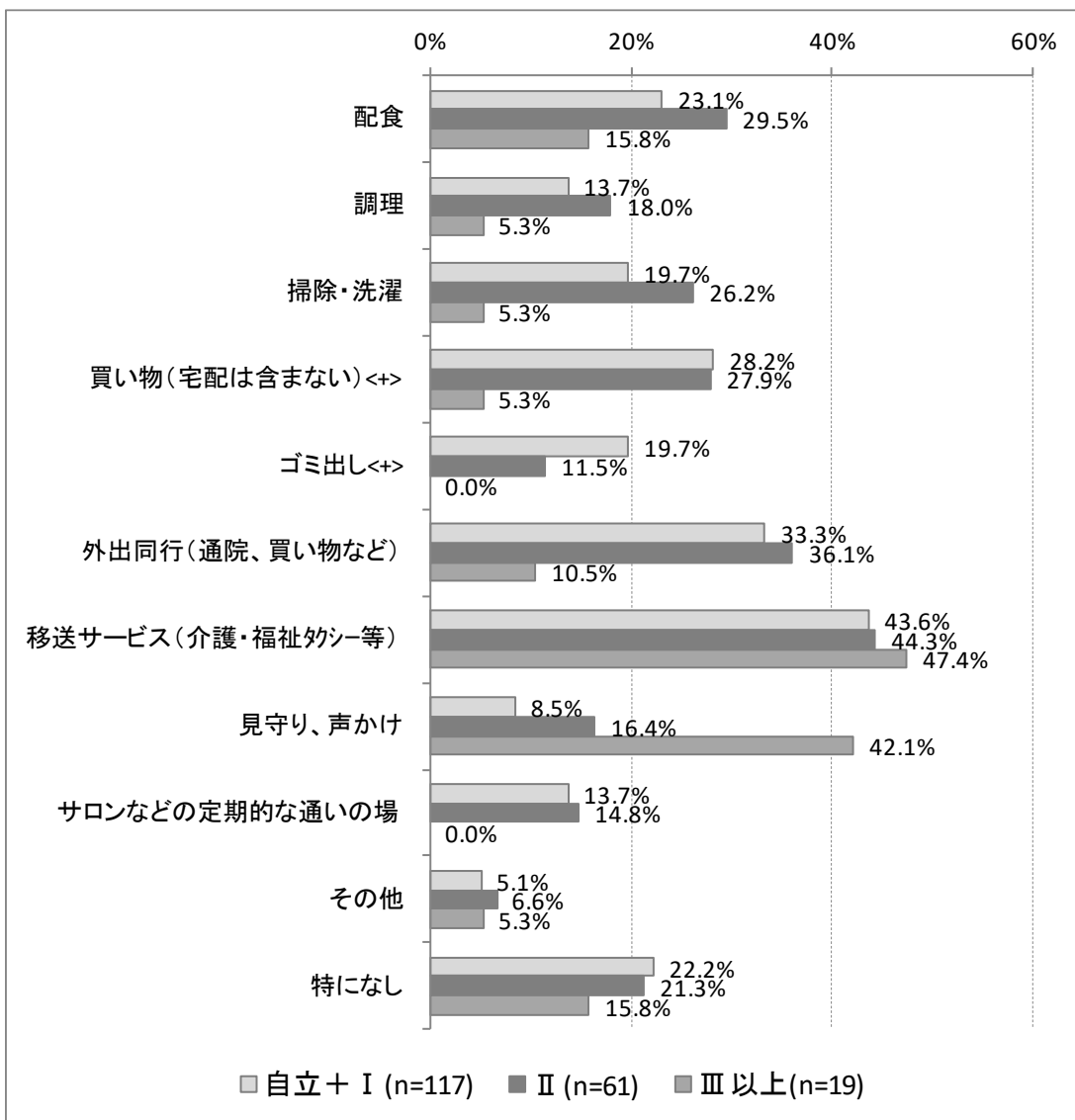
図表5-10 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が43.6%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が33.3%、「買い物(宅配は含まない)」が28.2%となっている。「Ⅱ」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が44.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が36.1%、「配食」が29.5%となっている。「Ⅲ以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が47.4%ともっとも割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が42.1%、「配食」、「特になし」が15.8%となっている。

図表5-11 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)

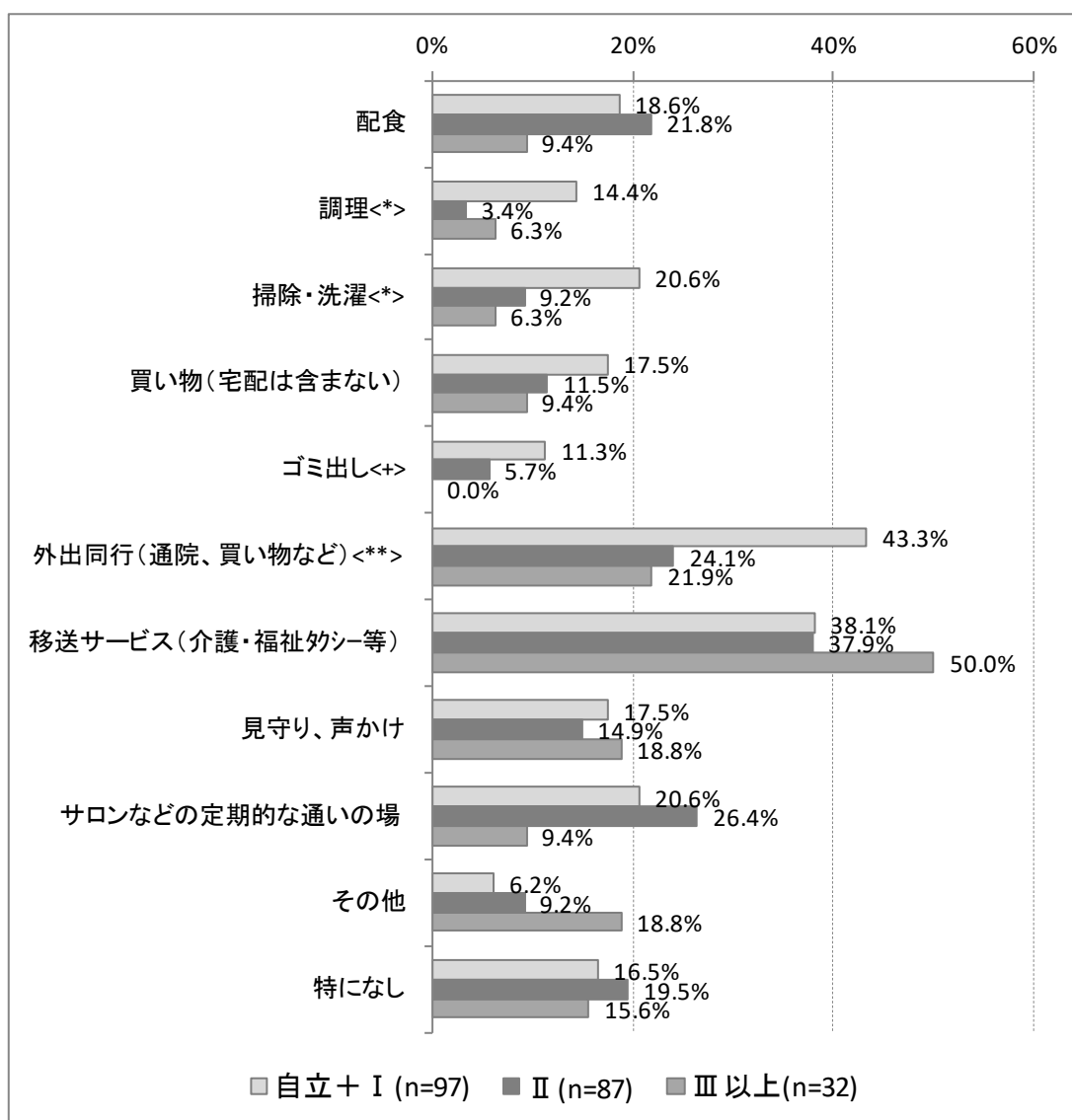




【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「外出同行(通院、買い物など)」が43.3%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が38.1%、「掃除・洗濯」、「サロンなどの定期的な通いの場」が20.6%となっている。「Ⅱ」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が37.9%ともっとも割合が高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が26.4%、「外出同行(通院、買い物など)」が24.1%となっている。「Ⅲ以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が21.9%、「見守り、声かけ」、「その他」が18.8%となっている。

図表5-12 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)

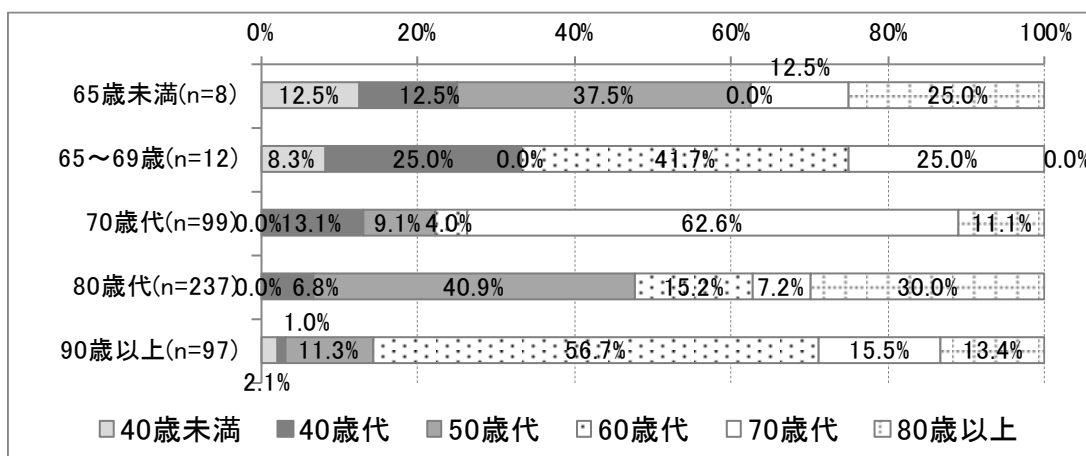


(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「65歳未満」では「50歳代」が37.5%ともっとも割合が高く、次いで「80歳以上」が25.0%、「40歳未満」、「40歳代」、「70歳代」が12.5%となっている。「65～69歳」では「60歳代」が41.7%ともっとも割合が高く、次いで「40歳代」、「70歳代」が25.0%、「40歳未満」が8.3%となっている。「70歳代」では「70歳代」が62.6%ともっとも割合が高く、次いで「40歳代」が13.1%、「80歳以上」が11.1%となっている。「80歳代」では「50歳代」が40.9%ともっとも割合が高く、次いで「80歳以上」が30.0%、「60歳代」が15.2%となっている。「90歳以上」では「60歳代」が56.7%ともっとも割合が高く、次いで「70歳代」が15.5%、「80歳以上」が13.4%となっている。

図表5-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢<\*\*\*>



取手市  
在宅介護実態調査  
結果報告書

---

発行：令和5年8月

編集：取手市 高齢福祉課

---